

講義コード	U200102102	科目ナンバリング	021B110
講義名	経営学総論(経済学科)		
副題	経営体系の実践理解の為の基礎講座		
英文科目名	Introduction to Business Administration		
担当者名	竹内 上人		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 西2-504		

授業概要

この講座の目的は、経営について経営管理システムの全体像を基軸に置き、経営の枠組みを通じて、学生のキャリア開発プロセスと融合させ、より実践的に経営という概念を学ぶことを目的としています。また、適時、企業経営者や経営層経験者の方をゲストスピーカーとしてお招きして、理論と実践の融合からの経営についての理解を深めます

到達目標

経営管理の基本的な構造を理解し、より実践的な事例をベースに事業戦略策定プロセス及び経営資源管理や組織マネジメントについて基本的な枠組みの理解できる水準を目指します。また経営のフレームワークの理解を深める為に、学生それぞれのキャリアを事業として見立て、自分自身をどのようにマネジメントしてキャリア設計に対処するかについての理解を深めることを目的とします

授業内容

実施回	内容
第1回	経営の目的
第2回	経営システムの構造
第3回	事業領域の設定 - 1
第4回	事業領域の設定 - 2
第5回	事業領域の設定 - 3
第6回	外部環境分析(市場環境分析 マクロ)-1
第7回	外部環境分析(市場環境分析 マクロ)-2
第8回	外部環境分析(市場環境分析 業界)-2
第9回	外部環境分析(市場環境分析 業界)-2
第10回	外部環境分析(競合分析)-1
第11回	外部環境分析(競合分析)-2
第12回	内部環境分析(自社経営資源分析)-1
第13回	内部環境分析(自社経営資源分析)-2
第14回	顧客価値創造プロセス-1
第15回	顧客価値創造プロセス-2
第16回	顧客価値創造プロセス-3(企業事例)
第17回	顧客価値創造プロセス-4(企業事例)
第18回	事業構造目標の策定と管理-1
第19回	事業構造目標の策定と管理-2
第20回	事業構造目標の策定と管理-3
第21回	ビジネスモデル(ビジネスシステムと収益モデル)-1
第22回	ビジネスモデル(ビジネスシステムと収益モデル)-2
第23回	中長期商品ロードマップ
第24回	中長期技術開発ロードマップ
第25回	品質保証体系-1
第26回	品質保証体系-2
第27回	.中長期販売戦略と販売会社マネジメント
第28回	中長期製造戦略と製造会社マネジメント
第29回	経営総論総括-1
第30回	経営総論総括-2

授業計画コメント

次世代の経営人材に求められる資質日手理解を深める構成であり、経営体系を学びながら自身のキャリア設計と照らし合わせて講義を進めます

授業方法

基本的な経営理論を実践的な事例をベースに構成し、適時経営経験がある人材をゲストスピーカーに招聘し、リアルな経営理論の

体得を目指します。
グループワークを取り入れ、より参画型の講義形式で講座マネジメントを行います

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講義の進捗に合わせて、授業理解を深める為、必要に応じて1時間程度の適時事前学習を提示します

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト	10 %	
レポート	10 %	
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

講義内容の理解度と自分自身への持論への展開の独創性と明確化に評価の焦点を置きます
試験、テスト、レポート、出席率、グループ活動の参画度を総合的に評価いたします

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験及び課題に関するフィードバックは採点及び、課題評価後に講義の中で、総括方式でフィードバックいたします。個別の質問に関しては、授業前後の時間を活用して、個別に質疑応答を行います

教科書

経験から学ぶ経営学入門 第2版,上林 憲雄(著) 他,有斐閣ブックス,2,2018

教科書コメント

企業社会での経験がない学生にとって経営の現実が実感できるよう,工夫された書籍。企業経営の全体像を分かりやすく理解できる経営学の入門書になります

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210100101	科目ナンバリング	021A110
講義名	○基礎ミクロ経済学		
副題	ミクロ経済学初級コース		
英文科目名	Microeconomics (Basic Course)		
担当者名	神戸 伸輔		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 1時限 西5-201.第1学期 水曜日 2時限 西5-201		

授業概要

ミクロ経済学では市場経済の仕組みを、経済主体の最適化行動とそれの市場での相互作用と考えて理解する。この講義では微分積分行列などの数学は使わず、図や言葉によりこれらの概念を学ぶことを目的とする。

到達目標

ミクロ経済学の基礎的な概念と分析方法を習得する。図を使って、市場の分析ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	1. ミクロ経済学について
第2回	1-1. ミクロ経済学とは
第3回	1-2. ミクロ経済学と数学
第4回	2. 需要と供給の均衡分析
第5回	2-1. 需要と供給
第6回	2-2. 価格弾力性
第7回	2-3. 完全競争市場と市場均衡
第8回	2-4. 比較静学
第9回	3. 消費者行動
第10回	3-1. 効用と無差別曲線
第11回	3-2. 限界代替率
第12回	3-3. 予算制約と効用最大化
第13回	3-4. 所得効果と代替効果
第14回	3-5. 価格の変化の効果
第15回	4. 企業行動
第16回	4-1. 生産関数
第17回	4-2. 生産量と費用・いろいろな費用の性質
第18回	4-3. 利潤最大化
第19回	4-4. 長期と短期
第20回	5. 余剰分析
第21回	5-1. 余剰分析の仕方
第22回	5-2. 市場均衡と余剰
第23回	5-3. 余剰分析の応用
第24回	5-4. 余剰分析と弾力性
第25回	6. 純粋交換経済での一般均衡分析
第26回	6-1. エッジワースのボックス・ダイアグラム
第27回	6-2. 純粋交換経済の市場均衡
第28回	6-3. パレート効率性と市場の最適性
第29回	理解度の確認
第30回	総括

授業計画コメント

今年度は、週2回、講義を行う。

授業方法

講義を行い、適宜練習問題を課す。講義中は、配布された資料に沿って補足説明をすることで、理解を高めるようにする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回ごとに復習を行い、配布する練習問題や過去問題を解く(各回約90分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	40 %	講義中に中間試験とミニテストを行う。
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

ミクロ経済学の概念をきちんと理解しているか、そして、ミクロ経済学の用語を適切に使えるかを、試験やミニテストを通して確認する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

練習問題とミニテストおよび中間試験の解説は講義中に行う。学年末試験の解説はWEBサイトを通じて行う。

教科書

ミクロ経済学をつかむ,神戸伸輔、濱田弘潤、寶多康弘,有斐閣,2006,9784641177000

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210101101	科目ナンバリング	021A111
講義名	基礎マクロ経済学		
英文科目名	Macroeconomics (Basic Course)		
担当者名	滝澤 美帆		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 南3-201		

授業概要

世界を見渡すととても豊かな国がある一方で、貧しいままの国がある。また、例えば豊かな国においても経済状態が良くなったり悪くなったりする。基礎マクロ経済学では、一国全体の豊かさやそれに関連する指標の変動がどうして起こるのかを学ぶための基礎的な知識の習得を目指す。加えて経済学は、現実の経済を対象とする学問であるため、経済学を学ぶ上では、理論と現実をバランス良く学んでいかなければならない。現実の経済を見る上で、データは強力な武器となる。本講義では、現実の日本経済の姿を、主にマクロデータを通じて読み解いていく。

到達目標

- ・講義内で説明するマクロ経済学に関連する用語(GDP、名目、実質など)を正しく理解し、他者に説明できる
- ・現実の経済で起きている現象を、(粗削りながらも)基礎的なマクロ経済学の知識で自分の言葉で説明できる

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション～履修上の注意の説明、マクロ経済学とは
第2回	マクロ経済学の枠組み
第3回	統計数字でみるマクロ経済
第4回	国民経済計算の仕組み:国民経済計算とは
第5回	国民経済計算の仕組み:三面等価
第6回	国民経済計算の仕組み:貯蓄・投資バランス、名目と実質
第7回	国民経済計算に関する復習テスト
第8回	景気循環を調べる
第9回	潜在GDPとGDPギャップ
第10回	経済成長:生産関数
第11回	経済成長:成長会計
第12回	経済成長:簡単な成長理論
第13回	労働市場:日本の労働市場
第14回	労働市場:労働需要・労働供給、ベバレッジ曲線
第15回	理解度の確認
第16回	消費と貯蓄:現在と将来の消費
第17回	消費と貯蓄:様々な消費理論
第18回	設備投資:投資とは何か
第19回	設備投資:様々な投資理論
第20回	財・サービス市場における需要と供給の一致:総需要・総供給
第21回	財・サービス市場における需要と供給の一致:所得・支出アプローチ
第22回	財・サービス市場における需要と供給の一致:乗数効果
第23回	消費、設備投資、総需要・総供給に関する復習テスト
第24回	金融市場:貨幣とは
第25回	金融市場:貨幣需要・貨幣供給
第26回	金融市場:株価・為替レートの決まり方
第27回	マクロ経済体系:新古典派のマクロ経済体系
第28回	マクロ経済体系:IS・LM分析
第29回	財政・金融政策
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

★第1回目の授業で進め方の説明をするので出席すること★

授業方法

教科書『グラフィックマクロ経済学 第2版』に沿った内容で講義を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前学習:次週講義する内容を教科書を使って予習をすること(30分程度～)

事後学習:講義内容の復習、教科書の章末問題や関連する問題を解くこと(30分程度～)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	20 %	復習テスト
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績は、復習テスト(中間テスト)、学期末試験、学年末試験の結果で評価する。

第1学期(学期末試験):40%、第2学期(学年末試験):40%、復習テスト(中間テスト)2回で20%の配分とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義に関連する問題を出題し、それについて解説をする。

Manabaを用いて関連問題を出題し、受講者の理解度(正答率)をみて、その後の講義の進め方を調整する。

教科書

グラフィック マクロ経済学 第2版,宮川 努・滝澤 美帆,新世社,第2版,2011

参考文献

ジョーンズ マクロ経済学I, II,チャールズ・ジョーンズ、宮川他訳,東洋経済新報社,2011

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210103101	科目ナンバリング	021A113
講義名	経済情報入門Ⅱ		
英文科目名	Modern Guide to Economics Ⅱ		
担当者名	棕 寛,赤司 健太郎,石井 晋,清水 順子,清水 大昌,鈴木 亘,田中 勝人,西村 淳一,眞嶋 史叙,三井 清,宮川 努,脇坂 明,和光 純		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 西5-201		

授業概要

経済学科の専任教員がそれぞれの専門分野からトピックを選び講義する。特に各分野において「情報」がどのような役割を果たしているかが重要なテーマである。各教員の専門分野や講義スタイル等を知ることができ、1年生にとっては良い機会となる。

到達目標

1年生の講義を担当していない専任教員の専門分野における基礎知識などを広く知ることで、2年次以降の履修計画をたてる際に役立てる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンスと研究倫理
第2回	計量経済学への誘い
第3回	国際貿易と通商政策
第4回	財政学の紹介
第5回	為替相場の予想と情報
第6回	社会保障と財政危機
第7回	消費社会のデータ分析
第8回	統計学的な見方・考え方
第9回	科学としての経済学-思考法とその応用-
第10回	金融政策と景気
第11回	ファイナンス経済学の紹介
第12回	わかっているでもやめられない-悪い政策の経済理論
第13回	終身雇用・年功賃金
第14回	情報構造と行動-情報入手はどれだけ得か-
第15回	まとめ

授業計画コメント

上記の授業計画は必ずしも順番どおりに行われるわけではなく、またテーマが変更されることもある。詳しくは初回のガイダンスで紹介する。

授業方法

各教員が順番に講義をするオムニバス方式で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に各教員の専門分野の概要について調べておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	95 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

受講者数が多いので、私語等で注意を受けぬよう心掛けること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に例題等の解説を行う。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

1年次での履修を勧める。経済学科学生必修科目であるため、必ず履修すること。第2学期の授業であるが、4月の履修登録のときに履修申告しておくことが望ましい。また、「経済情報入門Ⅲ」(初等情報処理2)の履修と間違えないように十分に注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210104201	科目ナンバリング	021A120
講義名	統計学入門 I		
英文科目名	Introduction to Statistics I		
担当者名	福地 純一郎		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 金曜日 1時限 西5-201		

授業概要

統計学とは、関心の対象からデータを抽出し分析を行い結論を導き出す客観的な方法であり、自然科学、社会科学を問わず広く利用されている。特に経済学科の学生にとっては、統計学入門 I、II を履修し、さらに統計学や計量経済学などを学ぶことによって経済データを分析する方法を身につければ、ゼミ、大学院さらに企業や研究所において説得力のある分析を行うことができる。数学を学ぶことで理解が深まるので、「経済数学 I」および「経済数学 II」を履修することを勧める。統計学入門 I は統計検定3級の内容と連続型確率変数の内容に対応している。

到達目標

統計学の初歩を学ぶ。高校で学んだデータ分析の基礎から始め、様々な手法を学ぶ。統計検定3級に合格できる力を身に付ける。

授業内容

実施回	内容
第1回	統計学とは何か。その目的と重要性
第2回	1変数データの分析
第3回	2変数データの分析(散布図、共分散、散布図)
第4回	分割表の分析(モザイク図)
第5回	回帰分析(最小2乗法)
第6回	回帰分析
第7回	確率
第8回	確率
第9回	積分(不定積分、定積分)
第10回	広義積分
第11回	確率変数(離散型確率変数)
第12回	確率変数(連続型確率変数、確率密度関数)
第13回	確率変数の期待値と分散
第14回	複数の確率変数
第15回	まとめ

授業方法

主に講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業一回につき30～90分の復習および予習が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	90 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	10 %	コンピュータを用いた課題

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題や試験については正答を公表する。

教科書コメント

教科書は第1回の授業で指定する。

その他

【単位修得上の注意】(1) 平成29年度以前入学者については、「統計学入門 I」及び「統計学入門 II」の単位(各2単位)を両方とも修得した場合のみ、「統計学入門」の単位(4単位)を修得したこととする。どちらか一方のみの単位を修得しても随意科目の単位修得となるので注意すること。(2) 平成29年度以前入学者で「統計学入門」(4単位)の単位を修得している学生は「統計学入門 I」の単位は修得できない。(3) 履修希望者は、第1回目授業を欠席した場合でも、それ以降の授業に必ず出席して、本授業の受講方法をきちんと把握すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210104301	科目ナンバリング	021A121
講義名	統計学入門Ⅱ		
英文科目名	Introduction to Statistics II		
担当者名	福地 純一郎		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 金曜日 1時限 西5-201		

授業概要

統計学とは、関心の対象からデータを抽出し分析を行い結論を導き出す客観的な方法についての学問であり、広範な科学分野で利用されている。特に経済学科の学生にとっては、統計学入門Ⅰ、Ⅱを履修し、さらに統計学や計量経済学などを学ぶことにより、説得力のある分析ができるようになる。数学を学ぶことで理解が深まるので、「経済数学Ⅰ」および「経済数学Ⅱ」を履修することを勧める。統計学入門Ⅱは統計検定2級の内容の一部をカバーしている。

到達目標

確率、確率変数、推定・仮説検定などの統計的推測について学ぶ。

授業内容

実施回	内容
第1回	統計的推測とは何か
第2回	複数の確率変数
第3回	複数の確率変数(確率変数の和の分布、期待値)
第4回	複数の確率変数(確率変数の和の分布、期待値)
第5回	大数の法則と中心極限定理
第6回	統計的推測(母集団と無作為標本)
第7回	点推定と区間推定
第8回	点推定と区間推定
第9回	仮説検定(1標本問題)
第10回	仮説検定(1標本問題)
第11回	仮説検定(2標本問題)
第12回	仮説検定(2標本問題)
第13回	回帰分析
第14回	回帰分析
第15回	まとめ:統計学と機械学習について

授業方法

主に講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業一回につき約1時間の復習および予習が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	90 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	10 %	コンピュータを用いた課題

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題や試験については正答を公表する。

履修上の注意

毎回授業に出席することが重要である。

その他

【単位修得上の注意】(1)平成29年度以前入学者については、「統計学入門Ⅰ」及び「統計学入門Ⅱ」の単位(各2単位)を両方とも修得した場合のみ、「統計学入門」の単位(4単位)を修得したとすること。どちらか一方のみの単位を修得しても随意科目の単位修得となるので注意すること。(2)平成29年度以前入学者で「統計学入門」(4単位)の単位を修得している学生は「統計学入門Ⅱ」の単位は修得できない。(3)履修希望者は、第1回目授業を欠席した場合でも、それ以降の授業に必ず出席して、本授業の受講方法をきちんと把握すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210201101	科目ナンバリング	021A116
講義名	一般経済史		
英文科目名	General Economic History		
担当者名	眞嶋 史叙		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 西2-402		

授業概要

「豊かな国」で日常生活を送っている現代の学生のみなさんが、以下のような問題意識をもって、ミクロ・マクロ経済学の応用編としての経済史学に取り組みます。(1) 工業化社会はどのように発達してきたか。なぜ英国で工業化が始まったのか。(2) 経済発展における政府や政治の役割はどのようなものであったか。(3) 技術革新そして経済成長の要因は何であったか。(4) なぜ世界の一部の国々は他に比べて経済的に裕福であるのか。(5) グローバル化における消費や文化の役割はどのようなものであったか。

到達目標

10世紀から21世紀までの世界経済の発展過程を学び、様々な経済史家・歴史家・経済学者の見解の共通点と相違点をふまえた上で、自らの考えをもって、適切な論述法により議論ができるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	グローバル経済史の手法(1)「豊かな国」と「貧しい国」とは? Happiness の経済学
第2回	グローバル経済史の手法(2)経済史学の伝統と最近の動向
第3回	グローバル経済史の手法(3)経済史学における経済学の応用
第4回	中間レポートに関する指導(テーマ選び・執筆体裁指導・文章表現力指導)
第5回	大いなる分岐:「豊かな国」と「貧しい国」のルーツをたどる
第6回	競争—中国との対比
第7回	西洋の勃興:最初のグローバル化
第8回	科学—オスマン帝国との対比 勤勉—プロテスタンティズムの拡大?
第9回	産業革命:なぜイギリスではじまったのか?
第10回	大英帝国—富の追求
第11回	持続的経済成長の要因(1)アダム・スミスの経済成長
第12回	持続的経済成長の要因(2)マルサスの罫とボーズラップ的経済成長
第13回	持続的経済成長の要因(3)ソロー的経済成長
第14回	持続的経済成長の要因(4)シュンペーター的経済成長
第15回	中間レポート発表会
第16回	工業化の標準モデル—ドイツとアメリカのキャッチアップ
第17回	偉大なる帝国:インドの工業化の挫折
第18回	大英帝国—フェアプレイ精神?
第19回	南北アメリカ:なぜ南北格差が生じたのか
第20回	私有財産—南北アメリカの対比
第21回	アフリカ:なぜ貧しいままなのか?
第22回	医学—アフリカの場合
第23回	後発工業国と標準モデル:帝政ロシアと近代日本のキャッチアップ
第24回	エジプト:産業革命を起こしたか?
第25回	大英帝国—覇権の味
第26回	ビッグプッシュ型工業化:ソ連と戦後日本と東アジアの奇跡
第27回	消費社会—イスラム圏の抵抗?
第28回	[総括] なぜイギリスで産業革命が起きたか
第29回	ミニレポートの返却および解説・質疑応答
第30回	学年末試験の説明・試験対策勉強法の指導

授業計画コメント

特に専門的知識を必要とはしませんが、経済的また歴史的なモノの考え方ができると有利です。需要と供給、比較優位、限界費用などの経済概念を利用するので、聞きなれない学生は入門経済学概説書を参照すること。また、参考文献・レポート・筆記試験の詳細に関しては、授業ウェブサイトをも参考にすること。

授業方法

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業時間前に教科書の該当箇所を読んでおくこと(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト	30 %	ミニレポート×6回
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ミニレポートおよびレポートは、コメントを付して返却します。

教科書

Global Economic History, R. C. Allen, Oxford University Press, 2011

なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか, R. C. アレン, NTT出版, 2012

British Industrial Revolution in Global Perspective, R. C. Allen, Cambridge University Press, 2009

世界史のなかの産業革命, R. C. アレン, 名古屋大学出版会, 2017

参考文献

文明: 西洋が覇権をとれた6つの真因, N. ファーガソン, 勁草書房, 2012

概説 世界経済史 I と II, R. キャメロンとL. ニール, 東洋経済新報社, 2013

Empire: What Ruling the World Did to the British, Jeremy Paxman, Penguin Press, 2011

Civilization: The West and the Rest, Niall Ferguson, Penguin Press, 2011

Power and Plenty, R. Findlay and K. H. O'Rourke, Princeton University Press, 2007

参考文献コメント

その他、授業時に指示します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210202101	科目ナンバリング	021A117
講義名	日本経済史		
英文科目名	History of the Japanese Economy		
担当者名	石井 晋		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 1時限 西5-303		

授業概要

20世紀の日本経済史を講義する。対象年代はおよそ1900-1970年代。史料、データ、ビデオなどを使用し、多面的に経済史の概要を解説する。

到達目標

経済史学におけるさまざまな研究テーマについて学ぶことで、複雑な要因が作用する経済についての多様な見方があることを体験する。また、歴史的な真実を主張するためには適切な手続きに基づいた実証が必須であることを学ぶ。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	明治末期の産業発展
第3回	20世紀初頭～戦間期の日本経済(1)
第4回	20世紀初頭～戦間期の日本経済(2)
第5回	20世紀初頭～戦間期の日本経済(3)
第6回	20世紀初頭～戦間期の日本経済(4)
第7回	20世紀初頭～戦間期の日本経済(5)
第8回	20世紀初頭～戦間期の日本経済(6)
第9回	20世紀初頭～戦間期の日本経済(7)
第10回	戦時経済(1)
第11回	戦時経済(2)
第12回	戦時経済(3)
第13回	戦時経済(4)
第14回	戦時経済(5)
第15回	戦時経済(6)
第16回	戦時経済(7)
第17回	敗戦と復興－戦後改革、経済復興と朝鮮戦争(1)
第18回	敗戦と復興－戦後改革、経済復興と朝鮮戦争(2)
第19回	敗戦と復興－戦後改革、経済復興と朝鮮戦争(3)
第20回	敗戦と復興－戦後改革、経済復興と朝鮮戦争(4)
第21回	敗戦と復興－戦後改革、経済復興と朝鮮戦争(5)
第22回	敗戦と復興－戦後改革、経済復興と朝鮮戦争(6)
第23回	高度成長期－重化学工業と企業の発展、人口移動と地域開発(1)
第24回	高度成長期－重化学工業と企業の発展、人口移動と地域開発(2)
第25回	高度成長期－重化学工業と企業の発展、人口移動と地域開発(3)
第26回	高度成長期－重化学工業と企業の発展、人口移動と地域開発(4)
第27回	高度成長期－重化学工業と企業の発展、人口移動と地域開発(5)
第28回	高度成長期－重化学工業と企業の発展、人口移動と地域開発(6)
第29回	1970年代
第30回	予備日

授業計画コメント

授業の進み具合によって、各回の内容は、シラバスから変更される場合がある。

授業方法

講義形式。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の授業は内容が豊富なので、各自、復習して、理解したことをまとめておくこと(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	45 %	
小テスト	55 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは、多くの本を読み、書評を書くこと。提出日は、1月を予定している。レポートを提出しなければ、小テストの点数が高い場合でも、確実に「不可」となる。

小テストは、事前予告せず、授業中に約6回、実施する。自分のノートや教科書・参考書を見ながら回答する形の論述問題となる。最低でも3回以上、小テストを受けなければならない。小テスト受験が2回以下の場合、レポートを提出した場合でも、確実に「不可」となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストについて、実施後に解説、採点を告知する方法でフィードバックを行う。

教科書

日本経済の歴史-列島経済史入門-,中西 聡(編),名古屋大学出版会,2013,978-4815807337

近現代日本経済史要覧,三和良一、原 朗,東京大学出版会,補訂版,2010,978-4130421362

教科書コメント

『近現代日本経済史要覧』は、授業の時によく使用するので、購入して、毎回、持ってくること。『日本経済の歴史-列島経済史入門-』も、できるだけ入手しておいた方が望ましい。

参考文献

「経済大国」への軌跡 1955～1985:講座・日本経営史,下谷政弘、鈴木恒夫,ミネルヴァ書房,2010,978-4623056996

高度成長期の日本経済--高成長実現の条件は何か,武田晴人,有斐閣,2011,978-4641163683

日本経済史,武田晴人,有斐閣,2019,978-4-641-16528-1

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210204101	科目ナンバリング	021A118
講義名	経済数学 I		
副題	経済学で使う数学の基礎を学ぶ I		
英文科目名	Mathematics for Economics I		
担当者名	河重 隆一郎		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 西2-402		

授業概要

本授業は、第2学期に開講される「経済数学Ⅱ」と合わせて、経済学の学習に役立つ数学の基礎を学びます。数学に対して苦手意識を持っている人もいます。そこで初歩に戻りながら、また、経済学における利用例を示しながら学習をすすめます。第1学期開講の本授業では、直線の式、2次関数、指数関数、対数関数といった基本的関数の性質、また、等差数列や等比数列の和の公式を学習し、その後に1変数関数の微分の意味とその方法について学びます。なお、「経済数学Ⅰ」と「経済数学Ⅱ」は1年次に履修することを勧めます。

到達目標

高校までに学んだ数学を復習し、経済学の初級から中級の授業で使用される数学的概念や数式の取扱いを、自分で説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:数学は好きですか?なぜ経済学に数学なんかが必要なのだろう。
第2回	記号を使った式
第3回	素数
第4回	因数分解
第5回	方程式
第6回	経済学で使う関数
第7回	関数の最大化
第8回	分数関数と無理関数
第9回	関数の生成と逆関数
第10回	数列とその極限(1)
第11回	数列とその極限(2)
第12回	指数・対数関数
第13回	微分(1)
第14回	微分(2)
第15回	理解度の確認

授業方法

基本的に講義形式で実施します。自習問題や配布したプリントは、計算機センターのWebサイト「WebClass」から常時取り出せるようになっています。本授業では、高校で数学Ⅱ・Bを履修しなかった人にとっては大学で初めて学習する内容が含まれるので、演習問題や宿題で解き方に慣れることを勧めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

翌週の授業に備えて、教科書の練習問題・授業で配布したプリントを復習しておいてください(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

WebClassの出席機能もちいて出席をとります。出席1回につき1点ずつ最大10点まで加算されます。マークシートによる宿題(レポート)および期末試験を行います。教科書とWebClassからダウンロード可能な演習問題の予習と復習を行ってください。試験は講義中にあった教科書と演習問題の内容から出題されます。参考図書等の講義中に扱っていない内容からの出題はしません。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

宿題や期末試験の解答と解説を、WebClass等の学内ネットワークを通じて、配布します。

教科書

経済数学入門―初歩から一歩ずつ,丹野忠晋,日本評論社,1,2017,978-4-535-55846-5

教科書コメント

本授業では指定の教科書を中心として、学習院で経済学を学ぶ上で足りない部分は資料を配布します。高校で使用した教科書が大変役に立ちますから、持っている人は持参してください。第2回の講義までに教科書は必ず準備しておいてください。

参考文献

経済数学 ―基礎と応用―,ウィリアム・ノブシエック著 奥口孝二・小林信二訳,多賀出版,1,1996,978-4811541914

Mathematics for Economists,Carl.P.Simon, Lawrence Blume,W.W.Norton & Company, Inc.,1993,978-0-393-95733-4

[改訂版]経済学で出る数学,尾山大輔・安田洋祐,日本評論社,2013,978-4-535-55659-1

経済学・経営学のための数学,岡田章,東洋経済新報社,2001,978-4-492-31298-8

参考文献コメント

『経済数学』は、大学院レベルのミクロ経済学で使用する数学をコンパクトにまとめた良書。『Mathmatics for Economists』は、英語の本ではあるものの基礎から丁寧に解説されているので数学がそれほど好きでない人にも読みこなすことができるうえに、英語の勉強にもなり一石二鳥の教科書。『経済学で出る数学』は、本講義の教科書よりも少し難易度があがるものの、ミクロ経済学の講義の副読本に最適。『経済学・経営学のための数学』は、大学院に入ってから役に立つ教科書。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

【単位修得上の注意】(1) 平成23年度以前入学者については、「経済数学Ⅰ」及び「経済数学Ⅱ」の単位(各2単位)を両方とも修得した場合のみ、「経済数学」の単位(4単位)を修得したこととする。どちらか一方のみの単位を修得しても随意科目の単位修得となるので注意すること。(2) 平成23年度以前入学者で「経済数学入門」(4単位)または「経済数学」(4単位)の単位を修得している学生は「経済数学Ⅰ」の単位は修得できない。(3)履修希望者は、第1回目授業を欠席した場合でも、それ以降の授業に必ず出席して、本授業の受講方法をきちんと把握すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210205101	科目ナンバリング	021A119
講義名	経済数学Ⅱ		
副題	経済学で使う数学の基礎を学ぶⅡ		
英文科目名	Mathematics for Economics Ⅱ		
担当者名	河重 隆一郎		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西2-402		

授業概要

本授業は、第1学期に開講される「経済数学Ⅰ」と合わせて、経済学の学習に役立つ数学の基礎を学びます。数学に対して苦手意識を持っている人もいます。そこで初歩に戻りながら、また、経済学における利用例を示しながら学習をすすめます。第2学期開講の本授業では、「経済数学Ⅰ」の履修を前提として、多変数関数の微分、極大極小、等位曲線の接線、そして、この講義のハイライトともいえる条件付き最適化問題の解法を学びます。また、積分を学んで微分で詳しく調べた関数が結局はどうなるのかを分析します。さらに、ベクトルと行列の計算、逆行列を用いた連立方程式の解法、ベクトルの1次独立性と逆行列の存在性について学びます。現在、高校では「行列」を学習しないことになっていますが、行列は経済分析において大変重要な概念ですから、必ず、本授業を履修してください。なお、「経済数学Ⅰ」、「経済数学Ⅱ」は1年次に履修することを勧めます。

到達目標

学部で学習する経済学に必要な数学的概念や数式の取扱いを十分に理解し、自分で説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス: 微分の復習
第2回	もう少し複雑な関数の微分
第3回	2階の導関数と凹関数・凸関数
第4回	ベクトルの和・差・スカラー倍・内積
第5回	多変数関数の微分
第6回	接平面と全微分
第7回	制約条件つき最適化問題(1)
第8回	制約条件つき最適化問題(2)
第9回	ラグランジュの未定乗数法
第10回	合成関数の微分
第11回	合成関数の微分法の応用 - スルツキー方程式
第12回	積分法(1)
第13回	積分法(2)
第14回	行列の定義、行列の和・差・スカラー倍・積
第15回	全体のまとめ

授業方法

基本的に講義形式で実施します。自習問題や配布したプリントは、計算機センターのWebサイト「WebClass」から常時取り出せるようになっています。本授業では、大学で初めて学習する内容が含まれるので、演習問題や宿題で解き方に慣れることを勧めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

翌週の授業に備えて、授業で配布したプリントやノートを復習しておいてください(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

WebClassの出席機能を持ちいて出席をとります。出席1回につき1点ずつ最大10点まで加算されます。マークシートによる宿題(レポート)および期末試験を行います。教科書とWebClassからダウンロード可能な演習問題の予習と復習を行ってください。

試験は、講義で行った内容と演習問題のみから出題し、講義で行わなかったことについて参考書から出題することはありません。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験や小テストの解答と解説を、WebClass等の学内ネットワークを通じて、配布する。

教科書コメント

教科書の指定はせず、授業のノートを作成して勉強するようにして授業を進めます。

参考文献

経済数学 --基礎と応用--、ウィリアム・ノヴシエック著 奥口孝二・小林信二訳、多賀出版、改訂版、1996、978-4811541914

経済学で出る数学、尾山大輔・安田洋祐、日本評論社、改訂版、2013、9784535556591

経済学・経営学のための数学、岡田章、東洋経済新報社、2001、978-4-492-31298-8

Mathematics for Economists, Carl.P.Simon, Lawrence Blume, W.W.Norton & Company, Inc., 1993, 978-0-393-95733-4

参考文献コメント

『経済数学』は、大学院レベルのミクロ経済学で使用する数学をコンパクトにまとめた良書。『経済学で出る数学』は、ミクロ経済学の講義の副読本に最適。『経済学・経営学のための数学』は、大学院に入ってから役に立つ教科書。『Mathematics for Economists』は、英語の本ではあるものの基礎から丁寧に解説されているので数学がそれほど好きでない人にも読みこなすことができるうえに、英語の勉強にもなり一石二鳥の教科書。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

【単位修得上の注意】(1) 平成23年度以前入学者については、「経済数学Ⅰ」及び「経済数学Ⅱ」の単位(各2単位)を両方とも修得した場合のみ、「経済数学」の単位(4単位)を修得したこととする。どちらか一方のみの単位を修得しても随意科目の単位修得となるので注意すること。(2) 平成23年度以前入学者で「経済数学入門」(4単位)または「経済数学」(4単位)の単位を修得している学生は「経済数学Ⅱ」の単位は修得できない。(3) 履修希望者は、第1回目授業を欠席した場合でも、それ以降の授業に必ず出席して、本授業の受講方法をきちんと把握すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210206101	科目ナンバリング	021A210
講義名	ミクロ経済学(経済学科)		
英文科目名	Microeconomics		
担当者名	清水 大昌		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 西5-201		

授業概要

学部2年生程度向けのミクロ経済学を、図や数式を用いて直感的に理解することを目的とする。基礎ミクロ経済学程度の経済学の知識は前提とする。

到達目標

基礎ミクロ経済学で学んだ基本的な概念についてさらに理解を深める。また、発展的な内容といくつかの応用例を学び、ミクロ経済学を使って現実の経済現象を説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	消費者理論: 効用関数、無差別曲線、限界代替率
第3回	効用最大化、需要関数、間接効用関数
第4回	支出最小化
第5回	所得効果と代替効果、等価変分と補償変分
第6回	消費者理論の応用1: 労働について
第7回	消費者理論の応用2: 貯蓄について
第8回	顕示選好理論
第9回	スルツキー方程式
第10回	不確実性と期待効用関数
第11回	期待効用関数理論の限界とプロスペクト理論
第12回	生産者理論: 生産関数、規模に関する収穫、限界生産性
第13回	費用最小化と利潤最大化
第14回	短期と長期
第15回	理解度の確認
第16回	前期試験の確認と復習
第17回	純粋交換経済の紹介、パレート効率性
第18回	エッジワースの箱、ワルラスの法則
第19回	厚生経済学の基本定理とその限界
第20回	余剰分析
第21回	独占、自然独占
第22回	規制の経済学
第23回	ベルトラン競争、クールノー競争
第24回	製品差別化と需要関数の導出
第25回	ラーナー指数とハーフィンダール指数
第26回	外部性とピグー税
第27回	コースの定理
第28回	公共財の最適供給、リンダール均衡
第29回	サミュエルソン条件
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

前期から後期の最初まで完全競争市場に関連した理論モデルを学ぶ。その後、その仮定を緩めて、より現実に沿った内容を扱える高度な理論モデルを学ぶ。

授業方法

講義形式による。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した講義ノートを復習し、課された問題を解いてみる(約30～60分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第2学期(学年末試験):40% 第1学期(学期末試験):40% ミニテスト:20%(前期後期それぞれ2回ずつ計4回課す。) テストの評価配分はこれよりも学生の利益になるように変更することがある。詳しくは初回の授業で説明する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の略解はホームページ上で公開する。学期末試験の解説は後期初回に行う。ミニテストの問題の解説は学期中に行う。試験結果は希望者にメールで送信し、さらに希望者には研究室で試験結果と採点基準などを見せ解説も行う。

参考文献

ミクロ経済学の力,神取道宏,日本評論社,2014,9784535557567

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210207101	科目ナンバリング	021A211
講義名	○マクロ経済学(経済学科)		
英文科目名	Macroeconomics		
担当者名	宮川 努		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 西2-302.第2学期 金曜日 3時限 西2-302		

授業概要

基礎マクロ経済学を修得した知識をベースに、一段と進化したマクロ経済学の枠組みとその応用について説明する。

到達目標

時間を通じてマクロ経済がどのように変わっていくかについて理論的な理解ができ、かつそのマクロ経済の状況を変化させるために、どのような政策的対応ができるかを理解することを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の目的とスケジュールの紹介
第2回	総需要と総供給
第3回	フィッシャー方程式の考え方
第4回	フィリップス曲線の考え方
第5回	消費行動(1):時間を通じた消費
第6回	消費行動(2):ケインズ的な消費行動
第7回	投資行動(1):投資に関する基本的な考え方
第8回	投資行動(2):様々な投資理論
第9回	景気循環
第10回	インフレと景気を説明するモデル(1):総需要側
第11回	インフレと景気を説明するモデル(2):価格の硬直性
第12回	インフレと景気を説明するモデル(3):金融政策
第13回	インフレと景気を説明するモデル(4):労働市場
第14回	インフレと景気を説明するモデル(5):総供給側
第15回	中間的総括
第16回	資産価格の捉え方
第17回	バブル
第18回	不況やインフレによる経済的損失
第19回	金融政策の役割
第20回	金融政策ルール
第21回	日本の財政
第22回	財政赤字の考え方
第23回	財政の維持可能性
第24回	貿易と資本移動(1):貿易
第25回	貿易と資本移動(2):国際収支
第26回	開放経済における財政・金融政策
第27回	経済成長の考え方
第28回	経済成長の要因
第29回	生産性の向上
第30回	授業のまとめ

授業方法

講義形式で授業を行う

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の最初に各授業と教科書の該当部分を説明し、かつ教科書にのっていないトピックについては事前に資料を配布するので、授業の前に1時間程度予習をしておくこと。また講義の節目で、練習問題を出すので、授業後自宅でこれを解いてくること。解答は翌週に解説する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト	30 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

中間テストについては、実施の翌週に解答を説明する。

教科書

いまこそ学ぼう マクロ経済学, 細野 薫, 日本評論社, 2008, 978-4-535-55567-9

参考文献

グラフィック マクロ経済学, 宮川 努, 滝澤 美帆, 新世社, 第2, 2011, 978-4-88384-159-2

参考文献コメント

日本の財政の現状や経済成長の部分については一部参考文献を利用する

その他

授業内容についての質問は、授業後やオフィスアワーで対応する。ただし過去問の解説などは対応しない。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210208101	科目ナンバリング	021A212
講義名	経済政策		
英文科目名	Economic Policy		
担当者名	浅子 和美		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西2-402		

授業概要

講義形式で行う。ミクロ経済学的に資源配分の効率性を問うのと、マクロ経済学的に経済活動水準のレベルと変動の安定性を問うのと、経済政策の2面をバランスよく学ぶ。質問があれば、授業中でも自由に発言するように。

到達目標

経済政策の対象を一通りカバーするので、それらを基準にして、現実の経済問題に対する政策の方向が理解できるまでになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	講義の目標と方針
第2回	ミクロ経済学の復習1 完全競争
第3回	ミクロ経済学の復習2 余剰分析
第4回	ミクロ経済学の復習3 厚生経済学の基本定理
第5回	マクロ経済学の復習1 GDPの三面等価
第6回	マクロ経済学の復習2 45°線モデルとISLMモデル
第7回	マクロ経済学の復習3 ADASモデル、インフレ
第8回	経済政策の一般理論1 政策目標と政策手段・ティンバーゲンの定理
第9回	経済政策の一般理論2 政策割当・マンデルの定理
第10回	市場の失敗1 外部経済・不経済、公害、ピグー税
第11回	市場の失敗2 独占・複占、製品差別化
第12回	公共財の理論1 公共財の種類
第13回	公共財の理論2 サミュエルソンの純粋公共財
第14回	コモンズの悲劇
第15回	理解度の確認
第16回	社会的共通資本1 混雑現象、混雑税
第17回	社会的共通資本2 貿易と最適環境税
第18回	社会資本の生産力効果
第19回	景気循環論1 景気循環論の分類、天井床型景気循環論
第20回	景気循環論2 均衡景気循環論
第21回	景気を平準化する
第22回	財政政策と金融政策1 相対的有効性
第23回	財政政策と金融政策2 絶対的有効性
第24回	マンデル=フレミング・モデル 固定相場制と変動相場制
第25回	不確実性と政策介入 不確実性とアクティビズム
第26回	金融政策1 伝統的政策手段
第27回	金融政策2 非伝統的政策手段
第28回	アベノミクスと日本経済1 失われた30年、脱デフレ
第29回	アベノミクスと日本経済2 10年後20年後の日本経済
第30回	理解度の確認

授業方法

壇上から板書を中心にした授業を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書を指定しないが参考文献をあげておくので、とにかく授業の復習に心掛けること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

基本は学期末試験の成績によるが、2割分だけ小テストの成績も考慮する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験に対する疑問等がある場合には、懇切丁寧に対応する。

参考文献

グラフィック経済学:グラフィック[経済学]-1,浅子和美・石黒順子,新世社,第2,2013,978-4-88384-194-3

グラフィック環境経済学:グラフィック[経済学]-9,浅子和美・落合勝昭・由紀子,新世社,2015,978-4-88384-221-6

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210209101	科目ナンバリング	021A213
講義名	国際経済学		
英文科目名	International Economics		
担当者名	棕 寛		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 1時限 中央-302		

授業概要

国際経済取引は「実物的取引」と「金融取引」とに大別されるが、本講義では財・サービスの国際取引に代表される実物的取引に焦点を当てる国際貿易論を取り扱う。基礎理論の理解とその応用を通じて、現実の国際経済に関わる諸問題を分析する能力を育成することを目的とする。第1学期は貿易が発生するメカニズムや貿易の利益について講義する。第2学期は関税や数量制限、アンチダンピング、セーフガード等の貿易政策の効果やWTOやFTA等の国家間の貿易協定とそれに関わる諸制度を取り扱う。

到達目標

国際貿易のメカニズムと、通商政策の効果について理解できるようになる。現実の通商政策の是非について、経済分析に基づきつつ、自分の意見を冷静に述べられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	講義の概要と国際貿易の現状
第2回	国際貿易理論の基礎(1):貿易利益
第3回	国際貿易理論の基礎(2):貿易パターンの決定
第4回	国際貿易理論の基礎(3):大国の貿易と交易条件の変化
第5回	窮乏化成長とトランスファー問題
第6回	リカード・モデル(1):絶対優位と比較優位
第7回	リカード・モデル(2):多数財モデル
第8回	ヘクシャー＝オリーン・モデル(1):要素賦存とリプチンスキー定理
第9回	ヘクシャー＝オリーン・モデル(2):貿易パターンの決定とヘクシャー＝オリーン定理
第10回	ヘクシャー＝オリーン・モデル(3):要素価格均等化定理
第11回	ヘクシャー＝オリーン・モデル(4):ストルパー・サムエルソン定理
第12回	規模の経済と産業内貿易(1):マーシャルの外部性と貿易パターンの「不」決定
第13回	規模の経済と産業内貿易(2):独占的競争と差別化財貿易
第14回	規模の経済と産業内貿易(3):寡占国際競争と同質財の貿易
第15回	理解度の確認
第16回	完全競争下の小国の輸入政策(1):輸入税と輸入補助金
第17回	完全競争下の小国の輸入政策(2):輸入数量制限
第18回	完全競争下の小国の輸出政策とラーナーの対称性定理
第19回	大国の貿易政策と最適関税
第20回	幼稚産業保護政策
第21回	不完全競争下の貿易政策(1):独占と貿易政策
第22回	不完全競争下の貿易政策(2):戦略的貿易政策
第23回	GATT・WTOの歴史
第24回	GATT・WTOの原則と紛争処理
第25回	アンチダンピング
第26回	セーフガード
第27回	地域貿易協定(1):貿易創出効果と貿易転換効果
第28回	地域貿易協定(2):原産地規則
第29回	授業の総括と理解度の確認
第30回	予備日

授業計画コメント

取り扱う内容は、講義の進度に併せて調整する可能性がある。分析手法を共有する「ミクロ経済学」や不完全競争下の市場を扱う「産業組織論」は本講義と補完的な関係にあり、履修を薦める。国家間の金融取引を取り扱う「国際金融論」は、分析手法は大きく異なるが、別の視点で国際経済を分析しているという意味で補完的である。

授業方法

授業方法

毎回自作のレジュメを配布し、プレゼンテーションソフトを用いたスライドのプロジェクター投影により講義を進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ミクロ経済学とゲーム理論の基礎知識を前提とする為、学部の講義や自習を通じて事前に習得しておくこと(約2時間)。特に、他学部・他学科所属の履修生はミクロ経済学・ゲーム理論のうち「消費者余剰」「生産者余剰」「無差別曲線」「生産可能性フロンティア」「独占」「ナッシュ均衡」というキーワードについて予習しておくこと(約5時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	45 %	第1学期の内容から包括的に出題する。
学年末試験(第2学期)	45 %	第2学期の内容から包括的に出題する。
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	講義中の発言や意見に対して加点する。
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末試験の得点を、第2学期に入ってから希望者に伝えている。また、学期末試験・学年末試験の実施後、正答や平均点などの集計データを講義HP上で公開し、解説を行っている。

参考文献

国際経済学をつかむ:テキストブックつかむ,石川城太・椋寛・菊地徹,有斐閣,2,2013,9784641177192

国際経済学:現代経済学入門,若杉隆平,岩波書店,3,2009,9784000266994

コンパクト国際経済学:コンパクト経済学ライブラリ,多和田眞,新世社,2010,9784883841530

International Economics: Theory and Policy,Paul R. Krugman, Maurice Obstfeld, and Marc Melitz,Pearson Education,11,2017,9781292214870

International Economics,Robert C. Feenstra and Alan M. Taylor,Worth Publishers,4,2016,9781319061739

参考文献コメント

講義を包括的にカバーする参考書は無いが、予習・復習のために少なくとも一つは手に入れておくことを勧める。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

初回の講義にWeb上からのファイルのダウンロード方法などを説明するので、必ず出席すること。この件に関して、Eメールでの問い合わせには応じられない。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210210102	科目ナンバリング	021A214
講義名	財政学		
英文科目名	Public Finance		
担当者名	三井 清		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 北1-201		

授業概要

本講義では財政の役割について学ぶ。

到達目標

第1学期は、政府の支出政策の役割に関する理解を深めることが主な目的である。また、市場メカニズムの機能や政治メカニズムの機能などについての理解を深めることもねらいとしている。第2学期は、社会保障政策と課税制度(所得税、消費税、法人所得課税、資産課税、環境税など)についての理解を深めることが主な目的である。また、地方財政についての理解を深めることもねらいとしている。

授業内容

実施回	内容
第1回	わが国財政の現状
第2回	厚生経済学の基本定理1: 資源配分とパレート効率性
第3回	厚生経済学の基本定理2: 市場均衡と効率性
第4回	公共財1: パレート効率性とサミュエルソン条件
第5回	公共財2: 限界効用・限界費用とサミュエルソン条件
第6回	リンダール・メカニズムと公共財の自発的供給
第7回	多数決投票と公共財供給
第8回	消費者余剰と等価変分・補償変分
第9回	仮説的補償原理とマスメイクアップ主義政策論
第10回	費用・便益分析1: 社会的便益と社会的費用
第11回	費用・便益分析2: 時間短縮便益と統計的人命の価値
第12回	費用・便益分析3: トラベルコスト法
第13回	計算問題についての解説
第14回	発展的議論と応用的議論についての解説
第15回	理解度の確認
第16回	社会保障と税の現状
第17回	外部性: 環境汚染とピグー税
第18回	社会保障: 社会保険と情報の非対称性
第19回	公的年金1: 積立方式と賦課方式の効率性比較
第20回	公的年金2: 年金改革
第21回	租税入門: 租税原則と公平性
第22回	租税の同等性: 「消費税vs労働所得課税」と「資産所得課税vs資産課税」
第23回	複数税率の消費税と利子所得税の超過負担
第24回	労働所得税(労働供給が弾力的なケース)
第25回	租税の帰着と中立性
第26回	法人所得課税
第27回	地方分権と政府間の役割分担
第28回	計算問題についての解説
第29回	発展的議論と応用的議論についての解説
第30回	理解度の確認

授業方法

簡単な質問をすることで講義内容の理解度を確認しながら講義する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に配布された資料を読んでおく(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期のレポートの成績は第2学期の講義のときに伝える。また、「平常点」は最後の講義のときに伝える。

参考文献

- 現代経済学入門・財政,井堀利宏,岩波書店,第3版,2008
- 公共経済学 第2版(下),スティグリッツ,東洋経済新報社,第2版,2004
- 公共経済学 第2版(上),スティグリッツ,東洋経済新報社,第2版,2003

その他

平成28年度あるいはそれ以前に「公共経済学」の単位を修得した学生は、平成29年度以降「財政学」を履修することはできませんので、注意してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210211101	科目ナンバリング	021A215
講義名	金融論		
英文科目名	Monetary and Financial Theory		
担当者名	石原 秀彦		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西5-302		

授業概要

経済における金融の役割やそれを支える制度・主体, 生じる問題等について概観する. 前期は, 金融システムの概要を確認したうえで, 主に企業の資金調達と銀行に関する問題を講義する. 後期は, 様々な金融市場と金融政策に関する問題を講義する.

到達目標

ミクロ経済学, マクロ経済学の基本的な知識に基づいて, 金融システムがどのように機能するのかそのメカニズムを理解する. その上で, 現在の金融が抱える問題や, 望ましい金融規制や金融政策のあり方について自分自身で考察できるようになる.

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	1. 金融システム:金融市場と金融仲介機関
第3回	1. 金融システム:リスク分散
第4回	1. 金融システム:情報生産
第5回	1. 金融システム:金融危機と金融規制
第6回	1. 金融システム:貯蓄・投資と金融システム
第7回	2. 貨幣:貨幣の機能とマネーストックの定義
第8回	2. 貨幣:インフレ・デフレと貨幣数量説
第9回	3. 企業の資本調達:企業の資本構成と情報の非対称性
第10回	3. 企業の資金調達:コーポレートファイナンスの実際
第11回	4. 銀行の役割と課題:銀行の活動
第12回	4. 銀行の役割と課題:デフォルト・リスクと銀行の経営
第13回	5. 金融規制:預金保険制度と自己資本比率規制
第14回	5. 金融規制:世界金融危機と政府の金融活動
第15回	まとめと確認
第16回	6. 利子率:リスクと利子率
第17回	6. 利子率:期間構造と割引現在価値
第18回	6. 利子率:実質利子率の決め方
第19回	7. 株価:株式市場と株価の決め方
第20回	7. 株価ポートフォリオ理論と効率市場仮説
第21回	7. 株価:コントロール権市場としての株式市場, デリバティブ
第22回	8. 為替レート:通貨制度と国際収支
第23回	8. 為替レート:長期と短期の決め方
第24回	8. 為替レート:通貨危機
第25回	9. 貨幣市場の需要と供給:貨幣需要の2つの動機
第26回	9. 貨幣市場の需要と供給:名目利子率の決め方と流動性のわな
第27回	10. 金融政策:中央銀行の役割と金融政策の目的
第28回	10. 金融政策:金融政策の手段と波及メカニズム
第29回	10. 金融政策:フォワードガイダンスと日本の金融政策
第30回	まとめと確認

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の担当箇所を読んでおくこと(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	45 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験(第1学期):金融システム, 貨幣, 企業, 銀行, 金融規制について, 基本的な事項に関する知識を有していることに加えて, 重要なメカニズムについて数式等・グラフ等によって厳密に理解していること.
 学年末試験(第2学期):金融市場と金融政策について, 基本的な事項に関する知識を有していることに加えて, 重要なメカニズムについて数式等・グラフ等によって厳密に理解していること.
 平常点:授業中の質問等に対して積極的に回答すること.
 学年末試験(第2学期):金融市場, 金融政策について, 基本的な事項に関する知識を有していることに加えて, 重要なメカニズムについて数式・グラフ等によって厳密に理解していること.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末試験(第1学期)は, 解答状況等を第2学期に解説する.
 学年末試験(第2学期)は, メール等で個別に回答する.
 平常点(質問等への回答状況)については, 授業内で適宜コメントする.

教科書

グラフィック金融論 第2版:グラフィック[経済学], 細野薫・石原秀彦・渡部和孝, 新世社, 第2, 2019, 978-4-88384-289-6

教科書コメント

間違えて初版を購入しないこと.

参考文献

『現代の金融入門【新版】』, 池尾和人, ちくま新書, 2010, 978-4-480-06529-2

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210212101	科目ナンバリング	021A216
講義名	統計学(経済学科)		
副題	ー統計分析を実際に使えるようにー		
英文科目名	Statistics		
担当者名	田中 勝人		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西2-202		

授業概要

統計学の基礎的理論を習得した上で、統計的な考え方を身につけ、統計分析を実際に使えるようになることを目的とする。コンピュータを積極的に利用して、EXCEL を使った分析方法を習得する。

到達目標

コンピュータを使って、実際のデータ分析ができるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:統計学とは何か, 授業の内容, 目的, 到達点などを説明する. コンピュータ利用の方法についても説明する.
第2回	度数分布表とヒストグラム
第3回	コンピュータ実習ーEXCEL と EViews
第4回	コンピュータ実習ーデータ入力, ヒストグラムなどの作成
第5回	個票データの特性値
第6回	多次元データの分析
第7回	相関と回帰
第8回	コンピュータ実習ー時系列データの整理
第9回	コンピュータ実習ー回帰分析
第10回	確率の概念
第11回	確率分布の特性値
第12回	多次元の確率変数
第13回	離散的確率分布
第14回	連続的確率分布
第15回	まとめ
第16回	正規分布の確率計算
第17回	コンピュータ実習ー確率分布のプロット
第18回	コンピュータ実習ー正規分布の確率計算
第19回	統計量と標本分布
第20回	正規近似と中心極限定理
第21回	コンピュータ実習ーシミュレーション実験
第22回	推定の問題
第23回	推定量の構成方法と性質
第24回	検定の考え方
第25回	正規母集団における検定
第26回	非正規母集団における検定
第27回	検定方式と検出力
第28回	回帰モデルの推定と検定
第29回	まとめ
第30回	到達度の確認

授業方法

適宜、パソコンによる実習を行う。EXCEL を使用する。授業は、テキストに基づいて行う。ダウンロード可能な資料については、第1回目の授業の際に説明する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストの解答については、懇切丁寧に説明する。

教科書

統計学, 田中勝人, 新世社, 第2版, 2010, ISBN=9784883841547

参考文献

入門・演習 数理統計, 野田一雄、宮岡悦良, 共立出版, 1990, ISBN=4320014359

履修上の注意

履修者数制限あり。(60名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修者数制限(60名)があるので、第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210213101	科目ナンバリング	021A217
講義名	労働経済学		
副題	新しい働き方の模索		
英文科目名	Labour Economics		
担当者名	脇坂 明		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 南3-201		

授業概要

労働経済学の基礎や応用について学ぶ。雇用問題に対する経済学のたんなる応用ではなく、日本や世界の労働や仕事の実態を正確にとらえるための勉強である。とくに新しい働き方を模索するときに知っておくべきことを示す。

到達目標

働き方にかかわる労働市場や企業の基礎概念について理解し、経済学科以外の誰にでも説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	労働経済学とは
第2回	内部労働市場の経済学(1) 技能と訓練
第3回	内部労働市場の経済学(2) 解雇と転職
第4回	賃金はなぜ右上がりになるか(1) 決まり方と決め方
第5回	賃金はなぜ右上がりになるか(2) 定年、効率賃金
第6回	昇進の経済学(1) 早い選抜と遅い選抜
第7回	昇進の経済学(2) 女性は不利か
第8回	差別の経済理論(1) 偏見説と統計的差別説
第9回	差別の経済理論(2) 差別解消に向けて
第10回	労働供給(1) 労働時間の決定理論
第11回	労働供給(2) 長時間労働
第12回	労働組合(1) 発言機能
第13回	労働組合(2) 組織形態と春闘
第14回	ゲスト・スピーカー
第15回	理解度の確認
第16回	失業(1) 失業の理論とタイプ
第17回	失業(2) 失業解消策
第18回	ワーク・ライフ・バランス(WLB)とは(1) 男女均等との関係
第19回	ワーク・ライフ・バランス(WLB)とは(2) 短時間正社員
第20回	若者の働き方(1) 歴史と新卒一括採用
第21回	若者の働き方(2) フリーターとニート
第22回	女性(1) 社会進出の歴史と男女間格差
第23回	女性(2) 育児休業やファミリー・フレンドリー施策
第24回	高齢者(1) 超高齢社会・経済における高齢者雇用
第25回	高齢者(2) 定年と継続雇用制度、若者との関係
第26回	「正社員」とは何か、パートタイマー
第27回	契約社員、派遣、請負
第28回	ワークシェアリング(WS)とは(1) 歴史とタイプ
第29回	ワークシェアリング(WS)とは(2) 働き方の見直し
第30回	理解度の確認

授業方法

教科書を基本にパワーポイントや資料配布などおこないながら授業をすすめる。教科書の図表や記述に触れながらすすめますので、教科書は必ず持参すること。資料は当日出席者だけに配布する。パワーポイント資料の公開はしていません。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと(最低20分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

筆記試験を行う。記述かマークかについては、授業時に指示する。学年末試験の試験範囲は1年ぶんすべて。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からの質問等の内容に対して、追加資料配布あるいは授業に反映する。

教科書

労働経済学入門－新しい働き方の実現を目指して,脇坂 明,日本評論社,2011

参考文献

仕事の経済学,小池和男,東洋経済新報社,第3,2005

経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス,学習院大学経済経営研究所,第一法規,2008

女性労働に関する基礎的研究:女性の働き方が示す日本企業の現状と将来,脇坂明,日本評論社,2018

参考文献コメント

授業時に指示

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

仕事や労働のテーマについて、ひとつでも興味をおぼえ面白さを味わってください。どのような理論や考え方があるか学んで、目指すべき社会を考えるときの参考にしてください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210214101	科目ナンバリング	021A218
講義名	経済学史		
英文科目名	History of Economics		
担当者名	石井 穰		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西5-202		

授業概要

経済学史とは、経済学の形成と発展の歴史を辿るものである。本講義は、過去の主要な経済学者たちがいかなる理論的考察を展開し、またいかに市場社会もしくは資本主義社会を把握してきたのか、理解することを目標とする。第1学期は、経済学の形成期から19世紀半ばまでを対象とする。アダム・スミスにはじまるイギリス古典派経済学の形成と発展、またその周辺の国々での経済学説の展開を見てゆく。第2学期は、19世紀後半から20世紀後半を対象とする。限界革命後の経済学の展開に加え、マルクス経済学、ケインズの経済学などを見てゆく。

到達目標

経済学の形成期から20世紀後半にいたるまで、経済理論の発展の歴史を把握する。経済学の歴史を通じて、経済社会の仕組みやあるべき姿について、さまざまな立場を理解し、今後の体制的展望の構想に役立てる。

授業内容

実施回	内容
第1回	経済学史の課題と講義方針(シラバスの説明)
第2回	重商主義の背景と諸理論(1) 前期重商主義
第3回	重商主義の背景と諸理論(2) 後期重商主義
第4回	重農学派 時代背景と政策思想
第5回	アダム・スミス (1) 分業と市場経済
第6回	アダム・スミス (2) 市場の機能と政府の役割
第7回	マルサス(1) 人口の原理
第8回	リカードウ(1) 地金論争と穀物法論争
第9回	リカードウ(2) 利潤率低下傾向
第10回	フランス経済学 セーとシスモンディー
第11回	マルサス(2) 全般的供給過剰の論理
第12回	J. S. ミル 資本主義と社会主義
第13回	19世紀前半の北米経済学
第14回	リストとドイツ歴史学派
第15回	理解度の確認、まとめ、総括
第16回	限界革命(1) メンガーとジェヴォンズ
第17回	限界革命(2) ワルラス一般均衡論
第18回	マーシャルの価格理論 古典派と限界理論
第19回	ピグー 厚生経済学と体制的展望
第20回	ヴェブレンと制度派経済学
第21回	マルクス(1) 歴史の理論と経済学
第22回	マルクス(2) 『資本論』の体系
第23回	レーニン 金融資本と帝国主義
第24回	シュンペーター(1) 経済発展の理論
第25回	シュンペーター(2) 景気循環の理論
第26回	ケインズの経済学(1) 貨幣改革論
第27回	ケインズの経済学(2) 雇用、利子および貨幣の一般理論
第28回	第二次大戦後の景気循環論と経済発展論
第29回	フリードマンとマネタリズム
第30回	理解度の確認、まとめ、総括

授業方法

授業では毎回、プリントを配布、それをもとに説明を進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布プリントを読み返し、重要語句に加え、それぞれの学説の特徴を復習する(約30分)。
参考書もしくはその他経済学史のテキストをひもとき、講義内容について理解を深める。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第2学期(学年末試験):60%(第2学期に学習した内容について試験を行う) 第1学期(学期末試験):40%(第1学期に学習した内容について試験を行う) 試験では、重要な語句を覚えているか、議論の流れをどれだけ自分の言葉で説明できるか問う。第1学期の試験について総評は行う予定だが、結果についての個別の問い合わせには応じない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内テストを実施した場合には解説を行い、内容についての質問を受け付ける。

教科書コメント

特に指定しない。

参考文献

経済学史,喜多見洋・水田健,ミネルヴァ書房,2012,9784623059362

新版 経済学史:有斐閣双書,小林昇・杉原四郎,有斐閣,1985,4641110174

参考文献コメント

上記の参考文献は発展的な内容を含んでいる。さらなる学習を希望する人は見てほしい。その他の文献については、講義中に適宜紹介する。

その他

この授業は、経済学という学問について、形成期から20世紀後半にいた展開を跡づける。それゆえ説明内容は多岐にわたり、内容も複雑になることもある。できるだけ平易な説明を試みるつもりだが、受講にあたっては学生の側でも理解のための努力を惜しまないでほしい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210215101	科目ナンバリング	021A219
講義名	計量経済学		
英文科目名	Econometrics		
担当者名	赤司 健太郎		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 西5-303		

授業概要

計量経済学とは、現代経済理論を検証する為の統計的方法論である。第1学期では最も基本的な推定法(最小2乗法)とその周辺を学ぶ。第2学期では幾つかの本格的な計量経済モデルを学ぶ。他の講義でのレポートやゼミ論等で扱うであろう実証分析(経済の時事問題に対するデータ分析)のために、計量パッケージソフトを用いたパソコン実習も行う。

到達目標

ゼミ論等で参考にする先行研究の計量手法が理解でき、統計的な分析結果の見方が身に付く。計量パッケージソフトを用いた実証分析が行えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(計量経済学とは)
第2回	経済統計と指数理論
第3回	最小2乗法の入門
第4回	単回帰分析(和記号・期待値の演算)
第5回	統計学の復習(正規分布・t検定)
第6回	行列演算(2×2行列・逆行列)
第7回	重回帰分析(データ変換・ダミー変数)
第8回	決定係数及び予測区間
第9回	パソコン実習①(資産評価モデルの単回帰)
第10回	誤差項の不均一分散と系列相関
第11回	近似t検定(大数法則・中心極限定理の概説)
第12回	カイ2乗検定(線形制約)
第13回	パソコン実習②(生産関数の構造変化)
第14回	総括
第15回	予備日
第16回	同時方程式としての経済モデル
第17回	構造型の内生性と識別問題
第18回	2段階最小2乗推定量
第19回	制限情報法と過剰識別度検定
第20回	パソコン実習③(IS-LM分析・限界効用均等の検証)
第21回	2項プロビットと最尤法入門
第22回	2次元プロビットとトービットモデル
第23回	パネルデータ分析とDD推定法
第24回	パソコン実習④(参入ゲーム分析・税制の政策評価)
第25回	ARモデルと赤池情報量基準
第26回	ARCHモデル及び多変量ARモデル
第27回	非定常時系列の共和分分析
第28回	パソコン実習⑤(99%VaR・購買力平価仮説の検証)
第29回	総括
第30回	予備日

授業方法

講義とパソコン実習による。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおく、また配布のハンドアウトで記法等を復習しておく(約15分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	20 %	4回程、実データ分析を課す
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

補足: 誤植の指摘等や質問に答えた場合は加点対象に、私語などで当てられた場合は減点対象になり得る。また、出席確認をする場合もある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

実証分析レポートの講評を行う。

教科書

EViewsによるデータ分析入門,高橋青天・北岡孝義,東京図書

教科書コメント

教科書の指定はするが、講義スライドのハンドアウトを配布する予定

参考文献

EViewsで学ぶ実証分析の方法,北岡孝義 他,日本評論社

計量経済学,田中勝人,岩波テキストブックス

新しい計量経済学 データで因果関係に迫る,鹿野繁樹,日本評論社

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

経済学科生については、統計学入門と経済情報入門 I (PCアカウントが必要)を履修済みであること。2年生は経済数学 I・IIを履修済みあるいは履修中、3年生は経済数学 I・IIが履修済みであり、4年生は加えて統計学を履修済みであることを前提として講義する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210217101	科目ナンバリング	021A220
講義名	日本経済論 I		
副題	日本経済を読み解く		
英文科目名	Japanese Economy I		
担当者名	滝澤 美帆		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西5-201		

授業概要

日本経済論Iでは、第二次世界大戦後の日本経済の変容について講義する。なぜ日本が戦後急速な経済成長を達成することに成功したのか、そしてなぜバブル崩壊後、長期的な停滞を経験してきたのかを考察する。労働市場や産業構造の変化、中小企業・ベンチャー企業の役割、環境・エネルギー問題も議論する。

到達目標

高度成長がなぜ達成できたかを説明できる。失われた20年の実態とその要因を説明できる。労働市場の構造変化、産業構造の変化を説明できる。中小企業やベンチャー企業の果たしてきた役割を説明できる。日本が直面する環境・エネルギー問題を説明できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション: 講義の進め方
第2回	日本経済を学ぶにあたっての基礎概念
第3回	高度成長: その要因
第4回	高度成長: オイルショックと1980年代
第5回	失われた20年: 成長の鈍化とその要因
第6回	失われた20年: デフレ、為替レート、経常収支、低金利とバブル
第7回	労働市場の特徴
第8回	所得格差
第9回	中小企業
第10回	企業の参入・退出、ベンチャー企業
第11回	日本における産業構造の変遷
第12回	IT革命・無形資産投資
第13回	環境・エネルギー問題
第14回	まとめ、理解度の確認
第15回	到達度確認

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習: 事前に教科書の対応する章を読んでおくこと(30分程度)

復習: 講義内容を復習することと講義内容に関する練習問題を解くこと(30分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験は必ず受験すること。

授業内に実施する講義した内容に関連する小テスト(manabaを使ったクイズ)も成績に加味する。

出席状況も評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験内容については授業内で解説を行う。

manabaを用いたクイズの正答率や解答内容を基に、授業への反映や資料配布等を行う。

教科書

日本経済論:ベーシックプラス,宮川努・細野薫・細谷圭・川上淳之,中央経済社,第1,2017,978-4502218910

参考文献

入門・日本経済,浅子和美・飯塚信夫・篠原総一,有斐閣,第5,2015,978-4641164567

その他

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210218101	科目ナンバリング	021A221
講義名	日本経済論Ⅱ		
副題	日本経済の政策的諸課題		
英文科目名	Japanese Economy Ⅱ		
担当者名	宮川 努		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西2-501		

授業概要

日本経済論Ⅱでは、日本経済における様々な政策面での諸課題(金融、財政、地域問題、社会保障、貿易)を考える。

到達目標

到達目標は2つある。一つは、日本経済における政策面での諸課題について、基本的な事項を理解、修得すること。二つ目は、経済学の手法で、そうした諸課題を克服する方策を考えることである。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の進め方とテキストの利用方法について
第2回	平成時代の日本経済(バブル崩壊から金融危機まで)
第3回	平成時代の日本経済(21世紀の日本経済)
第4回	伝統的金融政策の考え方
第5回	バブル崩壊と不良債権問題(テキスト第8章)
第6回	非伝統的金融政策(テキスト第9章)
第7回	世界金融危機と金融安定化政策(テキスト第8章、第9章)
第8回	日本の財政問題(テキスト第10章)
第9回	財政赤字は維持可能か(テキスト第10章)
第10回	地域問題と国土計画(テキスト第11章)
第11回	社会資本の蓄積(テキスト第11章)
第12回	人口問題と社会保障の課題(テキスト第12章)
第13回	国際経済の中の日本経済(テキスト第13章)
第14回	アベノミクスの評価(テキスト第14章)
第15回	授業のまとめ

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストを中心とした授業を行うので、授業前には該当箇所を読んで授業に望むこと(30分)授業中テキスト以外にも補助資料を配布するので、授業後は補助資料も含めて授業内容の確認・復習を行うこと(30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは、テキストにあるディスカッションのテーマから選ぶ。授業で学んだ事実関係に基づき、自らの意見を書いたレポートを評価する。平常点は、授業中に出た課題に対して質問などを通して積極的に授業に関わった学生を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートの評価に関し、疑問があった場合には評価のポイントについて解説する。

教科書

日本経済論:ベーシックプラス,宮川努・細野薫・細谷圭・川上淳之,中央経済社,第1,2017

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210219101	科目ナンバリング	021A222
講義名	国際金融論(経済学科)		
副題	国際金融の理論と実践を学ぶ		
英文科目名	International Monetary Economics		
担当者名	清水 順子		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 2時限 西2-302		

授業概要

本講義は、国際金融の理論的側面、制度や政策的側面、そして現実に日々国際金融市場で起こっている事象に関わる実務的側面という三つの側面について学ぶ。第1学期は為替市場のしくみ、為替制度の歴史や分類など制度面の開設をした上で、国際金融市場や国際収支表のデータを用いて、国際金融の実態について学ぶ。第2学期は、第1学期で得た知識を元に、国際金融の理論的・実務的な側面を学習する。具体的には、為替相場と経常収支の関係、為替相場の決定理論といった国際金融の基礎理論を学習した上で、国際分散投資や企業の為替リスク管理の実態などを調査し、実務への応用力を養う。

到達目標

受講者自らが国際金融市場や為替相場、グローバル経済におけるカネの流れに関心に向け、今後の望ましい金融取引の在り方や国際金融のアーキテクチャ、為替リスクヘッジへの対応などについて、自らの言葉で説明できる力を身につけることが到達目標です。

授業内容

実施回	内容
第1回	1学期のオリエンテーション+オリエンテーション (国際金融はなぜ重要か?)
第2回	マクロ経済の復習と開放経済モデル
第3回	為替レートの定義と外国為替市場
第4回	外国為替市場のしくみ
第5回	国際資本移動と資金フロー
第6回	国際通貨制度の歴史と変遷
第7回	為替制度の分類と特徴
第8回	国際収支表の構成と見方
第9回	国際収支の発展段階説
第10回	円相場の歴史と日本経済
第11回	米国経済とドルの行方
第12回	通貨統合とユーロの行方
第13回	アベノミクスと円相場
第14回	いろいろな為替相場・実質為替相場と実効為替相場
第15回	理解度の確認とまとめ
第16回	第2学期のオリエンテーション・為替相場とは何か?
第17回	為替相場と経常収支の関係①(弾力性アプローチ)
第18回	為替相場と経常収支の関係②(アブソープションアプローチ)
第19回	為替相場の決定理論①購買力平価
第20回	為替相場の決定理論②金利力平価
第21回	為替相場の決定理論③アセットアプローチ
第22回	為替相場の決定理論④効率的市場仮説
第23回	為替介入の実際と効果
第24回	マクロ経済政策と為替相場の関係(マンデル・フレミング・モデル)
第25回	通貨危機の理論
第26回	IMFの役割と国際金融アーキテクチャー
第27回	人民元の国際化とアジアの域内金融協力
第28回	国際証券投資と国際分散投資
第29回	国際金融と企業行動:企業の為替戦略とリスクマネジメント
第30回	理解度の確認とまとめ

授業計画コメント

講義では、タイムリーなテーマについて特別講師を招く場合がある。講義中に課題などが出るため、休まずに出席すること。

授業方法

講義はおおむね教科書の内容に従って進める。講義の前日までに講義ノート(A4サイズで2枚程度)を作成し、Manabaに掲載するので、予習のために確認すること(該当する教科書のページについては講義ノート中に書いてある)。講義中は内容の説明として板書を多くするので、ノートを作ることが望ましい。講義中に適宜課題(講義内で行うものと次週に提出するものがある)も出るので、休まず出席することが望ましい。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書で次回の講義に対応する箇所を読み、質問があれば用意すること(約30分)。レポート課題がある場合は、課題を行う(約1時間30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績評価は、第1学期の学期末試験と第2学期の学年末試験、および課題提出を総合的に評価して行う。評価の配点は、試験が70%、課題提出が30%である。課題提出は講義中に行うものもあるので、講義には必ず出席すること。課題については、提出すれば良いというものではなく、要求するレベルに達していなければ評価されない場合もあるので、真剣に取り組むことが望まれる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者が多いので、課題は返却しない。2学期のはじめに、1学期中の課題と試験の点数を2学期の最初の講義で各自に公表する。

教科書

徹底解説 国際金融:理論から実践まで,清水順子、大野早苗、松原聖、川崎健太郎,日本評論社,1,2016,4535558183

教科書コメント

教科書は各自が準備すること。

参考文献コメント

参考文献は、講義中に適宜指示する。図書館の参考文献コーナーに置いてあるので、必要に応じて適宜参照すること。

履修上の注意

レポートや授業内課題の遅れての提出は認めない。ただし、4年生のみについては就職活動関連の場合には事前にその旨を連絡すること。

その他

黒板も随時利用するので、ノートも準備するとよい。講義内容は相互に関連しているので、講義中に積極的に質問などをして、わからないことをそのまましておかないようにすることが望ましい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210220101	科目ナンバリング	021A223
講義名	産業組織論		
副題	理論と実証		
英文科目名	Industrial Organization		
担当者名	西村 淳一		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 西2-402		

授業概要

産業と企業の経済分析に関する主要なトピックについて講義する。現代の産業・経済の構造と変化を理解するために必要な基礎理論をデータ分析や事例で補完しつつ紹介していく。本講義はミクロ的な基礎知識をベースに、応用ミクロ経済学の入門レベルを想定しており、産業・組織に関する幅広い内容を紹介する。

到達目標

産業組織論の基本的な知識を習得し、それを用いて市場構造、企業戦略、政府の役割等の経済事象について自ら考察できるようになることを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	産業組織論の導入と講義概要の紹介
第2回	産業分析の基本概念的復習(1): 企業の利潤最大化行動、収入、費用
第3回	産業分析の基本概念的復習(2): 需要、供給、市場均衡と総余剰(経済厚生)
第4回	市場構造と独占のモデル
第5回	寡占のモデル(1): クールノー・モデル、シュタッケルベルグ・モデル
第6回	寡占のモデル(2): ベルトラン・モデル
第7回	参入の経済効果(1): 参入の定義、参入の経済効果
第8回	参入の経済効果(2): コンテストブル市場、独占的競争、参入と産業のライフ・サイクル
第9回	市場構造、市場支配力と市場成果
第10回	カルテル
第11回	価格差別(1): 価格差別の意義、第一種価格差別、第三種価格差別
第12回	価格差別(2): 第二種価格差別
第13回	製品差別化
第14回	広告
第15回	理解度の確認
第16回	戦略的参入阻止行動
第17回	企業の本質
第18回	多角化
第19回	垂直統合
第20回	合併(1): 企業結合の定義、合併の理論、合併の効果
第21回	合併(2): 独占禁止法と合併
第22回	国際化
第23回	技術変化とイノベーション
第24回	研究開発と生産性
第25回	企業規模、市場構造と研究開発
第26回	特許制度とイノベーション
第27回	ネットワーク外部性と標準
第28回	規制とその改革
第29回	競争政策と独占禁止法
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

1学期と2学期に実務家からのゲスト講演をそれぞれ1回行う予定であり、授業計画は暫定的である。

授業方法

講義形式で行う。パワーポイントを用いて講義を行うが、資料は穴埋め形式にしている。また、例題を出すことで、講義中に学生自ら考える時間を設ける。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は必須ではないが、参考図書をガイダンスにて提示する。事前に目を通しておくことが望ましい(約1時間)。
復習は配布した資料を毎週行い、例題を自ら解けるようになっておくこと(約3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	45 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

ゲスト講演では発言点も加味する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の結果は教員のHPにアップする。
学期末試験の解説を2学期の最初の講義にて行う。
授業中に例題の解説も行う。

教科書コメント

特定の教科書は用いない。

参考文献コメント

ガイダンスにて提示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

基礎マイクロ経済学の知識があると望ましい。第2回と第3回の講義で必要な基礎知識については復習するので、不安な学生は必ず出席すること。また、理論と実証の対応にも触れるので、統計学や計量経済学の基礎知識もあると望ましい。ただし、実証分析は学生に関心をもってもらうために紹介するものであり試験範囲外とする。要求される数学の知識は、基本的な四則演算と微分の知識があれば十分である。他に必要な知識があれば講義中にて説明する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210222101	科目ナンバリング	021A225
講義名	社会保障論		
副題	社会保障問題を経済学で考える		
英文科目名	Social Security		
担当者名	鈴木 亘		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 西5-B1		

授業概要

日本が現在抱える様々な社会保障問題に関する知識を身につけ、問題解決のためにどうすれば良いのか、経済学を用いて合理的に考える。この授業では、社会保障問題のうち、年金、医療、介護、少子化・保育、社会保障財政等のテーマについて詳しく講義する。毎回、それぞれの課題に対する基礎知識とともに、現在、国や自治体の現場で議論されている施策、これに対する経済学的な考察などを紹介する。

到達目標

社会保障に関する基礎知識、社会保障問題へ経済学を応用して考える力を身につける

授業内容

実施回	内容
第1回	社会保障の財政問題1
第2回	社会保障の財政問題2
第3回	社会保障の財政問題3
第4回	少子高齢化の現状(人口予測)
第5回	少子高齢化の現状(少子化対策の効果)
第6回	少子高齢化の現状(長寿化の影響)
第7回	社会保障の基礎理論(世代重複モデル)
第8回	社会保障の基礎理論(逆選択)
第9回	社会保障の基礎理論(モラルハザード)
第10回	社会保障の基礎理論(財政の維持可能性)
第11回	年金制度の基礎知識(厚生年金)
第12回	年金制度の基礎知識(国民年金)
第13回	年金制度の基礎知識(共済年金)
第14回	年金改革の在り方1
第15回	年金改革の在り方2
第16回	医療制度の基礎知識(医療保険)
第17回	医療制度の基礎知識(供給サイド)
第18回	医療制度の基礎知識(需要サイド)
第19回	医療制度の基礎知識(規則)
第20回	介護制度の基礎知識(介護保険)
第21回	介護制度の基礎知識(供給サイド)
第22回	介護制度の基礎知識(需要サイド)
第23回	医療介護改革の在り方1
第24回	医療介護改革の在り方2
第25回	保育制度
第26回	保育改革の在り方1
第27回	保育改革の在り方2
第28回	シルバー民主主義
第29回	改革の政治経済学
第30回	行動経済学と社会保障

授業計画コメント

年金、医療、介護、少子化・保育を中心に講義する。

授業方法

講義形式である。授業で使うスライドは、全て私のホームページに用意するので、事前に読んでおくこと。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

参考書、レジュメをよく読んでくること(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第2学期(学年末試験):70%(マークシート方式の試験を行う。)、授業の最後に行う質問タイムにおける質問・発言点:10%、レポート:20%(1学期提出。経済学を応用して解決策を提言できているか、オリジナリティーがあるかを評価する。)マークシート方式の試験を行う。毎回、授業の終わりの15分程度の時間を、質問タイムに当てている。その際に、質問を行えば、1問2点としてカウントする。授業にきちんと出席して、講義を聴いていること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に講評を行う。

教科書コメント

教科書は特にない。ただし、年度途中で教科書を書くかもしれないので、その場合には授業の中で知らせる。

参考文献

年金は本当にもらえるのか？,鈴木亘,ちくま新書,1,2010,978-4480065612
だまされないための年金・医療・介護入門,鈴木亘,東洋経済新報社,1,2009,9784492701232
年金問題は解決できる！ 積立方式移行による抜本改革,鈴木亘,日本経済新聞出版社,1,2012,9784532355180
社会保障亡国論,鈴木亘,講談社新書,1,2014,9784062882538
経済学者、待機児童ゼロに挑む,鈴木亘,新潮社,1,2018,9784103517115

参考文献コメント

参考文献は、必ずしも購入の必要はない。図書館にもリザーブがある。

履修上の注意

本科目は、履修者数が教室の定員数を超える場合には、他学部生(経済学部以外)の履修を認めないように制限を行う可能性があります。それでも多い場合には抽選を行います。履修制限や抽選の方法の詳細については、G-Portのお知らせに記載します。第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

定員を超えない範囲で、他学部、他大学(f-campus)の学生の履修も歓迎する。学生への連絡なども、全て私のホームページに掲載するので、事前に読んでおくこと。経済学についての基礎知識は特に高度なものを必要としないが、ミクロ経済学は履修済みか履修中であることが望ましい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210223101	科目ナンバリング	021A227
講義名	環境経済学		
英文科目名	Environmental Economics		
担当者名	落合 勝昭		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 西2-201		

授業概要

環境問題を理解し解決するための、経済学の基本知識、現実の環境問題、その対策について学びます。過去および現在の環境問題(公害、地球温暖化、ごみ問題など)を取り上げます。経済学の視点から、環境問題を発生させるメカニズムと解決方法について説明します。問題解決のために行政、企業、市民がどのような行動を取る必要があるかを説明します。福島原子力発電事故以降人々の関心の高いエネルギー政策について説明します。

前半は環境経済学を理解するための理論を中心に授業を行い、後半は具体的な環境問題を中心に授業を行う。

到達目標

環境問題を経済学の視点から理解し、解決方法を自分なりに考察する能力を身に付ける

授業内容

実施回	内容
第1回	講義内容の紹介
第2回	環境問題とは何か(人々の生活と環境の関わり)
第3回	日本の環境問題(公害、水俣病)
第4回	日本の環境問題(公害、水俣病以外の四大公害、その他)
第5回	経済学の基礎(1):市場システムと効率性
第6回	経済学の基礎(2):不完全競争、情報、公共財
第7回	市場経済と外部性(1):外部効果と市場取引
第8回	市場経済と外部性(2):政府の失敗
第9回	経済発展と環境問題(1):日本の高度経済成長とその背景
第10回	経済発展と環境問題(2):なぜ高度経済成長期に公害が発生したのか
第11回	環境問題への対策(1):外部経済の内部化(ピグー税など)
第12回	環境問題への対策(2):直接規制と間接規制
第13回	環境の評価(1):さまざまな環境指標
第14回	環境の評価(2):環境評価の考え方
第15回	まとめ
第16回	地球環境問題と持続可能性
第17回	地球温暖化(気候変動)とは何か
第18回	地球温暖化対策:排出権取引など
第19回	地球温暖化と国際関係(1):京都議定書
第20回	地球温暖化と国際関係(2):京都議定書以降
第21回	地球温暖化と日本の取り組み
第22回	日本のエネルギー政策(戦後のエネルギー政策)
第23回	日本のエネルギー政策(これからのエネルギー政策)
第24回	世界のエネルギー政策と環境対策
第25回	再生可能資源の経済学
第26回	再生不可能資源の経済学
第27回	日本のごみ問題
第28回	ごみ問題とリサイクル
第29回	リサイクルと国際貿易
第30回	まとめ

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定の教科書による予習(30分程度)と教科書と配布資料による復讐(1時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	20 %	期間中に1~2回
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験・レポートは実施後講評を行う

教科書

グラフィック環境経済学, 浅子和美・落合勝昭・落合由紀子, 新世社, 2015, ISBN=9784883842216

参考文献コメント

授業で配する資料に適宜記載する

履修上の注意

- 1: 扱う範囲が広いので、教科書による予習、教科書と配布資料による復習を行うこと
- 2: 応用分野のため、理解するにはマイクロ経済学、マクロ経済学などの基礎知識が必要となる。また、ラグランジュ乗数法などを用いた数学的な説明も行われる。それらについては授業内で補足的に説明は行うが、受講者は必要な知識を補うように各自でも準備・学習を行うこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210224101	科目ナンバリング	021A226
講義名	ゲーム理論(経済学科)		
副題	ーゲーム理論入門ー		
英文科目名	Game Theory		
担当者名	神戸 伸輔, 清水 大昌		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西5-201, 第2学期 木曜日 2時限 西5-201		

授業概要

ゲーム理論を、図を用いたりして直感的に理解することを目的とする。数学に関してはあまり高度なものは使わず、必要に応じて公式を説明し解説する。基礎ミクロ経済学程度の経済学の知識は前提とする。

到達目標

ゲーム理論の基本的な概念といくつかの応用例を学び、ゲーム理論を使って現実の経済現象を説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	情報の経済学とは
第2回	1. 情報の非対称性とは何か 情報の非対称性とは
第3回	誘因整合性
第4回	インセンティブ契約 情報の経済学の発展
第5回	2. モラルハザードとインセンティブ契約 モラルハザードとは
第6回	モニタリングとインセンティブ契約
第7回	最適なインセンティブ契約
第8回	マルチタスクとインセンティブ契約
第9回	いろいろなインセンティブ契約 モラルハザードの問題への対応策の立て方
第10回	3. 逆選択:スクリーニングとシグナリング 逆選択とは何か
第11回	スクリーニング(非線型価格付け)
第12回	スクリーニング(保険市場のスクリーニング)
第13回	シグナリング(学歴モデル)
第14回	シグナリング(いろいろなシグナリング)
第15回	理解度の確認
第16回	同時手番ゲームとナッシュ均衡
第17回	色々なゲームの紹介と囚人のジレンマ
第18回	支配戦略と逐次消去
第19回	2x2x2ゲーム、逐次手番ゲーム、サブゲーム完全均衡
第20回	展開形から戦略形への変換と信憑性のない脅し
第21回	コミットメント、動学的非整合性
第22回	ホールドアップ問題、有限回繰り返しゲーム
第23回	無限回繰り返しゲーム
第24回	交渉ゲーム(同時提案ゲーム、最後通牒ゲーム)
第25回	交渉ゲーム(交互提案ゲーム)
第26回	交渉ゲーム(ナッシュ交渉)
第27回	公共財の供給とフリーライダー問題
第28回	メカニズム・デザイン
第29回	Groves-Clarke メカニズム
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

前期は不確実性や情報の非対称性がある場合の分析手法を学ぶ。後期はゲーム理論の基本設定とそれを用いた応用的分析手法を学ぶ。

授業方法

授業方法

講義形式による。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料について読んでくる(約30分)

授業中に配布したクイズや過去問について解いてみる(約60分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	各学期にミニテストを2回ずつ(各5点)行う。
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ミニテスト提出後に解説を行う。

学期末試験・学年末試験の略解はそれぞれの教員のホームページを通じて公表される。

教科書

『入門 ゲーム理論と情報の経済学』,神戸 伸輔,日本評論社,2004,9784535554146

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210300101	科目ナンバリング	021B111
講義名	経済地理学		
英文科目名	Economic Geography		
担当者名	西尾 尚子		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 南3-201		

授業概要

経済地理学の基礎理論・種々の事例・分析方法論について学ぶ。都市・地域の解析、都市経済との関連性を重視し、都市計画や地理情報システム等の近年の話題についても触れる。

到達目標

経済地理学の基礎理論・種々の事例・分析方法論等について理解を深める。これらがどのように都市に展開されているのかを含め、多角的な捉え方ができるようになることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	都市と都市化
第3回	都市集積の現状
第4回	都市集積の理論
第5回	都市規模
第6回	都市システム
第7回	土地利用
第8回	住宅の立地
第9回	オフィスの立地
第10回	オフィスと住宅の立地
第11回	工場の立地
第12回	商業の立地
第13回	地価
第14回	土地政策
第15回	第1学期のまとめとレポート課題の出題
第16回	第2学期のイントロダクション
第17回	住宅市場
第18回	住宅政策
第19回	地域人口と移動
第20回	地域間交易
第21回	施設配置
第22回	都市と地域の交通－都市と交通
第23回	都市と地域の交通－交通サービスの需要
第24回	都市と地域の交通－交通混雑
第25回	都市と地域の交通－交通政策
第26回	都市の環境
第27回	都市環境心理学
第28回	都市・地域政策
第29回	第2学期のまとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

主な項目は以上の通りであるが、状況により変更する可能性がある。

授業方法

講義を中心とした授業を実施する。講義内容や履修人数によっては、ディスカッションや演習を取り入れる可能性もある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

復習は、講義で配布された資料を精読する、紹介された参考文献を読むなどし、講義内容の理解を深める努力をしてください。これまで何気なく歩いていた街も、講義内容を踏まえて新たに街を見てみると様々な気づきがあると思います。このようなこと全てが、この科目の予習・復習につながります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート	30 %	第1学期末に実施
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第2学期(学年末試験):60%(1年間の講義内容についての理解度と、その内容を踏まえての思考力を評価する)。レポート:30%(第1学期末に出題し、8月上旬頃提出。日時・提出方法は授業内でアナウンスする)。小テスト:10%(授業時に出席を兼ねた小テストを出す時もあります)。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期末に出題するレポートや小テストについては、講義時に解説します。

参考文献

都市と地域の経済学[新版],黒田達朗・田淵隆俊・中村良平,有斐閣,2008,9784641183711
経済地理学—立地・地域・都市の理論,松原宏,東京大学出版会,2006,9784130402262
住環境—評価方法と理論,浅見泰司,東京大学出版会,2001,9784130622028
都市モデル読本,栗田治,共立出版,2004,9784320076808
都市経済学(第2版),金本良嗣・藤原徹,東洋経済新報社,2016,9784492813034

参考文献コメント

この他の参考文献については、各回の内容に合わせて授業内で紹介する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修希望者数が一定数(目安としては200名程度)を大きく越えた場合には、人数を制限することがあるので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加すること。出席していない学生は履修を認められないことがあるので注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210302101	科目ナンバリング	021B211
講義名	農業経済論		
副題	経済発展と食料・農業		
英文科目名	Agricultural Economics		
担当者名	祖父江 利衛		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 南1-203		

授業概要

現代の日本は、世界有数の農産物輸入国です。そこで、第1学期は、先進国と途上国の比較等を通じて経済発展と農業・食糧問題、世界の農産物生産事情や農産物貿易の実情を考察します。

第2学期は、戦後日本の食生活の変化と農業生産の変遷を考えます。

到達目標

日常生活で何気なく口にしている食糧についての理解を深めていただき、専門分野に関する知識と分析・思考力、先進国と途上国との比較を通じて世界を見詰める目を養ってください。

そのことを通じて、今日流布している通説や定説が意外に稚拙で実態を反映していない側面を知ることができるはずです。

授業内容

実施回	内容
第1回	講義の目的と方法: 農業経済論とは
第2回	経済発展と農産物需要構造の変化(1): 先進国の食糧問題・途上国の食糧問題
第3回	経済発展と農産物需要構造の変化(2): 飽食と飢餓の同時併存
第4回	経済発展と農産物需要構造の変化(3): 経済発展に伴う食糧需要の変化
第5回	農産物需要から見た農産物の商品特性(1): 先進国における農産物需要の特徴
第6回	農産物需要から見た農産物の商品特性(2): 農産物の需要と価格機能
第7回	経済発展と農産物供給構造の変化(1): 経済発展と農地の動向
第8回	経済発展と農産物供給構造の変化(2): 農地比率の違いは何に起因するのか
第9回	経済発展と農産物供給構造の変化(3): 農業形態の相違と食糧需要への対応
第10回	世界の穀物生産と穀物貿易(1): 世界のトウモロコシ生産
第11回	世界の穀物生産と穀物貿易(2): 世界のトウモロコシ貿易
第12回	世界の穀物生産と穀物貿易(3): 世界の大豆生産と貿易
第13回	世界の穀物生産とその「限界」: 大規模穀物生産は持続可能か
第14回	世界が直面しているの食糧・農業問題とは
第15回	第1学期のまとめ
第16回	戦後日本農業を考察する論点: 戦後日本経済の発展と食糧自給率
第17回	日本の食糧自給率と食生活(1): 50年前と現在の食生活
第18回	日本の食糧自給率と食生活(2): 供給熱量自給率の意味するところ
第19回	日本の食糧自給率と食生活(3): なぜ食糧自給率は低下したのか
第20回	日本の経済発展と飼料生産(1): 飼料生産はなぜ重要なのか
第21回	日本の経済発展と飼料生産(2): 飼料生産と特殊日本的事情
第22回	日本の経済発展と飼料生産(3): 飼料生産の可能性
第23回	農家と農業労働力(1): 農家・農業就業者の定義
第24回	農家と農業労働力(2): 農業就業者・新規農業従事者の現在
第25回	農家と農業労働力(3): 戦後日本農業の担い手
第26回	農業経営と大規模化(1): 日本農業における大規模化の限界
第27回	農業経営と大規模化(2): 日本の稲作生産費における大規模化の効果
第28回	農業経営と農家所得: 日本における農業所得と農家経済
第29回	日本農業の将来像: どこに担い手が存在しているのか
第30回	第2学期のまとめ

授業方法

講義形式ですが、適示に意見を求めます。積極的に考えを述べてください。意地でも「わかりません」と言わないように。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

前回までの授業で何を課題として、どのようなことに考察・分析したかを必ず反芻しましょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

得られた知見をもとに、あなた自身がどのように考え、いかなる論拠で回答を見出すのか論理性と洞察力が問われます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験に対するフィードバックは、個別の問い合わせに応じます。

教科書コメント

特定の教科書は、使用しません。レジユメを配布します。

履修上の注意

先にも述べましたが、授業中に指名して意見を求めます。

その他

洞察力や分析力を磨く努力をしましょう。小生は、そのお手伝いをします。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210304101	科目ナンバリング	021B310
講義名	○地方財政論		
英文科目名	Local Public Finance		
担当者名	小林 航		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 1時限 中央-405.第1学期 金曜日 2時限 中央-405		

授業概要

この講義では、政府間機能配分論や政府間財政移転論などの基礎理論を学びながら、地方税や地方交付税などの地方財政制度について理解を深める。

到達目標

地方財政に関する基礎理論を踏まえ、地方財政制度のあり方について自分で考察できるようになることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	伝統的機能配分論
第2回	地方公共財の理論
第3回	地方公共財のスピルオーバー問題
第4回	定率補助金と政府間交渉
第5回	日本の政府間機能配分
第6回	地方分権改革と法定受託事務
第7回	租税原則と地方税原則
第8回	課税の理論
第9回	個人所得課税
第10回	法人課税
第11回	消費課税
第12回	資産課税
第13回	前半のまとめ
第14回	前半の要点確認
第15回	分権化定理と地域間格差
第16回	財政余剰と非負制約
第17回	居住地選択と人口配分
第18回	人口移動と財政移転
第19回	地方税の偏在性と地方交付税
第20回	国庫支出金と三位一体改革
第21回	地方法人課税の偏在是正措置
第22回	ふるさと納税
第23回	公債の中立命題
第24回	地方債の食い逃げ問題
第25回	地方債制度
第26回	地方財政健全化制度
第27回	後半のまとめ
第28回	後半の要点確認
第29回	全体のまとめ
第30回	全体の要点確認

授業方法

全部で12のトピックを2回ずつに区切って講義する。また、基礎知識の定着を目的としてトピック毎に小テストを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

余剰分析、無差別曲線分析、ラグランジュ乗数法など、ミクロ経済学の基礎知識を予め復習しておくこと。また、各回の終了後、講義内容について1時間以上の復習を行い、次の講義や小テストに備えること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	30 %	
レポート		
小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストについては解答後に解説を行う。

教科書コメント

教科書は特に指定しない。

参考文献

地方財政論入門,佐藤主光,新世社,2009,978-4883841332

地方財政論,持田信樹,東京大学出版会,2013,978-4130421409

履修上の注意

小テストは授業の冒頭で行うため、遅刻をすると受けることができない。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210305101	科目ナンバリング	021B311
講義名	証券市場論		
英文科目名	Security Market and Investment		
担当者名	新井 富雄		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 西2-303		

授業概要

本講義は、債券、株式から先物、オプション等のデリバティブ商品にわたる各種の証券の仕組みと価格評価、投資手法の基本について理解することを目的とする。資金調達、資産運用、リスク管理など多面的な実務に応用される標準的なファイナンス理論の概念や考え方の解説に力点を置くが、実務上の問題点・トピックスあるいは市場動向等も取り上げて解説する。

到達目標

ファイナンス理論の基礎概念を習得し、債券、株式、デリバティブという各々の証券市場の仕組み及びそこで取引される各種の証券の価格形成について理論的に分析、説明する力と、応用分野であるポートフォリオ運用手法について考察するために必要な分析力を身につけることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	証券市場の仕組みと機能
第2回	債券の発行市場と流通市場
第3回	株式の発行市場と流通市場
第4回	先物市場とオプション市場
第5回	金利計算の基礎
第6回	債券価格の評価
第7回	スポットレートとフォワードレート
第8回	デュレーションとコンベクシティ
第9回	金利のファクター・モデル
第10回	金利リスクと信用リスク
第11回	様々な債券
第12回	証券化商品
第13回	株式のファンダメンタル分析
第14回	株式評価モデル
第15回	理解度の確認
第16回	投資家の選好
第17回	ポートフォリオのリスクとリターン
第18回	平均・分散アプローチ
第19回	資本資産評価モデル(CAPM)
第20回	マルチファクターモデルとAPT
第21回	市場の効率性と行動ファイナンス
第22回	株式の運用スタイルとパフォーマンス評価
第23回	先物価格の理論
第24回	スワップ契約とその価値評価
第25回	先物を用いたヘッジ戦略
第26回	オプション契約とオプション戦略
第27回	二項モデル
第28回	ブラック・ショールズ・モデル
第29回	オプションのリスク管理指標
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

学生の理解度に応じて講義内容、順番を若干変更する可能性あり。

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前に予め教科書の該当箇所を読んで来るとともに、授業後の復習で理解度を確認すること(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題については、授業時間内に答えを解説するとともに、ウェブサイトにも模範解答を掲載する。

教科書

コーポレート・ファイナンス:基礎と応用,新井富雄/高橋文郎/芹田敏夫,中央経済社,2016,4502183512

新・証券投資論:理論篇,小林孝雄/芹田敏夫,日本経済新聞出版社,2009,4532133726

図説 日本の証券市場 2018年版,日本証券経済研究所 編,日本証券経済研究所,2018,4890325409

参考文献

金融工学入門,ルーエンバーガー(著)、今野浩(訳),日本経済新聞出版社,第2,2015,4532134587

参考文献コメント

その他の参考文献は授業中に紹介する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104001Z1	科目ナンバリング	021D328
講義名	◇経済数学(上級Ⅰ)		
副題	-静学最適化問題-		
英文科目名	Mathematics for Economics (Advanced Course I)		
担当者名	神戸 伸輔		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 北1-302		

授業概要

経済学の専門論文を読むために必要な数学的手法を分かりやすく解説する。ゼミで理論的な論文を読んだりあるいは調査系の職に就きたい場合には、ぜひ履修してほしい。また、大学院で経済学を研究する上で欠かせない手法を学ぶので、大学院生および将来進学を考えている人には、履修することを強く薦める。具体的には、ミクロ経済学およびマクロ経済学の理論的な基礎となる最適化の手法を学ぶ。経済数学特論Ⅰ(経済数学上級Ⅰ)では静学最適化を扱い、経済数学特論Ⅱ(経済数学(上級Ⅱ))では動学最適化を扱う。

到達目標

経済学の専門論文を読むために必要な数学的手法を理解し、自分で使えるようになる。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	序. 基礎定理と凸分析
第2回	解析の基礎定理
第3回	凸集合と凹関数
第4回	凹関数の性質
第5回	1. 古典的方法
第6回	古典的方法の応用
第7回	包絡面の定理
第8回	2. ラグランジュ乗数法
第9回	ラグランジュ乗数の解釈
第10回	3. 非線形計画法
第11回	クーン・タッカー条件の意味と制約想定
第12回	クーン・タッカー条件に関する定理
第13回	クーン・タッカー条件を使った解法
第14回	クーン・タッカー条件の証明
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

数学については経済学部で開講されている「経済数学」を履修していること(あるいはそれと同水準の数学力を持っていること)のみを要求し、必要な部分は解説する。この講義は大学院と学部の共通講義である。

授業方法

講義により行い、適宜宿題を課す。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業のノートを読み返し、宿題に回答する(1時間30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	宿題およびクラスへの参加により評価する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

宿題に関しては、授業中に解説する。期末試験の略解はWEBサイトを通して伝える。

参考文献

経済学のための最適化理論入門,西村清彦,東京大学出版会,1990,4130420372

経済学・経営学のための数学,岡田 章,東洋経済新報社,2001,4492312986

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104011Z1	科目ナンバリング	021D329
講義名	◇経済数学(上級Ⅱ)		
英文科目名	Mathematics for Economics (Advanced Course Ⅱ)		
担当者名	河重 隆一郎		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西2-305		

授業概要

経済学の上級テキストを読むために必要な数学的手法を分かりやすく解説する。ゼミで理論的な文献を読んだりあるいは調査系の職に就きたい場合には、ぜひ履修してほしい。また、大学院で経済学を研究する上で欠かせない手法を学ぶので、大学院生および将来進学を考えている人には、履修することを強く薦める。
具体的には動学最適化問題をあつかう。これは、一定の時間経過のなかでその期間全体を通じた最適化を考える数学的手法であり、経済数学特論I(学部: 経済数学上級I)で学習した静学最適化問題による、ある瞬間の最適化とは問題の性質が異なる。

到達目標

経済学の上級テキストを読むために必要な数学的手法を理解し、自分で使えるようになる。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	基本事項の復習(微分積分の復習)
第3回	動学最適化問題の概要
第4回	変分法の基本問題(1)
第5回	変分法の基本問題(2)
第6回	可動的終点のための横断性条件
第7回	2階条件
第8回	制約条件付き問題
第9回	最適制御: 最大値原理(1)
第10回	最適制御: 最大値原理(2)
第11回	最適制御の一層の考察(1)
第12回	最適制御の一層の考察(2)
第13回	制約条件付き最適制御(1)
第14回	制約条件付き最適制御(2)
第15回	まとめ

授業計画コメント

受講者と相談のうえ、授業計画を変更する可能性がある。
数学については経済数学を履修していることのみを要求し、必要な部分は解説する。

授業方法

教員の講義および事前に宿題として指示をした演習問題を受講者によって発表してもらい解答を検討することを組み合わせて行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

前回の授業で指示した項目の予習をしたうえで次の授業に臨むこと(30分～90分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教科書の演習問題を課題として課す。解答と解説は課題を提出した日の授業で解説を行う。

教科書

動学的最適化の基礎,A・C・チャン,シーエーピー出版,1,2006,978-4916092779

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104021Z1	科目ナンバリング	021D344
講義名	◇ミクロ経済学(上級Ⅰ)		
英文科目名	Microeconomics (Advanced Course I)		
担当者名	清水 大昌		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 東2-104		

授業概要

大学院の授業を理解する上で必要となることであろうミクロ経済学の基本モデルを学ぶ。具体的には、学部初級・中級レベルの授業ではモデル上の仮定としておいた様々な条件の妥当性やミクロ経済学的意味を掘り下げ、ミクロ経済学の主張と限界について理解を深めていく。本講義では基本的に(第12回の一部と14回を除いて)ゲーム理論的発想を含まないミクロ経済学の理論を紹介する。それを含む講義はミクロ経済学(上級Ⅱ)で次年度行う予定である。

到達目標

修士課程1年目に標準に扱うミクロ経済学理論を理解し、紹介された様々なモデルを使った問題を解けるようになること。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	記号論理学と証明方法について
第3回	公理と定理などの違いについて
第4回	消費者理論:選好と顕示選好の公理
第5回	序数的効用関数、効用最大化、ロフの恒等式
第6回	支出最小化とマッケンジーの補題
第7回	スルツキー方程式と等価変分・補償変分
第8回	期待効用理論
第9回	生産者理論:費用最小化問題とシェパードの補題
第10回	CES生産関数、利潤最大化問題とホテリングの補題
第11回	純粋交換経済とワルラス均衡、公共財供給
第12回	部分均衡分析と製品差別化
第13回	社会選択理論とアローの不可能性定理
第14回	ナッシュ交渉解
第15回	講義の総括と復習

授業方法

講義を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は特に課しませんが、必要に応じて行ってください。
復習は、授業内容を理解し、課された問題を解いてください。(約30～90分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	75 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):25%(講義内での発言を重視する。)レポート:75%(期末レポートにより理解度を確認します。)この科目は、学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

最終レポートはコメントを付与の上返却する。

教科書コメント

特にありません。

参考文献コメント

特にありませんが、ミクロ経済学の教科書をいくつか初回に紹介します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104051Z1	科目ナンバリング	021D311
講義名	◇マクロ経済学(上級Ⅱ)		
副題	景気循環論の諸類型		
英文科目名	Macroeconomics (Advanced Course II)		
担当者名	宮川 努		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 中央-403		

授業概要

基礎マクロ経済学及びマクロ経済学の修得を前提に、より動学的に景気循環を説明するマクロモデルを解説する。

到達目標

各景気循環モデルの特徴を的確に把握し、その違いが短期の政策インプリケーションの違いにどのように関係しているかを理解すること。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の進め方の説明
第2回	伝統的なケインズモデルに中央銀行の金利操作モデルを加えたモデルの解説
第3回	フィリップス曲線
第4回	総需要曲線と総供給曲線
第5回	マクロモデルの動学的特性
第6回	Dornbusch model
第7回	労働市場の不完全性に関する議論
第8回	Lucas modelの枠組み
第9回	Lucas modelの政策的インプリケーション
第10回	New Keynesian modelの基礎
第11回	動学的New Keynesian model
第12回	消費理論
第13回	投資理論
第14回	投資理論の実証的応用
第15回	授業の総括

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

第1回目の授業で、それ以降の授業内容が教科書のどの部分に対応するかについて述べるので、各授業の前に1時間程度該当する部分を予習すること。また数学ツールに関する宿題も出すので、これについては翌週提出すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	40 %	宿題の提出
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

大学院生も参加する比較的高度な授業なので、参加する学部生については、講義を通じての授業の理解度を重視した評価とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

主に数学ツールの理解に関する宿題を出す。この提出は、原則として宿題が出された週の翌週である。この宿題については採点の上、さらに次の週に返却される。

教科書

上級マクロ経済学, デビット・ローマー, 日本評論社, 第3, 2010, 978-4-535-55493-1

履修上の注意

初回の授業には必ず出席すること

その他

授業中でも質問は可能。さらにな点はオフィスアワーで対応する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104061Z1	科目ナンバリング	021D330
講義名	◇計量経済学(上級 I)		
英文科目名	Econometrics (Advanced Course I)		
担当者名	赤司 健太郎		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 土曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

計量経済学における大学院レベルの洋書を輪読し、実証分析でしばしば用いられるGMMを中心に議論する。練習問題を解かせる場合があるので、学部「計量経済学」履修済みを前提とした統計的及び数理的知識を必要とする。

到達目標

GMM等による実証論文の理論的背景を理解する。なお、この科目は学部3～4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction
第2回	The Classical Linear Regression Model
第3回	Hypothesis testing under Normality
第4回	Relation to Maximum Likelihood
第5回	Generalized Least Squares (GLS)
第6回	Large-Sample Theory 1
第7回	Large-Sample Theory 2
第8回	Application: Rational Expectations Econometrics
第9回	Single-Equation GMM
第10回	Endogeneity Bias
第11回	Large-Sample Properties of GMM
第12回	Testing Overidentifying Restrictions
第13回	Implications of Conditional Homoskedasticity
第14回	Application: Returns from Schooling
第15回	Summary

授業方法

受講生によるレジメを用いた輪読発表

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に輪読の担当箇所を熟読しておくこと(約60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	レジメの評価

成績評価コメント

この科目は学部3～4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表中心なので、その都度コメントを行う。

教科書

Econometrics, Hayashi, F., 2000

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

学部選択必修科目の「計量経済学」を履修済みであること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104071Z1	科目ナンバリング	021D331
講義名	◇計量経済学(上級Ⅱ)		
英文科目名	Econometrics (Advanced Course Ⅱ)		
担当者名	田中 勝人		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 1時限 西1-203		

授業概要

計量経済学のいくつかのトピックを取り上げて、その理論と実際について説明する。現実の経済データを使った分析については、計量ソフト EViews あるいは Stata を使って実習を行う。

到達目標

この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じであり、一般のエコノミストレベルの実証分析ができるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス(授業の進め方、内容の紹介、ソフトの紹介など)
第2回	回帰分析-古典的な場合
第3回	回帰分析-一般的な場合
第4回	ダミー変数と質的変数
第5回	ロジット分析とプロビット分析-理論
第6回	ロジット分析とプロビット分析-応用
第7回	パネルデータの分析-理論
第8回	パネルデータの分析-応用
第9回	時系列分析
第10回	単位根検定-応用
第11回	共和分検定と誤差修正モデル
第12回	インパルス応答分析
第13回	実証分析の内容発表
第14回	まとめ
第15回	理解度の確認

授業方法

ダウンロード可能な授業資料に基づいて進める。適宜、計量ソフト EViews を使った説明と実習を行う。実際の経済データを使った実証分析を課題とする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に授業に関連した資料などを読んで予習する(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや小テストの解答に対して、個々にコメントする。

教科書コメント

教科書は使用しない。授業中にレジュメや資料を配布する。

参考文献コメント

授業内容に合わせて適宜紹介する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名)

その他

人数によっては履修者を制限することもある。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104101Z1	科目ナンバリング	021D312
講義名	◇一般経済史(上級 I)		
英文科目名	General Economic History (Advanced Course I)		
担当者名	眞嶋 史叙		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 個人研究室		

授業概要

大学院生が経済史の既往文献の内容を自らの確に評価できるよう、時代性・専門性の双方を視野に入れて理解を深めていくことを授業の目的としています。大学院レベルについていけるような一部の優秀な学部生が受講することも可能です。学部生の場合は、一般経済史を既に良い成績で修得していること、もしくは本年度同時に履修し好成績を残す自信があることが受講条件です。一般経済史の講義内容をグローバルな視点からより深く理解するために、対応する多くの文献(英語の学術論文を含む)を読み、受講生が交代でプレゼンテーションおよびディベートを行っていきます。また、レポート執筆指導も随時行っていくことにより、大学院レベルに必要な文章表現力も養成していきます。歴史的なケーススタディを用いながら、経済的な意思決定プロセスの選択肢を吟味し、それぞれ経済学的見地の長所短所を明らかにしていく能力を身につけることが主な狙いです。

到達目標

既往文献の内容を理解し、的確な評価を与えられるようになります。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じです。博士後期課程の大学院生の到達目標も博士前期課程の大学院生と同じです。

授業内容

実施回	内容
第1回	Methods of Global Economic History
第2回	The Industrial Revolution and the pre-industrial economy
第3回	The high-wage economy of pre-industrial Britain
第4回	The agricultural revolution
第5回	The cheap energy economy
第6回	Why England succeeded
第7回	Why was the Industrial Revolution British?
第8回	The steam engine
第9回	Cotton
第10回	Coke smelting
第11回	Inventors, Enlightenment and human capital
第12回	From Industrial Revolution to modern economic growth
第13回	Collective Invention
第14回	データ収集・分析方法に関する指導(統計資料の利用法・ExcelおよびSPSSの使用法の指導)
第15回	学期末レポートに関する指導(テーマ選び・執筆体裁指導・文章表現力指導)

授業方法

ゼミ形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

文献の精読(適宜)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行います。博士後期課程の大学院生の成績評価も博士前期課程の大学院生と同様に行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出したレポートには、コメントを付して返却します。

教科書

The British Industrial Revolution in Global Perspective, Robert C. Allen, Cambridge University Press, 2009

参考文献コメント

その他の英語文献を授業時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104141Z1	科目ナンバリング	021D316
講義名	◇国際経済学(上級 I)		
英文科目名	International Economics (Advanced Course I)		
担当者名	棕 寛		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 東2-101		

授業概要

中～上級レベルの国際貿易論のテキストの輪読を通じて、論文執筆のための問題意識と分析能力を養うことを目的とする。

到達目標

大学院初級レベル(学部上級レベル)の国際貿易論の理論と実証の手法を身につけることができるようになる。この科目は学部3～4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	講義のガイダンスと報告の割り当て
第2回	序章 新々貿易理論への招待
第3回	第1章 貿易の決定要因(その1)
第4回	第1章 貿易の決定要因(その2)
第5回	第2章 産業内貿易(その1)
第6回	第2章 産業内貿易(その2)
第7回	第3章 企業の生産性と海外展開(その1)
第8回	第3章 企業の生産性と海外展開(その2)
第9回	第4章 貿易の効果(その1)
第10回	第4章 貿易の効果(その2)
第11回	第5章 貿易政策の基礎(その1)
第12回	第5章 貿易政策の基礎(その2)
第13回	第6章 貿易政策の応用(その1)
第14回	第6章 貿易政策の応用(その2)
第15回	まとめ

授業方法

テキストの輪読形式を取る。受講者は割り当てられた章を報告する義務があり、報告内容を踏まえて全体で議論する。発言が無い場合はこちらから指名の上、発言を求める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎週テキストの該当箇所を読んでくること(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	出席・報告・議論の内容に応じて得点をつける。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この科目は学部3～4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の報告が中心であるため、報告時に適時コメントする。提出されたレポートにコメントし、返却する。

教科書

実証から学ぶ国際経済,清田耕造・神事直人,有斐閣,2017,9784641165175

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

上級のミクロ経済学の知識や産業組織論の知識、微分・積分の基礎知識を前提とする。国際貿易論の分野で論文を執筆予定であることが望ましい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104181Z1	科目ナンバリング	021D322
講義名	◇統計学(上級 I)		
副題	Statistical causal inference		
英文科目名	Statistics (Advanced Course I)		
担当者名	福地 純一郎		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西2-505		

授業概要

計量経済学の複数のトピック(Quantile regression, Panel data model, Synthetic control など)を選び、それらに関する英語のテキストを輪読し、問題演習を行う。

到達目標

英語テキストを読み、計量経済学の統計学的側面について学ぶ。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Regression models
第3回	Quantile regression
第4回	Quantile regression
第5回	Panel data model
第6回	Panel data model
第7回	Synthetic control method
第8回	Synthetic control method
第9回	Synthetic control method
第10回	Causal inference
第11回	Causal inference
第12回	Conformal prediction
第13回	Conformal prediction
第14回	Conformal prediction
第15回	まとめ

授業方法

大学院生による輪読を進める。宿題を解き、解説する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

線形代数および微分積分(広義積分、重積分と変数変換公式)の十分な知識を前提として授業を行う。統計学の基礎知識(確率変数、確率分布、推定、仮説検定、正規分布、カイ2乗分布、t分布、回帰分析等)を前提とするので、事前に復習をしておくこと。指定した下論文を事前に読んでおくこと。授業時間外に約120~240分の準備が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	課題

成績評価コメント

この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストおよび課題についてサジェスションと評価を書き返却する。

履修上の注意

学部生については、十分な事前知識を持つ場合のみ履修を認める。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104201Z1	科目ナンバリング	021D324
講義名	◇労働経済学(上級 I)		
英文科目名	Labour Economics (Advanced Course I)		
担当者名	脇坂 明		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 1時限 北1-406		

授業概要

労働経済学の専門的内容を大学院生と熱心な学部生とともに勉強し、国内外の研究の基礎を理解します。学部生は労働経済学を履修していることが条件となります。

到達目標

労働や組織について理解し、自らの意見を持ち、自分の言葉で説明できるようになる。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	労働経済学研究の概観
第2回	雇用と失業
第3回	ワークシェアリングのタイプ
第4回	高齢者雇用
第5回	労働時間と労働供給モデル
第6回	労働時間と生活時間のバランス
第7回	ワーク・ライフ・バランス(WLB)施策の効果
第8回	WLB施策の課題
第9回	ダイバーシティと障害者雇用
第10回	女性の労働供給
第11回	女性雇用管理
第12回	若年労働とフリーター
第13回	少子化と労働力人口
第14回	授業のまとめ
第15回	自主研究

授業方法

テーマによって、ブリーフィングのあと議論する場合と、履修者各自に指示する文献を読んできて、報告と議論をおこなう場合があります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指示した文献を読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第1学期(学期末試験):100%(授業での発表と発言)

この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントペーパーの内容をもとに、資料配布等を行う。

教科書

労働供給の経済学:叢書:働くこと,三谷直紀編著,ミネルヴァ書房,2008

教科書コメント

叢書シリーズの別の巻の論文を読むすすめます。

参考文献

労働経済学入門,脇坂明,日本評論社,2011

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。「労働経済学」単位履修者がよいが、もし未履修の場合でも、労働経済学の基礎知識を前提とします。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104221Z1	科目ナンバリング	021D326
講義名	◇日本経済史(上級Ⅰ)		
英文科目名	History of the Japanese Economy (Advanced Course I)		
担当者名	石井 晋		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 西2-205		

授業概要

日本経済史に関する文献(日本語または英語)に関する解説と輪読。今年度は、生産システムやイノベーションを中心に取り上げる予定。

到達目標

日本経済史に関する先行研究を正しく評価できるようにする。
この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	論文の解説と輪読(1)
第3回	論文の解説と輪読(2)
第4回	論文の解説と輪読(3)
第5回	論文の解説と輪読(4)
第6回	論文の解説と輪読(5)
第7回	論文の解説と輪読(6)
第8回	論文の解説と輪読(7)
第9回	論文の解説と輪読(8)
第10回	論文の解説と輪読(9)
第11回	論文の解説と輪読(10)
第12回	論文の解説と輪読(11)
第13回	論文の解説と輪読(12)
第14回	授業のまとめ
第15回	予備日

授業計画コメント

参加者と相談しながらテキストを決める。

授業方法

輪読

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に必ずテキストを読み、自分の理解をまとめておくこと。(約2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	研究意欲

成績評価コメント

この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業でフィードバックをする。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

意欲的な大学院生および将来の大学院進学を強く希望する学部生を対象とする。研究意欲のない者の履修は認めない。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104251Z1	科目ナンバリング	021D333
講義名	◇日本経済論(上級Ⅱ)		
英文科目名	Japanese Economy (Advanced Course Ⅱ)		
担当者名	滝澤 美帆		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 西1-212		

授業概要

日本経済はバブル崩壊以降長期の経済停滞に陥っている。経済停滞の要因の解明に関連する様々な研究を紹介する。その際に必要となる経済理論や分析手法についても説明する。

到達目標

- ・成長会計の方法を説明できる
- ・資源配分の効率性の計測方法を説明できる
- ・日本の経済停滞の要因について説明できる

なお、この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション～授業の進め方、
第2回	データで見る日本経済
第3回	日本産業生産性(JIP)データベースの説明
第4回	産業レベルデータを使った成長会計分析の方法
第5回	産業レベルの資源配分効率
第6回	資本に体化された技術進歩と新規投資
第7回	組織資本の定量的評価
第8回	規制緩和と産業のパフォーマンス
第9回	参入・退出
第10回	産業の新陳代謝機能
第11回	新規参入企業の生産性と資金調達
第12回	貿易・生産構造の変化と企業間格差
第13回	海外進出・生産委託の影響
第14回	まとめ:停滞脱出への方策
第15回	理解度の確認

授業方法

講義と受講者による発表

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前学習: 次回の講義内容に関する資料を予習すること(1時間～)

事後学習: 講義した内容に関して復習をし、不明な点を明らかにすること(1時間～)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

講義への参加度(50%)と試験(50%)により評価する。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題については、その都度解説をする。

教科書

生産性と日本の経済成長-JIPデータベースによる産業・企業レベルの実証分析, 深尾 京司、宮川 努(編), 東京大学出版会, 2008, 978-4-13-040237-8

教科書コメント

読むべき資料については教員からその都度指示する。

履修上の注意

- ★マクロ経済学(基礎マクロだけでなくより上級のマクロも)、計量経済学、統計学を履修済みであること。
- ★経済数学で学んだ内容を十分理解していること。
- ★成績評価は学部生と大学院生は同じものとする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104261Z1	科目ナンバリング	021D334
講義名	◇国際金融論(上級Ⅰ)		
副題	Eviewsによる金融データの実証分析を学ぶ		
英文科目名	International Monetary Economics (Advanced Course I)		
担当者名	清水 順子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 個人研究室		

授業概要

本講義は、現在の外国為替に関わる諸問題が理論的・実証的にどのように分析されているのかについて教科書や最新の論文を参照しながら、論文作成上必要なデータの収集や正しい取扱い方、および実証分析を行う能力の習得を最終目的とする。具体的には、教科書「MBAのための国際金融」の内容に基づき、為替相場にかかわる理論を学びながら、実際のデータを用いてEViewsで実証分析を行い、その結果をどのように解釈するのかについて学ぶ。

到達目標

為替相場の決定理論に基づき、計量ソフトEViewsを使って為替や金融データを用いた実証分析を行い、その結果を解釈する、という一連の作業を習得することを到達目標とする。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。博士後期課程の大学院生の到達目標も博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(EVIEWSの使い方の復習)
第2回	国際収支と為替相場の基本概念
第3回	国際収支の関連データを用いた実証分析
第4回	購買力平価の実証分析
第5回	購買力平価の関連データを用いた実証分析
第6回	金利平価の実証分析
第7回	金利平価の関連データを用いた実証分析
第8回	伸縮マネタリー・アプローチの実証分析
第9回	伸縮マネタリー・アプローチの関連データを用いた実証分析
第10回	硬直マネタリー・アプローチの実証分析
第11回	硬直マネタリー・アプローチの関連データを用いた実証分析
第12回	為替相場制度の選択の実証分析
第13回	為替市場関連データを用いた実証分析
第14回	受講者の研究成果報告1
第15回	受講者の研究成果報告2

授業計画コメント

受講者の進捗や希望に応じて講義内容が若干変更される場合がある。

授業方法

前半の講義で受講者の能力に応じて計量経済学の復習を行い、計量ソフトEviewsの使い方を習得する。その上で、教科書を輪読しながら、各章の内容に合わせて為替データを用いて実証分析を行い、その結果を報告する。最終的には各自がテーマを決めて行った実証分析結果を報告する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと(1時間)。教科書の輪読担当者は、プレゼン資料を作成する(2時間)。与えられたデータを使い、Eviewsを用いて実証分析を行う(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	講義中に担当する輪読の資料、及び実証分析結果のまとめをレポートとして毎回評価する。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(講義内での発言を重視する。)

レポート:50%(輪読や論文報告の際のプレゼンテーションを重視する。)

この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

隔週で課題として出される実証分析について、各々が報告するが、その実証分析や結果の解釈について、講義中に受講者とともに評価し、フィードバックを行うことで、実証分析能力を向上させる。

教科書

MBAのための国際金融,小川英治・川崎健太郎,有斐閣,初,2007,4641162883

参考文献

EViewsによる計量経済分析,松浦克己/コリン・マッケンジー,東洋経済新報社,2,2012,4492314210

参考文献コメント

授業内で適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(15名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

できれば、国際金融論、国際経済学、計量経済学などの単位を既に取得、あるいは取得中であることが望ましい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104281Z1	科目ナンバリング	021D336
講義名	◇産業組織論(上級 I)		
副題	洋書で学ぶ産業組織論		
英文科目名	Industrial Organization (Advanced Course I)		
担当者名	西村 淳一		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 東2-702		

授業概要

産業組織論に関する入門レベルの洋書の輪読を行う。授業では報告テーマに関するディスカッションを行い、例題も解いていくことで、実践力を養っていく。

到達目標

受講者が産業組織論に関する理論的な知識と基本的な実証分析の手法について習得することを目標とする。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。博士後期課程の大学院生の到達目標も博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction to industrial organization
第2回	Consumers
第3回	Firms
第4回	Competition, equilibrium, and efficiency
第5回	Market failure and public policy
第6回	Price discrimination
第7回	Games and strategies
第8回	Oligopoly
第9回	Collusion and price wars
第10回	Market structure
第11回	Horizontal mergers
第12回	Market foreclosure
第13回	Vertical relations
第14回	Product differentiation
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

テキストの内容は入門向けなので、より高度な理論分析に関する数学的展開や実証分析については適宜説明する。授業計画は暫定的であり、受講者と相談しつつトピックを決めていく。

授業方法

輪読と講義形式にて行う。報告内容について参加者によるディスカッションを行う。また、関連する例題を出し、学生自ら考える機会を設ける。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各自、テキストを事前に読み、疑問点をメモしておくこと(約3時間)。
報告者は報告資料を作成すること(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。博士後期課程の大学院生の成績評価も博士前期課程の大学院生と同様に行う。

無断欠席は認めない。

授業では活発に議論に参加する学生に高い評価をつける。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストは授業時間中に解説する。

参加者によるディスカッションを行い、適宜、議論内容についてコメントを行う。

教科書コメント

ガイダンスにて提示する。

参考文献コメント

ガイダンスにて提示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104301Z1	科目ナンバリング	021D338
講義名	◇公共経済学(上級 I)		
英文科目名	Public Economics (Advanced Course I)		
担当者名	三井 清		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西2-304		

授業概要

公共プロジェクトの評価手法である費用・便益分析について学ぶ。

到達目標

費用・便益分析の基礎的な理論を理解するとともに、その理論を用いた実際の政策評価事例についても理解できるようになる。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	費用便益分析(Cost-Benefit Analysis or CBA)への入門
第2回	CBAの基礎1:消費者余剰と補償変分・等価変分
第3回	CBAの基礎2:仮説的補償原理とマスグレイブ主義政策論
第4回	CBAの基礎3:プロジェクトの採否基準
第5回	プライマリー・マーケットにおけるCBA
第6回	セカンダリー・マーケットにおけるCBA
第7回	不確実性の処理(期待値、感度分析、情報の価値)
第8回	顕示選好法1:市場類似法
第9回	顕示選好法2:トラベルコスト法と環境質改善の便益評価
第10回	顕示選好法3:ヘドニック価格法と過大評価定理
第11回	顕示選好法4:仮想評価法(CVM)
第12回	費用便益分析のマニュアル:事例の紹介と検討1
第13回	費用便益分析のマニュアル:事例の紹介と検討2
第14回	公的資金の限界費用とランダム効用理論
第15回	まとめ

授業方法

基本的な質問をすることで理解度を確認しながら講義する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に配布された資料を読んでおく(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常点は最後の講義のときに伝える。

参考文献

【i】Cost-Benefit Analysis【/i】,Boardman, Anthony E. et al.,Prentice Hall,4nd Edition,2018

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104321Z1	科目ナンバリング	021D340
講義名	◇社会保障論(上級 I)		
副題	大学院生向けの授業である。高等数学を用いた社会保障理論を学ぶ		
英文科目名	Social Security (Advanced Course I)		
担当者名	鈴木 亘		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 北1-405		

授業概要

この授業は大学院生向けの授業であるが、極めてハイレベルに達している学部生も受講しても良いという種類の授業である。間違っても、学部向けの易しい社会保障論の延長ではなく、単位取得は極めて難しいので覚悟して登録すること。また、単位取得の為に、社会保障に関する卒業論文を書くことを求める。修士論文や博士論文を執筆しようとしている大学院生の論文指導を行うことが目的なので、卒業論文もそれなりのレベルを求める。

到達目標

社会保障に関する分野で、卒業論文を執筆してもらおう。この科目は学部3-4年生が受講することのできる「大学院」科目であり、通常は修士以上の大学院生が取る科目である。学部生でも全く容赦なく、同じレベルの到達目標を設定し、社会保障分野で研究者としての道を踏み出すレベルを要求する。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明、今後のスケジュールの確認
第2回	論文指導、関連文献の輪読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	論文発表、論文指導
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃

授業計画コメント

論文指導がメインであるので、自分の書きたい卒業論文のテーマが決まっていることが前提となる。多くの関連論文を読み、理論を展開し、計量経済学を活用した論文を書く。

授業方法

受講者が交代で、関連論文や執筆中の論文の発表を行う。レジュメを作成してそれをもとに説明してもらおう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

学部の経済数学、ミクロ経済学、ミクロ経済学(上級および特論)、ゲーム理論、統計学、計量経済学、社会保障論、経済学特殊講義(貧困地域再生の経済学)を取得済みか並行して取得していること。発表者はレジュメを基に説明してもらおうので、関連論文を読みこんで、レジュメを作成すること(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	クラスの参加状況などから総合勘案する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

社会保障をテーマに卒業論文を執筆してもらおう。それが50%。また、関連論文の発表や、大学院生達の発表に質問やコメントをして積極的に発言すること。それが50%。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に講評を行う。

参考文献コメント

特に無し

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

学部の経済数学、マイクロ経済学、マイクロ経済学(上級および特論)、ゲーム理論、統計学、計量経済学、社会保障論、経済学特殊講義(貧困地域再生の経済学)を取得済みか並行して取得していること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2104371Z1	科目ナンバリング	021D343
講義名	◇ゲーム理論(上級Ⅱ)		
英文科目名	Game Theory (Advanced Course Ⅱ)		
担当者名	和光 純		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 1時限 西2-205		

授業概要

大学院レベルで用いられる、ゲーム理論の基礎的概念と応用手法を習得する。

到達目標

修士論文・博士論文等でゲーム理論的分析を用いる際に、自分で簡単なゲームモデルが構築できるようにする。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ギボنز1章: 完備情報の静学ゲームの概念
第3回	ギボنز1章: 完備情報の静学ゲームの応用
第4回	ギボنز2章: 完備情報の動学ゲームの概念
第5回	ギボنز2章: 完備情報の動学ゲームの応用
第6回	ギボنز3章: 不完備情報の静学ゲームの概念
第7回	ギボنز3章: 不完備情報の静学ゲームの応用
第8回	ギボنز4章: 不完備情報の動学ゲームの概念
第9回	ギボنز4章: 不完備情報の静学ゲームの応用
第10回	有限回・無限回繰り返しゲームとフォーク定理
第11回	オークションの基礎理論: 第1価格入札・第2価格入札
第12回	オークションの基礎理論: 収入等価定理
第13回	マッチングの基礎理論: 安定マッチング
第14回	マッチングの基礎理論: Deferred Acceptance Algorithm
第15回	まとめ

授業方法

ギボنزの教科書『経済学のためのゲーム理論入門』を読み進めゲーム理論の基礎を学習する。その後、学んだツールを使い、さまざまなトピックに応用していく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に上記図書の該当箇所を十分に読み、予習しておくこと(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業中の議論への参加も総合して評価する。積極性を重視する。期末試験は、レポートに変える可能性もある。事前に説明する。この科目は学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院生と同様に行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポート問題の解答・解説をWebClass等の学内情報ネットワークを利用して行う。

参考文献

Game Theory for Applied Economists, Robert Gibbons, Princeton, 1992, 0691003955
 経済学のためのゲーム理論入門, ロバート ギボنز, 創文社, 1995, 442385080X

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210510301	科目ナンバリング	021B113
講義名	経済学特殊講義(保険論)		
副題	社会人に必須の“生きる力”を身につけよう		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Insurance)		
担当者名	坂本 隆・野口 直一		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 土曜日 1時限 西5-B1		

授業概要

“生きる力”とは何か、何故必要か考える！

皆さんはこれから社会人として社会で活躍していくこととなりますが、社会人として必要な能力とは何でしょうか。皆さん方に必要な能力、それは“生きる力”です。

それでは“生きる力”とは何か。皆さんがこれから経験することになる社会は、これまでの時代とは異なり前例が通用せず、経験したことのないような様々なリスクに直面することになるかも知れません。今、私たちに求められている力は、これからの生き方を自らデザインし、「社会に必要とされる能力」や「遭遇する可能性のある日常生活のリスク」を想定し、的確に対処することで皆さんの目標を実現するための力であり、これがまさに“生きる力”そのものなのです。

皆さんはこれからの人生にいろいろな夢を描いていると思います。皆さんが想い描く夢を具体的にデザインすることで目標になります。目標のある人はこれからの人生において、何事においてもくじけず、折れない強い心、すなわち人生の座標軸をもつことができます。

この講義では皆さん一人ひとりが“生きる力”を身につけることを目的にしています。

人生をデザインしよう！

皆さんの人生は、世界で一つだけの、皆さんだけのものです。「どの生き方が正しい」というものはありませんが、おそらく皆さんは、これから大きく分けて2つの人生のステージを経験することになるでしょう。

一つは社会人として社会の中で主体的かつ能動的に活動する就労期、そしてもう一つは、リタイアシゴールを意識し人生の集大成を目指すリタイア期です。

また、結婚し家族を形成する家族形成期、さらにお子さんが誕生するとお子さんとともに家族が成長していく家族成長期、そしてお子さんが独立し、夫婦二人の生活に戻る家族成熟期、やがて配偶者が死亡し単身世帯となる家族円熟期というライフサイクルも経験することになるでしょう。

このように皆さんはこれからそれぞれのライフステージ、ライフサイクルを経験していくわけですが、本講義では、皆さん一人ひとりの夢を目標に転換し、それを実現するための具体策をデザインし、実現するための力を身につけるためのお手伝いをしたいと思います。

ライフリスクに効果的に備えよう！

皆さんはこれから人生の中で様々なリスクに直面するかも知れません。また、リスクと言っても一人ひとりリスクの本質は異なりますが、ライフステージ・ライフサイクル特有のリスクもあります。そこで皆さんがこれからの生活をデザインするうえで重要なポイントがリスクを想定することです。そしてリスクが自分や家族にとってどのような影響があるか分析し、そしてダメージを評価することで具体的な対策を講じていく力、それもまさに“生きる力”と言えます。

学生である皆さんは、前例が通用しない変化の時代だからこそ一人ひとりが自分のゴールをしっかり見据え、今をどのように生きていくかというライフデザインを描くことで、これからの人生で遭遇するおそれのあるリスクを想定の確に対処し、一人ひとりが想い描いた人生を実現することが可能になります。

そしてリスク対処方法の重要な一つが保険の活用です。そこで本授業では保険とは何か、どのようなリスクに対応できるのか、また保険の限界は何かといったことを学びながら、一人ひとりが効果的に保険を活用するために必要な保険を“選ぶ力”を身につけることができるようにしたいと思います。

保険から世界を学ぶ！

皆さんは「保険」にどのようなイメージがあるでしょうか。身近な例としては、自動車事故、災害、病気などに備えるというイメージがあるかも知れませんが、しかし、実は、医薬品の開発から宇宙ロケットに至るまで、あらゆる分野に保険が関係しています。したがって、保険を学ぶことは、様々な業界について学ぶことと同義なのです。

皆さんがこれから直面する就職活動は、社会人としてのキャリアデザインの第一歩です。どのような職業が、これからの社会から必要とされるのか。この講義では、「保険」を軸に様々な業界の時事的な話題も織り交ぜていきます。本講義を通じて他業界への知見も深め、人生をデザインする力につなげて欲しいと思います。

到達目標

日常生活におけるライフリスクの本質を考え、ライフリスクを分析・評価し、ライフマネジメントを理解する。そして一人ひとりがこれからの自分の人生をデザインする力、そしてライフリスクに対処する力である“生きる力”の醸成を到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業概要
第2回	総論1(ライフプランニング)
第3回	総論2(リスクと保険)
第4回	保険の基礎知識(Ⅰ)－相互扶助の考え方など－
第5回	保険の基礎知識(Ⅱ)－保険会社の収益構造など－
第6回	生命保険の概要
第7回	損害保険の概要
第8回	保険の実務－保険契約成立までの流れなど－
第9回	社会保険制度(Ⅰ)
第10回	社会保険制度(Ⅱ)
第11回	保険と税

- 第12回 企業向け保険商品(生命保険)
- 第13回 企業向け保険商品(損害保険)
- 第14回 相続に関する法律
- 第15回 前期テスト
- 第16回 後期授業概要－前期テストの振り返り－
- 第17回 病気リスク
- 第18回 死亡リスク
- 第19回 大規模災害リスク
- 第20回 企業のかかえるリスク
- 第21回 保険会社とSDGs
- 第22回 長生きリスク
- 第23回 金融資産運用設計(Ⅰ)
- 第24回 金融資産運用設計(Ⅱ)
- 第25回 不動産
- 第26回 個人の税金を考える
- 第27回 保険とICT
- 第28回 事業承継リスク
- 第29回 ライフプランニング(総括)
- 第30回 後期テスト

授業方法

スライドを使った講義形式を基本とする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は特に必要ないが、講義で学んだ内容を自分自身で深掘りして考え、成長につなげること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の評価は、学年末試験(第2学期)後にフィードバックを行う。

その他

講義後に質問等を受け付けます。不明な点がある場合は積極的に質問してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210511101	科目ナンバリング	021B117
講義名	経済学特殊講義(経済統計をよむ1)		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Interpretation of Economic Statistics 1)		
担当者名	樋 浩一		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 南1-202		

授業概要

経済学でよく利用される統計のうちで、個別分野の統計をテーマに従って順次紹介する。統計学や計量経済学の予備知識は必要としない。テーマに関連した初歩的な経済理論も紹介されるが、ほとんどは水準や指数、伸び率や比率など初歩的な知識で足りる。レポートや資料作成時の情報の出所の示し方など研究倫理を学ぶ。

到達目標

経済学で利用される各統計の概要を知る。各統計がどのような問題を分析する際に使われているかを知る。自分の意見を説明するために適切な統計を選択し、正しく利用できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	経済統計の概要
第2回	就職:労働力調査
第3回	職業生活と所得:就業構造基本調査、賃金構造基本統計調査
第4回	格差
第5回	家計収支:家計調査、全国消費実態調査
第6回	家計消費:家計調査、全国消費実態調査
第7回	家計貯蓄:家計調査、全国消費実態調査
第8回	家計の資産:消費動向調査、全国消費実態調査
第9回	物価:消費者物価指数、企業物価指数
第10回	企業会計:法人企業統計調査
第11回	社会統計:国勢調査、将来推計人口
第12回	財政・社会保障
第13回	地域と世界
第14回	まとめと復習
第15回	習熟度の評価

授業計画コメント

授業の進行速度によっては、各回で扱うテーマが変更となることがある

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は、講義のテーマに関連したニュースに関心を持って、テレビやインターネットのニュースや新聞・雑誌の記事を読むこと(約30分)。復習では講義で紹介された統計が掲載されているウェブサイトを自分で閲覧して講義では紹介されていない情報など見てみる(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	期末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	数回簡単な課題の提出を求める
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験では経済統計を見る上で注意すべきことを理解しているかを問う。授業時に課される課題は自分で実際に統計を見て情報を探すことが求められる。学期末レポートは統計を適切に使って自分の考えを伝えているかがポイントとなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時に課される課題については各課題の締め切り以降の講義で説明する。学期末試験についての質問は個別に回答します。

教科書コメント

教科書は使用しない。パワーポイントの資料を投影して説明する。説明資料は出席者に配布する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210511201	科目ナンバリング	021B118
講義名	経済学特殊講義(経済統計をよむ2)		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Interpretation of Economic Statistics 2)		
担当者名	樋 浩一		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 南1-202		

授業概要

経済学でよく利用される統計のうちで、マクロ経済学や景気動向に関する統計をテーマに従って順次紹介する。統計学や計量経済学の予備知識は必要としない。テーマに関連した初歩的な経済理論も紹介されるが、ほとんどは水準や指数、伸び率や比率など初歩的な知識で足りる。レポートや資料作成時の情報の出所の示し方など研究倫理を学ぶ。

到達目標

経済学で利用される各統計の概要を知る。各統計がどのような問題を分析する際に使われているかを知る。自分の意見を説明するために適切な統計を選択し、正しく利用できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	マクロ統計の概要
第2回	景気動向指数
第3回	鉱工業生産
第4回	非製造業
第5回	国際収支
第6回	SNA(国民経済計算体系)
第7回	GDPの論点
第8回	貯蓄投資バランス
第9回	産業連関表
第10回	消費と住宅
第11回	景況感と設備投資
第12回	金融市場
第13回	通貨と金融政策
第14回	まとめと復習
第15回	習熟度の評価

授業計画コメント

授業の進行速度によっては、各回で扱うテーマが変更となることがある

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は、講義のテーマに関連したニュースに関心を持って、テレビやインターネットのニュースや新聞・雑誌の記事を読むこと(約30分)。復習では講義で紹介された統計が掲載されているウェブサイトを自分で閲覧して講義では紹介されていない情報など見てみる(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験では経済統計を見る上で注意すべきことを理解しているかを問う。授業時に課される課題は自分で実際に統計を見て情報を探すことが求められる。学期末レポートは統計を適切に使って自分の考えを伝えているかがポイントとなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時に課される課題については各課題の締め切り以降の講義で説明する。学期末試験についての質問は個別に回答します。

教科書コメント

教科書は使用しない。パワーポイントの資料を投影して説明する。説明資料は出席者に配布する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210511401	科目ナンバリング	021B120
講義名	経済学特殊講義(江戸時代の経済発展と身分差別社会)		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Economic Development: and Social-class Discrimination in the Edo Period)		
担当者名	鳥山 洋		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 5時限 西5-302		

授業概要

江戸時代の身分制度の中で、被差別身分とされた人々は、どのような人々だったのか、その社会的役割や生業といった側面から検討する。また、被差別身分とされた人々への差別の諸相を、江戸時代の経済のあり様とかかわらせて考え、「身分差別社会」について多面的に考えたい。
江戸時代の身分制度に起因する部落問題は、今日なお大きな社会問題である。この問題の解決に向け、何が求められているかという点についても意識するようにしたい。

到達目標

江戸時代についての理解を深め、歴史上の諸事象について、特にその背景について理論的に分析し説明できる力を身に付けることができる。また、人権に関する問題意識を持ち、今日のさまざまな人権課題について主体的に考えることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	江戸時代とはどのような時代か
第2回	石高制と身分制について
第3回	被差別身分とはどのような存在か
第4回	被差別身分とされた人々の生業と役割
第5回	旦那場とはなにか、旦那場論の意義
第6回	安永の身分統制令をめぐって
第7回	近世後期の経済変動 (1) 飢饉をめぐって
第8回	近世後期の経済変動 (2) 人の移動
第9回	近世後期の経済変動 (3) 村社会の変化
第10回	身分間の争論 (1) 争論の原因
第11回	身分間の争論 (2) 地域の史料に即して
第12回	身分間の争論 (3) 地域ごとの違い
第13回	近代への展望
第14回	総括
第15回	振り返りと到達度の確認

授業方法

講義形式
講義の中で、随時、コメントペーパーの記入・提出を求めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講義の中で示した参考文献等については、可能な範囲で目を通しておいてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	コメントペーパーの内容と提出状況により評価します
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

講義の内容を理解した上で、出題に対し自分の言葉で論理的に述べているか。
さまざまな人権課題に対し、問題意識を持って自分なりの考えを持つことができているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたコメントペーパーに書かれた内容については、可能な範囲で次回以降の講義の中で紹介し、講義の内容に取り込んでいくようにします。

履修上の注意

履修人数を50名以内とします。履修希望者は4月上旬に、当経済学部共同研究室にて第2学期開講・履修制限科目申込受付を

行いますので、履修ガイダンスや各種案内に従って申し込みをしてください。履修者の抽選が実施された場合には、履修は教務課により自動的に登録されます。登録後の履修の修正はできませんのでご注意ください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210511701	科目ナンバリング	021B123
講義名	経済学特殊講義(スタディ・スキルズ講座)		
副題	情報の集め方、選び方、伝え方		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Academic Skills)		
担当者名	鈴木 賀津彦		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 中央-401		

授業概要

情報のキャッチボールをしよう。大学で学ぶ上で重要なことは、自ら研究テーマを決め、研究に必要な情報や資料を調べ、整理、分析し、自分自身でまとめ上げた考えを文章にまとめて、発表していく力を付けることだ。そこで欠かせないのが、多様な分野の人たちとのコミュニケーションであったり、メディアで伝えられる情報を読み解く力(メディア情報リテラシー)であったりする。本授業では、情報をどう集め、どう捉えて、自分の認識をつくり、それをどうやったら伝わるのかなどの課題を、「現場に行くこと」を意識したアクティブ・ラーニング的な実践を通じて学ぶ。「知的技法」の基本を実践的に考え、知識や技術を磨き上げていくようにする。

到達目標

社会問題を現場で取材したり、研究テーマの情報や資料、文献を収集、整理し、それを論文やレポートなど文章にまとめたりするという作業は、積み重ねが大事。授業の合間にも自ら関心、興味を抱くテーマについて、文章にまとめる作業を試みる習慣を少しずつ身につけてもらうことを目指す。自らが発信者になると見えてくることに気付く。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の狙いと進め方、情報リテラシーとコミュニケーション
第2回	私たちがメディアになる～みんなが情報発信者になる時代に
第3回	何が事実か考える～情報があふれた社会をどう生きるか
第4回	当事者情報の重要性～「市民メディア」がなぜ大切か(1)
第5回	当事者情報の重要性～「市民メディア」がなぜ大切か(2)
第6回	新聞の読み方・その1～「まわしよみ新聞」をしてみよう
第7回	新聞の読み方・その2～インターネットで読むニュースとどう違うのか
第8回	新聞の読み方・その3～取材に求められる当事者意識とは
第9回	映像メディアから何を読み取るか～印象に惑わされないために
第10回	本は書店で買うか、ネットで買うか～同じ本でもどう違うの？
第11回	図書館を上手に使う、図書館は「本を借りる」だけではない
第12回	著作権の変化を考える～「コピーレフト」って何？
第13回	自分でテレビ番組をつくって発信～発信者として見えてくるもの
第14回	「伝わる文章」とは～共感される工夫、伝えたいテーマを明確に
第15回	書き上げた論文、レポートのプレゼンテーション

授業計画コメント

受講人数に合わせて、「実践課題」を一緒に考えるので、受講者の要望を受け授業計画は変更する可能性がある。受講生の関心あるテーマで、ゲストスピーカーを招き、意見交換の場を広げていくなどしていく。例えば、前年は「相田みつを美術館」取材し美術館長に提言する取り組みなどをしており、今年も受講者の問題意識を踏まえて実践的取り組みの内容を決めていく。

授業方法

新聞記事やテレビ番組のビデオ、書籍、雑誌、官公庁資料など実際の情報や資料なども教材として用いる。一方通行ではなく、お互いに意見や感想を自由に延べ合う双方向の授業にする。また、実際にインタビューなどの取材をして記事をまとめる実践など、伝わる文章の書き方を身につけていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、次の授業までの課題を示します。例えば、関心のある新聞記事を読み、自分の考えを整理し、まとめる等(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	取材・インタビューなどの実践成果

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30%

取材・インタビューなどの実践成果:30%(論文、レポートをプレゼンテーションする) 実践的な内容のため、その都度授業内でコメント。

学期末のレポート:40%(授業を通じて取り組んだ自らのテーマのまとめ)

当事者意識を持って、現場の取材して課題を見つけ、問題点の解決を提案する力を高められたか、また、自らの「ふりかえり」を通じて、自分の思考過程を見詰め直す姿勢を重視。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

意見はいつでも、どんな連絡方法でも歓迎。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210511702	科目ナンバリング	021B123
講義名	経済学特殊講義(スタディ・スキルズ講座)		
副題	情報の集め方、選び方、伝え方		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Academic Skills)		
担当者名	鈴木 賀津彦		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 中央-401		

授業概要

情報のキャッチボールをしよう。大学で学ぶ上で重要なことは、自ら研究テーマを決め、研究に必要な情報や資料を調べ、整理、分析し、自分自身でまとめ上げた考えを文章にまとめて、発表していく力を付けることだ。そこで欠かせないのが、多様な分野の人たちとのコミュニケーションであったり、メディアで伝えられる情報を読み解く力(メディア情報リテラシー)であったりする。本授業では、情報をどう集め、どう捉えて、自分の認識をつくり、それをどうやったら伝わるのかなどの課題を、「現場に行くこと」を意識したアクティブ・ラーニング的な実践を通じて学ぶ。「知的技法」の基本を実践的に考え、知識や技術を磨き上げていくようにする。

到達目標

社会問題を現場で取材したり、研究テーマの情報や資料、文献を収集、整理し、それを論文やレポートなど文章にまとめたりするという作業は、積み重ねが大事。授業の合間にも自ら関心、興味を抱くテーマについて、文章にまとめる作業を試みる習慣を少しずつ身につけてもらうことを目指す。自らが発信者になると見えてくることに気付く。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の狙いと進め方、情報リテラシーとコミュニケーション
第2回	私たちがメディアになる～みんなが情報発信者になる時代に
第3回	何が事実か考える～情報があふれた社会をどう生きるか
第4回	当事者情報の重要性～「市民メディア」がなぜ大切か(1)
第5回	当事者情報の重要性～「市民メディア」がなぜ大切か(2)
第6回	新聞の読み方・その1～「まわしよみ新聞」をしてみよう
第7回	新聞の読み方・その2～インターネットで読むニュースとどう違うのか
第8回	新聞の読み方・その3～取材に求められる当事者意識とは
第9回	映像メディアから何を読み取るか～印象に惑わされないために
第10回	本は書店で買うか、ネットで買うか～同じ本でもどう違うの？
第11回	図書館を上手に使う、図書館は「本を借りる」だけではない
第12回	著作権の変化を考える～「コピーレフト」って何？
第13回	自分でテレビ番組をつかって発信～発信者として見えてくるもの
第14回	「伝わる文章」とは～共感される工夫、伝えたいテーマを明確に
第15回	書き上げた論文、レポートのプレゼンテーション

授業計画コメント

受講人数に合わせて、「実践課題」を一緒に考えるので、受講者の要望を受け授業計画は変更する可能性がある。受講生の関心あるテーマで、ゲストスピーカーを招き、意見交換の場を広げていくなどしていく。例えば、前年は「相田みつを美術館」取材し美術館長に提言する取り組みなどをしており、今年も受講者の問題意識を踏まえて実践的取り組みの内容を決めていく。

授業方法

新聞記事やテレビ番組のビデオ、書籍、雑誌、官公庁資料など実際の情報や資料なども教材として用いる。一方通行の講義ではなく、お互いに意見や感想を自由に述べ合う双方向の授業にする。また、実際にインタビューなどの取材をして記事をまとめる実践など、伝わる文章の書き方を身につけていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、次の授業までの課題を示します。例えば、関心のある新聞記事を読み、自分の考えを整理し、まとめる等(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	取材・インタビューなどの実践成果

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30%

取材・インタビューなどの実践成果:30%(論文、レポートをプレゼンテーションする) 実践的な内容のため、その都度授業内でコメント。

学期末のレポート:40%(授業を通じて取り組んだ自らのテーマのまとめ)

当事者意識を持って、現場の取材して課題を見つけ、問題点の解決を提案する力を高められたか、また、自らの「ふりかえり」を通じて、自分の思考過程を見詰め直す姿勢を重視。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

意見はいつでも、どんな連絡方法でも歓迎。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210512001	科目ナンバリング	021B313
講義名	経済学特殊講義(国際貿易の諸問題)		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Topics in International Trade)		
担当者名	棕 寛		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 中央-402		

授業概要

経済のグローバル化がますます進行する中で、国際経済学が分析対象とする問題が広範化している。本講義は「国際経済学」の基礎知識を前提としつつ、近年の国際貿易に関わる新たな分析トピックについて現実の事例と対応させつつ解説し、今後の通商政策の在り方について議論する。

到達目標

企業の海外進出やサービス貿易、貿易と環境など、近年の貿易に関わる諸問題を理解できるようになる。参加者と教員との活発な議論を通じて、実際の貿易政策について自らの意見を持てるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	国際貿易の諸問題の概説と「付加価値貿易」
第2回	国際貿易の政治経済学:なぜ保護貿易政策は好まれるのか?
第3回	関税の種類と効果の違い(1):従価税・従量税・混合税・差額関税
第4回	関税の種類と効果の違い(2):関税割当・特惠関税
第5回	多国籍企業と海外直接投資(1):海外直接投資の目的とその影響
第6回	多国籍企業と海外直接投資(2):直接投資政策
第7回	サービス貿易(1):サービス貿易の種類
第8回	サービス貿易(2):サービス貿易の自由化
第9回	海外アウトソーシング:外国企業への業務委託は賃金や雇用に悪影響を与えるか?
第10回	国際労働移動:外国人労働者を受け入れるべきか?
第11回	国際貿易と環境問題(1):貿易は環境を悪化させるか?
第12回	国際貿易と環境問題(2):環境税と排出権取引
第13回	国際貿易と企業:企業の生産性と貿易・直接投資にはどのような関係があるのか?
第14回	その他のトピック:国際貿易と軍事紛争など
第15回	講義のまとめ・理解度の確認

授業計画コメント

講義の進度に応じて講義内容が若干変更される場合がある。

授業方法

講義資料と講義スライドを用いて講義を行う。出席者の積極的な発言を求める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に公開されるスライドをプリントアウトし、簡単に予習しておくこと(約45分)。講義終了後、内容を復習すること(約15分)。国際経済学の基礎知識を前提として講義を進めるため、「国際経済学」の単位を取得済みであることが望ましいが、同時履修でもかまわない。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	6月末頃を〆切りにした宿題を課す。
小テスト	10 %	理解度チェックの小テストを数回行う
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	講義中に出席者に発言を求め、発言内容に応じて加点する。
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末試験後に、得点の集計結果を公開している。

教科書コメント

教科書は用いない。

参考文献コメント

参考文献については初回の講義で指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

最新の講義予定や講義資料のダウンロード方法などについて解説するので、初回の講義には必ず参加すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210512401	科目ナンバリング	021B229
講義名	経済学特殊講義(経済データの統計分析)		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Statistical Analysis of Economic Data)		
担当者名	田中 勝人		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 西1-203		

授業概要

経済データを分析する場合の計量経済学的な理論を実習をまじえて習得する。実習用に、EViews あるいは Stata を使用する。

到達目標

経済データの基本的な統計分析ができるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(授業の概要の説明)
第2回	回帰分析の理論－単回帰
第3回	回帰分析の理論－重回帰
第4回	データのダウンロードと加工(計量ソフトを利用)
第5回	経済変数間の関係分析
第6回	回帰モデルによる実際の分析例
第7回	回帰モデルに関する演習問題
第8回	時系列データの分析
第9回	金融時系列データを使った実際の分析例
第10回	推定に関する問題演習
第11回	検定に関する問題演習
第12回	受講者による分析結果の発表－その1
第13回	受講者による分析結果の発表－その2
第14回	まとめ
第15回	理解度の確認

授業方法

EViews あるいは Stata の説明と実習を行う。EXCEL に関する基本的な知識は前提とするが、EViews あるいは Stata については、特に必要としない。ただし、回帰分析などの基礎知識があることが望ましい。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習・復習をそれぞれ30分程度

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや小テストの解答に対しては、個別にコメントなどをする。

教科書コメント

教科書は使用しない。授業中にレジュメや資料を配布する。

参考文献コメント

授業内容に合わせて適宜紹介する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210512701	科目ナンバリング	021B220
講義名	経済学特殊講義(質的データおよびパネルデータの実証分析)		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Empirical Analysis of Qualitative Data and Panel Data)		
担当者名	田中 勝人		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 西1-203		

授業概要

経済データの中でも、特に、質的データおよびパネルデータを分析する場合の計量経済学的な理論を実習をまじえて習得する。実習用に、EViews あるいは Stata を使用する。

到達目標

質的データおよびパネルデータに関して、基本的な統計分析ができるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(授業の概要の説明)
第2回	回帰分析の復習
第3回	質的データの分析ーロジットモデル
第4回	質的データの分析ープロビットモデル
第5回	質的データを使った実際の分析例
第6回	質的データに関する演習問題
第7回	パネルデータの分析ー理論
第8回	パネルデータの分析ー応用
第9回	パネルデータに関する演習問題
第10回	パネルデータを使った実際の分析例
第11回	パネルデータモデルに関する演習問題
第12回	受講者による分析結果の発表ーその1
第13回	受講者による分析結果の発表ーその2
第14回	まとめ
第15回	理解度の確認

授業方法

EViews あるいは Stata の説明と実習を行う。EXCEL に関する基本的な知識は前提とするが、EViews あるいは Stata については、特に必要としない。ただし、回帰分析などの基礎知識があることが望ましい。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習・復習をそれぞれ30分程度

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや小テストの解答に対しては、個別にコメントなどをする。

教科書コメント

教科書は使用しない。授業中にレジュメや資料を配布する。

参考文献コメント

授業内容に合わせて適宜紹介する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修希望者は4月上旬に、当経済学部共同研究室にて第2学期開講・履修制限科目申込受付を行うので、履修ガイダンスや各種案内に従って申し込みをすること。履修者の抽選が実施された場合には、履修は教務課により自動的に登録される。登録後の履修の修正はできないので注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210513501	科目ナンバリング	021B227
講義名	経済学特殊講義(ダイバーシティ・マネジメントの経済学)		
副題	多様な人材の活躍に必要な考え方		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Consideration about of Environmental Factors and the Effectiveness of Workforce Diversity)		
担当者名	松原 光代		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 火曜日 5時限 西2-403		

授業概要

わが国の企業をはじめとする組織では、これまで主に「日本人・男性・20歳前後から60歳」を対象に「無制約で働くことができる人材」を採用、育成、活用してきた。「無制約」とは、働く時間の融通性が高く(いつでも、いつまでも)、転居を伴う異動にも柔軟に対応し、職務の変更にも応じた働き方を意味する。しかし、経済のグローバル化、少子高齢化社会の到来、Society5.0など経済・社会が変化していく中、企業をはじめとする組織体は持続的に発展していくため、性別はもとより、働き方、年齢、国籍、価値観など多様な人材が、その能力を発揮できるよう支援していく必要が生じている。こうした人材をマネジメントすることは、同一集団をマネジメントするよりはるかに高度なスキル、知識、理性を要すると同時に、人材の多様性を受容する組織を構築すべく戦略的に取組んでいく必要がある。

本授業では、企業が競争力を高めていくために不可欠な「ダイバーシティ・マネジメント」(以下、DM)を取り上げ、その現状と推進に

到達目標

本授業では、以下のレベルに達成することを目指す。

- (1)DMの意義、現状、課題について説明できる
- (2)現在のDMの促進にかかる成果やその課題に関する論文を理解することができる
- (3)多様な人材が活躍できる企業や社会の在り方について、自らの考えを論じることができる

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(本講義の目的や進め方、本授業の概要)
第2回	日本の雇用管理は人材の多様性に親和的か
第3回	「管理職」の昇進のスピードの違いは何が影響するのか
第4回	職域に男女格差はあるのか
第5回	男性の働き方は女性の労働の何に影響するのか
第6回	働き方の多様化がもたらす問題とは何か
第7回	正社員のタイプ多様化がもたらす日本の人事管理への影響とは何か
第8回	高齢者は適正に能力評価をされていないのか
第9回	外国人人材に日本の労働市場は魅力的なのか
第10回	障がい者雇用は経済的要因によるものか、福祉的要因によるものか
第11回	差別は労働生産性にどのように影響するのか
第12回	LGBTに取組む企業が増えているのはなぜか
第13回	Society5.0の到来に際し、キャリアはどう変わっていくのか
第14回	ダイバーシティ・マネジメントを推進する企業事例
第15回	まとめ

授業計画コメント

本授業は、上記の流れを基本として実施するが、受講者の関心や理解度に応じて内容を若干変更したり、外部講師を招き具体的に実態を話してもらうこともある。

授業方法

各テーマについて、授業内で適宜資料を配布しそれに基づき講義をすると同時に、当該テーマの理解を深めるべく、受講者に意見を求めるスタイルで授業を進行する。また、DVDを鑑賞した後、グループディスカッションをするなど、自身の意見を述べ合う場も設ける。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

本授業は、各回のテーマに即した学術論文(8ページ程度)の内容の理解を深めながらディスカッションをするため、必ず課題となる論文等を読んでくること。なお、各課題論文等は1週間程度前に提供する。

また、新聞等にある女性活躍、高齢者、障害者、外国人などの雇用に係る記事を積極的に読むなど社会に目を向けることが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	授業内での議論の積極性

成績評価コメント

学期末試験や授業内での発言は、何等かのEvidence(新聞などの記事や書籍)を踏まえて自身の意見を述べる場合、高く評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

希望者に対し、試験の答案または課題レポートに対して添削、コメントを入れて返却する。

教科書コメント

授業内で講読する論文や書籍の章等を配布する。なお、配布方法はG-portへのアップロードとする。

参考文献

アイデンティティ経済学, ジョージ・A・アカロフ, レイチェル・E・クラントン, 東洋経済新報社, 2011, 9784492314142

ダイバシティ・マネジメント, 谷口真美, 白桃書房, 2005, 9784561234411

女性労働に関する基礎的研究, 脇坂明, 日本評論社, 1, 2018, 9784535558885

日本の人事を科学する, 大湾秀雄, 日本経済新聞出版社, 1, 2017, 9784532321505

若者と労働, 濱口桂一郎, 中公新書ラクレ, 7, 2018, 9784121504654

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

また、「準備学習」の繰り返しになるが、各回の授業で講読する文献は必ず目を通して参加すること。

その他

オフィスアワーは授業の前後とする。連絡先は第1回の授業で案内するほか、G-portを参照。

15分以上を要する相談内容については、事前にアポイントメントを入れることとする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210513901	科目ナンバリング	021B131
講義名	経済学特殊講義(貧困地域再生の経済学)		
副題	社会福祉や貧困問題の解決、まちづくりに必要な知識を学ぶ		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Economics for Revitalizing Slum Areas)		
担当者名	鈴木 亘		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 西5-B1		

授業概要

日本にもホームレスはいるし、スラムのような貧困地域がある。講師は、大阪市長や大阪府知事に依頼され、大阪市西成区のあいりん地域(釜ヶ崎)という貧困地域を再生する責任者としての仕事を任せられ、大阪市市や大阪府の職員や町の様々な住民や関係者と共に改革を実施してきた。あいりん地域は、3人に1人が生活保護受給者で、日雇い労働者やホームレスが多く住む地域である。覚醒剤が白昼堂々と売買され、不法投棄ゴミが町中を覆うような地域であった。しかし今は、(まだ課題は残っているものの)大きく変わった。改革案作りや改革の実際の「実行」に際して、経済学が、現実にとどのように役に立つのか、そのときの経験をもとに講義を行う。社会福祉や貧困問題や地方再生、まちづくり、改革実行等に関心のある学生のために、役に立つ内容になると思われる。

到達目標

経済学を現実の改革に応用する。改革を実行するのに経済学を役立てる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	あいりん地区について1
第3回	貧困地域の現状について
第4回	ホームレス問題について1
第5回	ホームレス問題について2
第6回	生活保護について
第7回	貧困ビジネスについて
第8回	児童虐待や貧困地域の子どもの現状について
第9回	まちの再生計画、まちづくり計画の作り方
第10回	予算をどのように作るか
第11回	官僚の動かし方
第12回	まちの人々の合意形成、利害調整の仕方
第13回	まちづくり会議の運営の仕方1
第14回	まちづくり会議の運営の仕方2
第15回	まとめ

授業計画コメント

教科書に沿って講義を行う。YouTubeやDVDで実際のまちづくりの現場の映像を見る。

授業方法

講義形式である。なお、この貧困地域再生の経済学は、今年度で最後にしようと考えている(あいりん地区がどんどん変わって、もはや授業で説明するような悲惨な状況は昔の話になりつつあるので)。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

紹介するYouTubeの動画を見たり、資料を読んでも、教科書の該当箇所を読んでも(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	85 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第1学期にマークシート式の学期末試験を課す(85%)。質問、発言、出席など:15%(授業中に質問や発言をした場合には、1回2点を加算する)。出席はランダムに取る。

授業にきちんと出席して、教科書をよく読み、内容を理解していること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業の最後に講評を行う。

教科書

経済学者 日本の最貧困地域に挑む,鈴木亘,東洋経済新報社,第1版,2016,978-4-492-44434-4

教科書コメント

教科書は直前になるとアマゾンですら売り切れ、試験までに間に合わず、教科書を持ち込めない学生が続出する。早めに入手(購入の他、先輩にもらう、地元の図書館で借りるなど)しておくことが望ましい。

参考文献

脱・貧困のまちづくり「西成特区構想」の挑戦,鈴木亘,明石書店,第1版,2013,978-4750338552

参考文献コメント

参考文献については購入の必要は必ずしも無い。図書館に数冊おいている。

履修上の注意

履修希望者が教室の定員を超えるほど多い場合には他学部生(経済学部生以外)に対して履修制限をかける可能性がある。

その他

必要な資料やスライド、動画へのリンクなどは、全て講師のホームページにおいている。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210514101	科目ナンバリング	021B232
講義名	経済学特殊講義(映像でみる労働問題)		
副題	映画のなかの企業と労働者		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Labor in the films)		
担当者名	脇坂 明		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 1時限 西5-B1		

授業概要

映画/映像のなかで扱われてきた、雇用労働問題のトピックスを解説し、現実社会と経済学の道具がどのように関係しているかを見る。いくつかの映画をとりあげ、それをテーマごとに切り取り、説明する。具体的には若者・女性のキャリア、高齢者雇用、地域労働移動、人事労務管理、労働経済史などに関連する映画の一部を鑑賞する。有名な映画の背景にある理念や経済構造を学び、経済学の応用範囲の広さを味わう。

到達目標

映画/映像のなかから、経済学で学んだ(学ぶ)概念との関連性を理解できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	石炭産業の斜陽化における対応からみた「フラガール」「ブラス」
第2回	産業構造の転換期における労働と地域、日英での違い
第3回	地域間労働移動からみた「ああ野麦峠」
第4回	戦前期における労働市場や人事労務管理
第5回	若者のキャリアからみた「プラダを着た悪魔」「洋菓子店コアンドル」「何者」
第6回	採用・定着における労働の需要と供給
第7回	高齢者の働き方からみた「マイインターン」「68歳の新入社員」「終わった人」
第8回	高齢者雇用の現状と働き方の改革の方向
第9回	地域を基盤とした中小企業からみた「川の底からこんにちは」「県庁の星」「スーパーの女」
第10回	派遣の働き方および地域を基盤とした働き方とキャリア展望、後継者問題
第11回	専業主婦の普及からその価値を考える「下町の太陽」「逃げ恥」
第12回	専業主婦がうまれた経済的背景、無償労働の測定
第13回	コーポレートガバナンスからみた「プリティ・ウーマン」
第14回	金融資本主義と経営関与からみた「長期の競争」と技能の保持
第15回	その他の映画からみた労働経済と総括

授業方法

最初に映画のポイントとなる部分を一部鑑賞し、次に背景となる労働経済や登場人物の経済心理行動を解説する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

映画解説の翌週の前に、関連しそうな労働経済学の内容の箇所を眺めておく。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

1回レポートを提出すること(東2号館12Fレポートボックス:7月14-17日)。講義でとりあげた映画や似たテーマの映画・映像を一つ全編を鑑賞し、経済的な論点などを記述する。学期末筆記試験では教科書を持ち込みながら、設問に解答する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートで、大きな勘違いが見られる場合は、指摘する。

教科書

「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン,梅崎修・松繁寿和・脇坂明,有斐閣,2020

教科書コメント

3名執筆による教科書出版について最初の講義まで間に合わない恐れがあるが、シラバスの途中からになれば、それまでの部分は資料配布する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210514401	科目ナンバリング	021B259
講義名	経済学特殊講義(マイクロ計量分析の実践)		
副題	データ分析の作法とその応用		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Methods and Applications in Microeconometrics)		
担当者名	西村 淳一		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 東2-702		

授業概要

マイクロデータと統計ソフト(Stata)を利用して、学生が自らデータ解析に取り組み、マイクロ実証分析への理解を深めていく。統計学や計量経済学に関する最低限の概念やルールは解説するが、分析の背景にある理論や数式展開は極力省略し、学生が統計ソフトを利用して様々な分析手法を実践することで、その分析結果を正しく読み取ることに力点を置く。また、実証分析を行う前の段階として、分析するためのデータベースの構築方法や、分析結果の表作成等についても指導する。

到達目標

データ分析における基本的な作法を身につけ、統計ソフトを用いて、初級～中級レベルのマイクロ実証分析を行えるようになることを到達目標とする。また、エクセルも多用するので、基本的な関数を利用して、データ処理ができるようになることも目標とする。

授業内容

実施回 内容

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス:計量分析の流れと応用例の紹介 |
| 第2回 | 統計学の基礎知識:記述統計学の復習 |
| 第3回 | 母集団分布と標本分布 |
| 第4回 | 検定の基礎と基本的な仮説検定:平均、分散、独立性、相関、正規性 |
| 第5回 | 最小二乗法:単純回帰モデルと多重回帰モデル |
| 第6回 | さまざまな形の回帰分析:対数線形、ダミー変数、交差項、2乗項 |
| 第7回 | 二値選択:プロビットモデルとロジットモデル |
| 第8回 | 離散選択モデルの応用:順序ロジットモデルと多項ロジットモデル |
| 第9回 | カウントデータ:ポアソンモデルと負の二項回帰モデル |
| 第10回 | サンプルセレクション:トービットモデルとヘーキットモデル |
| 第11回 | 内生性:操作変数法 |
| 第12回 | パネルデータ:固定効果と変量効果 |
| 第13回 | DID分析とマッチング |
| 第14回 | 生存時間:サバイバル分析 |
| 第15回 | 理解度の確認 |

授業計画コメント

授業計画は暫定的で、履修者の理解度を確認しつつ進めていく。

授業方法

講義形式にて主に行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は必須としないが、該当する講義トピックについて参考文献を提示するので各自予習してもよい(約1時間)。講義にて行った分析を再現できるように、分析の手順について毎週復習を行うこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト	15 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	45 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

実習形式で行う。毎週、分析課題が出されるものとして授業に臨むこと。授業中での課題提出も時に用意する。無断欠席は許されない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

実習のため、学生のPC操作について適宜サポートする。

分析課題については、解答を示すとともに、コメントを述べる。

教科書コメント

教科書は用いない。

参考文献コメント

授業中に提示する。

履修上の注意

履修者数制限を行う(20名程度)。履修希望者は4月上旬に、当経済学部共同研究室にて第2学期開講・履修制限科目申込受付を行うので、履修ガイダンスや各種案内に従って申し込みをすること。履修者の抽選が実施された場合には、履修は教務課により自動的に登録される。登録後の履修の修正はできないので注意すること。
第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

統計学入門を修得済みであること、あるいはそれと同等の知識を有していること。計量経済学や統計学も履修済み、あるいは同時に履修することが望ましいが、必須ではない。この講義を受けて、計量経済学や統計学に関心を持った方は、本格的な理論を学ぶため、計量経済学や統計学を履修することを薦める。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210514501	科目ナンバリング	021B381
講義名	経済学特殊講義(イノベーションと企業の歴史)		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (The History of Innovation and Business)		
担当者名	石井 晋		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 南3-301		

授業概要

20-21世紀日本における、さまざまな産業における企業の歴史について、主にイノベーションの背景・プロセス・影響に注目しながら、講義する。特に重視するのが、産業・企業ごとの個性の違い、および経済全体の中での各産業・各企業の位置づけである。

到達目標

何がイノベーションをもたらすのかについて、企業の歴史を通じて学ぶことにより、経済発展の最も本質的な部分について考察するための実践的な能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	講義の概要の説明
第2回	イノベーションとは何か1
第3回	イノベーションとは何か2
第4回	イノベーションとは何か3
第5回	自動車産業1
第6回	自動車産業2
第7回	自動車産業3
第8回	電機産業1
第9回	電機産業2
第10回	アパレル産業1
第11回	アパレル産業2
第12回	システム・ソリューションとサービス1
第13回	システム・ソリューションとサービス2
第14回	全体のまとめ
第15回	全体の補足と予備日

授業計画コメント

取り上げる産業については、変更する可能性がある。

授業方法

形式は、講義を基本とするが、授業参加者人数によっては、グループディスカッションも行う可能性がある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

具体的な企業について、事前に概要をチェックする等の予習(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	50 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業の中で、コメントする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210514601	科目ナンバリング	021B291
講義名	経済学特殊講義(Rによる因果推論)		
副題	データサイエンスへのプレリユード		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Causal Inference with R)		
担当者名	福地 純一郎		
単位	2	配当年次	学部 2年～3年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 西2-202		

授業概要

データ分析のソフト(言語)であるRの使い方学び、データ分析の基礎と因果推論を学ぶ。Rはデータ分析の世界標準ともいえるソフト・言語である。この授業では、自立的にデータ分析ができるようになるために以下のことを学ぶ。

1. Rの基礎となる概念と方法を学ぶ
 2. 因果推論の理論と実際について学ぶ
- 本授業の配当年次は、2, 3年なので注意すること。

到達目標

本授業では、テキストを用いてRの基礎から応用までを学び、因果推論ができるようになることを目標にしている。

授業内容

実施回	内容
第1回	Rの基礎：起動、四則演算、スクリプトの書き方
第2回	Rの基礎：オブジェクト、ベクトルとベクトルの要素指定
第3回	Rの基礎：データフレーム、様々な関数。論理演算子、関係演算子
第4回	Rの基礎：ベクトルの部分集合化、データフレームの部分集合化
第5回	因果推論(1):Neyman-Rubin アプローチ(潜在結果アプローチ)、
第6回	因果推論(2):識別性
第7回	因果推論(3):傾向スコアによる方法
第8回	因果推論(4):パネルデータを用いた方法
第9回	因果推論(5):パネルデータを用いた方法
第10回	Python による分析:Python の基礎
第11回	Python による分析:Python の基礎
第12回	Python による分析:データ分析、欠損値処理など
第13回	Python による分析:回帰問題における予測
第14回	Python による分析:回帰問題における予測
第15回	まとめ

授業計画コメント

論理的に思考し、正しいコードを書くことを心がけることが重要である。

授業方法

コンピュータ実習と課題を解くことを中心に授業をすすめる予定である。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

Rの使い方を学ぶために、毎回の内容を理解し身に付けておく必要がある。1回の授業につき、前回の内容をおよそ1時間復習する必要がある。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	出席を重視する
その他(備考欄を参照)	40 %	課題

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各課題について、正解を説明する。また、学生の優れた解答例は紹介する。

履修上の注意

履修希望者数が多い場合には、抽選によって履修者を決定するので、第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210514701	科目ナンバリング	021B292
講義名	経済学特殊講義(グローバルな環境における企業)		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (The Firm in a Global Environment)		
担当者名	小森谷 徳純		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	集中(第1学期) その他 集中講義		

授業概要

本講義ではグローバルな環境における企業に関する内容を扱います。ここでは「どこから」と「だれから」という2つの視点が重要になります。まずは「どこから」を理解するために、貿易理論の話をし、そして「だれから」を理解するために、内部化理論の話をしていきます。次にそれらに基づいて、多国籍企業が直面する各種の問題や課題を経済学的に考えます。具体的には国際的な立地選択、ライセンスリングやアウトソーシング、そして租税回避行動という企業行動について学びます。また多国籍企業に直面する政府の対応についても講義をします。

なお本講義では現実を知ることと、その現実を経済学的に理解することの2つを両立させることを心掛けています。

到達目標

グローバルな環境における企業を経済学的に考えられるようになることを本講義の目的とします。目標は以下の通りです。

1. 多国籍企業の実際の行動を把握すること
2. 多国籍化するという企業行動の中から最低1つは経済学を用いて適切に説明できるようになること
3. 多国籍化した企業の行動の中からも最低1つは経済学を用いて適切に説明できるようになること

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンスおよびイントロダクション：多国籍企業に関する事実
第2回	伝統的貿易理論(1)：リカード・モデル
第3回	伝統的貿易理論(2)：ヘクシャー＝オリーン・モデル
第4回	新貿易理論と新々貿易理論
第5回	内部化理論
第6回	国際的生産ネットワーク
第7回	海外進出の方法(1)：輸出か直接投資か
第8回	海外進出の方法(2)：直接投資かライセンスリングか
第9回	アウトソーシング
第10回	多国籍企業の技術移転と技術のスピルオーバー
第11回	移転価格
第12回	多国籍企業の誘致をめぐる租税競争
第13回	タックス・ヘイブン
第14回	国際課税制度
第15回	これまでの講義の総括

授業計画コメント

9月7日(月)：2時限, 3時限, 4時限
9月8日(火)：2時限, 3時限, 4時限
9月9日(水)：2時限, 3時限, 4時限
9月10日(木)：2時限, 3時限, 4時限
9月11日(金)：2時限, 3時限, 4時限

授業方法

講義を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

レジュメや資料は事前入手できるようにしますので、講義前に読んでくるように努めて下さい。これは講義を「ゼロから教えてもらう場」ではなく「理解を高める場」にするためです。

講義後は与えられた課題に取り組みながら自らの理解を再確認するように努めて下さい。

また日頃から直接投資や多国籍企業というキーワードを頭において、積極的にニュースを見聞きするように心掛けて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第1の目標については現状を理解しているかどうか、第2および第3の目標については、その現状を経済学で説明できているかか評価のポイントです。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストは返却をします。

教科書コメント

教科書は指定しません。レジメや資料を配布します。

参考文献

国際経済学をつかむ:テキストボックス[つかむ],石川城太・椋寛・菊地徹,有斐閣,2,2013,9784641177192

テキスト多国籍企業論,奥村皓一・夏目啓二・上田慧,ミネルヴァ書房,1,2006,9784623038930

拡大する直接投資と日本企業:世界のなかの日本経済:不確実性を超えて,清田耕造,NTT出版,1,2015,9784757123199

アウトソーシングの国際経済学—グローバル貿易の変貌と日本企業のマイクロ・データ分析,富浦英一,日本評論社,1,2014,9784535556911

Elements of Multinational Strategy,Head, Keith,Springer,1,2007,9783540744382

その他

国際経済学を修得済み,あるいは同時履修していることが望ましい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210514801	科目ナンバリング	021B293
講義名	経済学特殊講義(社会科学のための実践的データサイエンス)		
英文科目名	Special Lect. on Economics: (Applied Data Science for Economics and Management Study)		
担当者名	原 泰史		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 土曜日 2時限 西1-205		

授業概要

統計解析手法の発達および、クラウドコンピューティングに代表されるコンピューティングパワーの増大により、従来は分析が困難だった様々なデータを経済学/経営学の研究において活用することで、より現実に即した形での実証研究を行うことが可能になりました。しかし、「ビッグデータ」とも呼称されるこれらのデータは不定形であり、解析を円滑に行うためにはデータ自体の整形処理等も必要です。

本講義では、(1) データの管理、(2) データの処理、(3) データの解析それぞれに焦点を挙げ、Python あるいは R を用いた演習を行うことで、体系的な知識の修得を行うことを目指します。事前のプログラミング言語の知識は必要としませんが、受講した内容を自らの研究で活用するためには、自発的かつ継続的な学習を推奨します。また、講義に留まらずデータ解析を継続的に行えるよう、可能な限りBYOD (Bring Your Own Device) を推奨します。

到達目標

経済学および経営学で学んできた実証的な経済分析を、研究あるいは実務で活用できることを目指します。具体的には、Web スクレイピングやAPI、Linked Open Data などのデータ収集手法および、機械学習や word2vec などの解析手法を用いることで、より細密なモデリングに基づく実証研究を可能にすることを目指します。また、企業での企画立案プロセスにおいて、データおよびエビデンスに基づく解析を行うことを目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション (ビッグデータと社会科学), 分析環境の構築
第2回	Notebook 環境を用いたデータ分析 (前半)
第3回	Notebook 環境を用いたデータ分析 (後半)
第4回	データの可用性とプライバシー
第5回	SQL を用いた多変量データの取得および解析
第6回	Web からのデータ取得方法 (前半)
第7回	Web からのデータ取得方法 (後半)
第8回	データベースを用いた分析(1) 特許データベース
第9回	データベースを用いた分析(2) 論文データベース
第10回	データベースを用いた分析(3) 企業データベース/データベース間の接合
第11回	テキスト分析 [前半]
第12回	テキスト分析 [後半]
第13回	データの可視化
第14回	機械学習
第15回	まとめ、および最終レポート発表会

授業計画コメント

1. イントロダクション (ビッグデータと社会科学), 分析環境の構築 [座学, 実習]
 経済学で大量のデータを用いることに、果たしてどのような意味があるのでしょうか？ 初回の講義では、経済学/経営学はじめ社会科学の研究でデータを活用する意義について、具体的な研究事例などを交えながら紹介します。また、今日広く用いられている Notebook (Jupyter Lab/Google Colaboratory) などの分析環境の導入方法について説明します。

2. Notebook 環境を用いたデータ分析 (前半) [座学, 実習]

3. Notebook 環境を用いたデータ分析 (後半)

Stata や SPSS, SAS など統計分析ソフトは多数存在します。これらのメリットや特徴について前半は説明します。また、python や R の基本的なコマンドについて実習を交え説明を行います。テーマは「サンクコスト」です。

4. データの可用性とプライバシー [座学]

インターネットには様々な情報が掲載されています。あるいは、大学の図書館からデータベースにアクセスすれば、様々な情報を得ることが出来ます。しかしながら、データには個人情報や企業の機密情報などが含まれており、これらの適切に管理し運用することは極めて重要です。テキストブックの内容に基づき、説明を行います。

5. SQL を用いた多変量データの取得および解析 [座学, 実習]

大量のデータを運用し活用するためには、データベースを用いると便利です。MySQL を使い、データから必要な情報を抽出し、データ同士を接合する方法について簡単に解説を行い、続いて実データを用いて解析を行います。Google Big Query の利用方法や、MySQL Workbench および MySQL サーバのインストール方法について解説し、データのSQL サーバへの展開方法について解説します。

6. Web からのデータ取得方法 [前半] [座学, 実習]

7. Web からのデータ取得方法 [後半] [座学, 実習]

データといっても、そのほとんどは実のところ定型化されていません。Web サイトや書籍や国会図書館から手作業でひとつひとつ入

かし、あるいは、Web スクレイピングやRPA を用いて、Web から取得する必要があります。データ分析は、こうした事前の作業が作業全体の60-70パーセントを占めています。こうした手続きの具体例について、座学を用いて紹介した後、雑誌や Web に掲載されたデータを取得する手法についてご紹介します。

8. データベースを用いた分析(1) 特許データベース [座学、実習]

Google Patents や米国特許庁 (USPTO) が提供する PATENTSVIEW, また、知的財産研究所が提供するIIP パテントデータベース (<http://www.iip.or.jp/patentdb/>)に基づき、特許データを具体例として解析の実習を行います。「どの企業が最も特許を出願しているのか?」、「どのような分野に特許を出願しているのか?」など、具体的な問いを立てた上で、問いに基づきデータを抽出することを目指します。

9. データベースを用いた分析(2) 論文データベース [座学、実習]

学術書誌情報データベースでは、論文の書誌情報を取得することが出来ます。こうしたデータを用いることで、例えば、「日本の大学で最も年ごとの論文数が多いのは何処か?」、「(指導教官の)〇〇先生が書いた論文はt年にx本で、その論文は累計 y 回引用された」などの情報を取得することが出来ます。前回と同様、学生は問いを立てた上で、データベースから必要な情報を取得し解析を行います。データソースとして、無償で利用可能な Lens.org, Microsoft Academic などを活用します。

10. データベースを用いた分析(3) 企業データベース/データベース間の接合 [座学、実習]

企業のデータベースについて説明を行います。企業の取引、出資、銀行取引データや、決算書データなどのデータセットに基づき、前回同様、問いに基づきデータを解析することを目指します。また講義の後半では、NISTEP 企業名辞書 (<http://www.nistep.go.jp/research/scisip/rd-and-innovation-on-industry>) などを用い、ID ベースでデータセット間を接合する手法について説明します。

11. テキスト分析 [前半] [座学、実習]

12. テキスト分析 [後半]

この回では、これまで用いてきたデータセットについて、異なるアプローチから解析することを目指します。具体的にはすでに定量化されているデータではなく、特許における特許名、論文における論文名、企業データベースにおける企業の概要などのテキストデータを解析する手法について学びます。講義ではPython, R および, KHCoder (<http://khcoder.net/>) を用い、解析を行います。具体的には、word2vec モデルやトピックモデル(LDA)について解説を行う予定です。

13. データの可視化

単なる棒グラフや線グラフではない、様々なデータの「見せ方」について学習します。具体的には、インフォグラフィックなどの手法から、Plotly, D3.js などの可視化ライブラリの利用方法、tableau などのデータ可視化ソフトの利用方法、また、データに従い必要な可視化手法を用いる方法について実習を交え教授します。

14. 機械学習/データの可視化 [座学、実習]

スパース推定、または木構造、SVM など、機械学習に関わるいくつかの手法について解説します。特に、スパース推定について、パラメータが多いデータセットから説明変数を選択する方法論にフォーカスし解説および実習を行います。

15. まとめ、および最終レポート発表会

これまでの講義の内容を振り返った上で、グループごとの最終レポートの発表を行います。レポートは発表時間10分、質疑応答5分で、グループごとに実施します。

※. 講義内容の進展に応じ、講義の順番や内容を入れ替える可能性があります。

授業方法

座学および実習方式で行います。プログラミングを用いたデータ解析を行うため、受講者は Notebook の実行環境が構築できる、PC あるいはタブレット端末を持参することが推奨されます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講義ごとに取り上げた内容について、自発的に予習および復習を行うことを勧めます。プログラミングおよび分析ツールの習熟には、自らの手で試行錯誤を行うことが必要不可欠です。講義では、こうした学習を支援するサイトやツールを都度紹介します。

また、講義内容の共有を行うため、Slack を用いたグループを運用する予定です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	10 %	最終レポートの360° グループ評価

成績評価コメント

1. 平常レポート(40パーセント; 必須)

講義計画に示したように、複数の回で学生にはレポートを課します。レポートは Word/PowerPoint形式のメールあるいは、github 経由での提出が求められます(どの方法を採用するかは、初回の講義で決定します)。レポートには、(A.) 利用したデータセットとその内容、(B.) 分析の問い、(C.) 分析手法、(D.) 分析結果 を明記する必要があります。ページ数や文字数は問いませんが、これらの内容が含まれており、講義中にアナウンスする評価手法を満たす場合、高い得点を得ることが出来ます。

2. 平常点(10パーセント)

本講義は実習が多く含まれており、また取り扱うデータセットや内容も多彩です。そのため、受講者同士が協力する必要があります。こうした受講者の態度を評価するために、平常点を設けます。

3. 最終レポート(40パーセント; 必須)

講義の最終回では最終レポートの報告会を行います。受講者は3名から4名から構成されるグループで、最終レポートの報告を行う必要があります(人数は受講者の人数により変更される可能性があります)。最終レポートでは、プレゼンテーションの方法を学生は自由に選ぶことが出来ます。PowerPoint 以外にも、Prezi などのアクティブプレゼンテーションツールや、他のプレゼンテーション手法を用いることが出来ます(プレゼンテーションツールについては、必要であれば講義内で説明する機会を設けます)。最終レポートでは、以下の点について評価を行います。

- (A.) グループ内の役割分担
- (B.) データセットのユニークさおよび、それが適切に処理されているか
- (C.) 分析手法のユニークさおよび、それが適切に解析されているか
- (D.) プレゼンテーションのユニークさ
- (E.) 質疑応答にうまくリプライすることが出来ているか

4. 最終レポートの360° グループ評価 (10パーセント)

3. の最終レポートについて、グループの自己評価および他のグループからの評価を行います。3. で挙げた評価ポイントに基づき、グループメンバーおよび他のグループは評価を行います。

これら1. から4. 得点に基づき、最終成績を決定します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Slack を用い課題に対してコメントを行います。

教科書コメント

特定の教科書は使用しません。

履修上の注意

- 履修制限科目です。
- そのため、初回の履修者数が履修可能人数を超過する場合、初回に簡単なテストを行う予定です。
- 経営学科の学生は3年生以上のみ履修できます

その他

講師は一年間パリで研究活動を行っていました。海外留学や大学院進学等について、質問がありましたらお寄せ頂けましたら幸いです。また、質問は Slack や、ツイッター (@harayasushi) でも受け付けます。不明な点などありましたらお問い合わせくださいませ。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600101	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	赤司 健太郎		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西2-406		

授業概要

時事経済に関する入門書を題材に、受講生がプレゼンテーションやディベートを行う。

到達目標

大学教育におけるゼミ形式の事始めとなることを目的とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	前半は、教科書の担当箇所を要約したパワーポイントでスライドを作成し発表する。後半は、班分けをして時事問題について幾度かディベートを行う。
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業方法

履修者による報告。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表の担当箇所を熟読し、パワポによるスライドを作成する(約60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	演習では、出席と発言による一定の貢献が重視される
その他(備考欄を参照)	50 %	発表スライドの評価

成績評価コメント

ディベートでは、ジャッジ班により評点がつく。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表中心のため、その都度コメントを行う。

教科書

経済と経営を楽しむためのストーリー, 学習院大学経済学部・経済経営研究所 編, 東洋経済新報社

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600102	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
副題	経済学を使って調べるとは		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	神戸 伸輔		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 東2-103		

授業概要

この講義は経済学科の新入年生が、

- 1) 調べるにはどうしたらよいかと
- 2) 発表するにはどうしたらよいか

をグループ発表を通して体験する。発表のテーマは現実の経済から選ぶ。引用の仕方など研究倫理についても学び、2年生以降の演習の準備となる事を目的とする。また、実際の課題について分析することで、体系立てて考える社会科学の方法を知り、課題発見・解決力とは何かを理解することも目的とする。

到達目標

図書館やデータベースなどを活用して大学の講義で使う水準の資料を集めてみる。

現実の課題について、分析のやり方を実践してみる。

適切に引用を行い、論理的で説得的な報告書を作成する練習を行う。

調べたことをわかりやすく発表する練習を行う。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	発表の仕方についておよび研究倫理について
第3回	図書館の使い方について
第4回	資料の集め方について
第5回	発表1巡目(1組)株価はどうやって決まるのか?
第6回	発表1巡目(2組)ギグ・エコノミーとは何か?
第7回	発表1巡目(3組)年金の仕組み:いくらもらえる?
第8回	発表1巡目(4組)ビジネスにおけるユニコーンとは何か?
第9回	1巡目の発表の反省
第10回	発表2巡目(A組)働き方改革で日本社会はどう変わるか?
第11回	発表2巡目(B組)IoTは経済にどんな影響をもたらすか?
第12回	発表2巡目(C組)貿易自由化は日本にとって得か?
第13回	発表2巡目(D組)日本では格差は広がっているか?
第14回	2巡目の発表の反省・読書レポート発表
第15回	自主研究

授業計画コメント

第5回目からはグループに分かれて発表を各人2回ずつ行う。発表は作成したレジュメを配布して行う(プロジェクターは使わない)。グループは1巡目と2巡目で組み替え、それぞれの終りに発表の相互評価を行う。また、社会科学の方法について新書を一冊読んでレポートを書いてもらう。

授業方法

参加学生によるグループ発表による。発表を通して、課題発見力および課題解決力を養う第1歩とする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

グループ発表の準備として、自分の発表ごとに6時間程度。課題図書についてのレポート作成に4時間程度。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	2 %	課題図書についての理解度を試す
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	90 %	講義での発言など参加により評価する
その他(備考欄を参照)	8 %	発表の順位:相互評価によって決まる順位によって点数をつける

成績評価コメント

グループ発表や授業での議論など、学生の参加で運営される講義であり、成績評価もその観点から行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

フィードバックとして、発表については、1巡目と2巡目のそれぞれについて、良かったところ及び改善点について講義中に検討する。また、課題図書についてのレポートは採点して返却し、それに基づいて全体で議論を行う。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

経済学科での入門演習と2年生以降の演習は独立である。入門演習と同じ教員の演習に参加する必要はない。グループ発表が中心の授業のため、学期を通して授業のためにしっかり努力する必要があることを理解したうえで、履修を決めてほしい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600103	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
副題	『通商白書2019』で学ぶ経済入門		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	清水 順子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西2-505		

授業概要

本演習は、経済に関するテーマについて調査・学習し、プレゼン資料としてまとめ、プレゼンテーションや質疑応答を行うための基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的には、『通商白書2019』を用いて情報収集、客観的なデータの作成、プレゼン資料の作成、およびプレゼンテーション能力を鍛えながら、日本経済と世界経済の現状を学ぶ。

到達目標

『通商白書2019』に基づいて日本経済とそれを取り巻く世界経済の現状について概観し、様々なデータや情報をもとにプレゼン資料を作成し、人前できちんと相手を見ながら自分の言葉でプレゼンテーションができるようになることが到達目標である。後半は、グループ単位で皆で協力しながらプレゼンテーションを完成させる体験を通じて、グループ学習での自分の役割についてきちんと理解し、実行する能力を養う。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(講義の進め方・資料作成に関するガイダンス)
第2回	報告資料作成のためのパソコン演習
第3回	『通商白書2019』の輪読(報告担当者によるプレゼンテーションとグループディスカッション)①
第4回	『通商白書2019』の輪読(報告担当者によるプレゼンテーションとグループディスカッション)②
第5回	『通商白書2019』の輪読(報告担当者によるプレゼンテーションとグループディスカッション)③
第6回	『通商白書2019』の輪読(報告担当者によるプレゼンテーションとグループディスカッション)④
第7回	『通商白書2019』の輪読(報告担当者によるプレゼンテーションとグループディスカッション)⑤
第8回	『通商白書2019』の輪読(報告担当者によるプレゼンテーションとグループディスカッション)⑥
第9回	『通商白書2019』の輪読(報告担当者によるプレゼンテーションとグループディスカッション)⑦
第10回	『通商白書2019』の輪読(報告担当者によるプレゼンテーションとグループディスカッション)⑧
第11回	法経図書センターのガイダンスとデータ検索演習と受講者のグループ研究指導
第12回	グループ研究のプレゼンテーションとディスカッション①
第13回	グループ研究のプレゼンテーションとディスカッション②
第14回	グループ研究のプレゼンテーションとディスカッション③
第15回	総括とまとめ

授業方法

前半は『通商白書2019』をもとに報告担当者がプレゼン資料の作成とプレゼンテーションを行い、グループに分かれてディスカッションし、質疑応答を行う。後半は一つの統一したテーマをもとにグループ学習を行い、客観的なデータをもとに資料を作成し、グループでのプレゼンテーションを行う。講義中に報告担当者のみではなく、受講者全員が最低一回は発言することが単位取得の必要要件となる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと(約20分)。報告担当者はプレゼン資料を作成し、プレゼンテーションの練習をする(約1時間30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	報告者として資料を作成したものをレポートとみなし評価する
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	講義中の発言を重視する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(講義中の発言を重視する。)成績評価は、プレゼン資料の作成、プレゼンテーション、および講義中における発言などを総合的に評価して行う。レポート:50%(輪読の担当者が作成するプレゼン資料、およびプレゼンテーションが評価の対象となる。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者が行ったプレゼンに対して講義中にその都度評価を行い、各々のプレゼン資料やプレゼンテーション能力の向上を図る。

教科書

『通商白書2019』,経済産業省

教科書コメント

『通商白書2019』(経済産業省のウェブサイトから適宜ダウンロードできるので、購入する必要はない)

<https://www.meti.go.jp/report/tshaku2019/index.html>

参考文献コメント

必要に応じて、講義中に適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600104	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
副題	身近な問題を経済学で考え、ディベートする		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	鈴木 亘		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 北1-307		

授業概要

日々起きている現実問題、社会問題に経済学を応用し、合理的な判断を行なう技術を身につける。扱うトピックスは、なるべく他の授業とは重ならないように、教育、スポーツ、恋愛、健康、犯罪、貧困といった日常問題、主に新聞の3面記事にのるような広範な社会問題をテーマとして扱う。

到達目標

自分の考えをしっかりと人前で表現できるようになる。相手の意見を尊重し、多様な価値観、意見を受け入れるられるようになる。経済学の考え方を現実問題に応用できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ディベート(1)
第2回	ディベート(2)
第3回	ディベート(3)
第4回	ディベート(4)
第5回	ディベート(5)
第6回	ディベート(6)
第7回	ディベート(7)
第8回	ディベート(8)
第9回	ディベート(9)
第10回	ディベート(10)
第11回	ディベート(11)
第12回	ディベート(12)
第13回	ディベート(13)
第14回	ディベート(14)
第15回	ディベート(15)

授業方法

受講学生は、4チームに分かれてもらい、チームごとに活動をしてもらう。毎回設定されるテーマに対して、事前に下調べをして、授業では2チームによるディベートの対戦を行い、勝者を決定する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、ディベートのテーマについてチームごとに学習し、戦略を練ってくるのが求められる(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	クラスの参加状況などから総合勘案する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):100% 授業の参加状況、議論の内容を総合的に判断する。無断欠席は認めない。授業において積極的に発言し、参加している。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回、授業の最後に講評を行う

教科書コメント

特に無し

参考文献コメント

特に無し

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600105	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
副題	経済学の基礎とデータ分析の初歩		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	西村 淳一		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 西2-403		

授業概要

講義の前半では、経済学の基礎的な考え方やキーワードについて学ぶ。後半では、因果関係の解明とデータ分析の手法について考えていく。学生の主体的な参加を促すため、参加者によるディベートも実施する。また、発表の仕方、スライド作成方法等についても指導する。

到達目標

経済学やデータ分析に関する基礎的な考え方・知識を身につけ、わかりやすく資料にまとめ、発表できるようになることを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	経済学の基礎1: 意思決定
第3回	経済学の基礎2: ゲーム理論入門
第4回	経済学の基礎3: 市場
第5回	経済学の基礎4: 不確実性と情報
第6回	経済学の基礎5: モラルハザード
第7回	経済学の基礎6: インセンティブ設計
第8回	経済学の基礎7: マーケット・デザイン
第9回	経済学の基礎8: 組織デザイン
第10回	データ分析の基礎1: データと因果関係
第11回	データ分析の基礎2: ランダム化比較試験
第12回	データ分析の基礎3: RDデザイン・集積分析
第13回	データ分析の基礎4: パネルデータ分析
第14回	ディベート
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

授業計画は暫定的であり、初回の授業時に授業計画表を配布する。

授業方法

輪読形式による報告と議論を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストを事前の一読し、疑問点をメモしておくこと(約3時間)。
報告担当者は報告資料を用意すること(約2時間)。
自分の報告担当以外でも各自、予習し、質問できるように準備しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

出席は原則として義務とする。無断欠席は許されない。
積極的に発言する学生には高い評価を付ける。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に報告内容や議論に対してコメントを行う。

教科書コメント

ガイダンスにて提示する。

参考文献コメント

ガイダンスにて提示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600106	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	清水 大昌		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 東2-104		

授業概要

本演習はミクロ経済学やゲーム理論と関連する現実のテーマに関する討論を行う。テーマとしては経済と一見無関係に見える身近な話題から現実の経済問題に至るまで幅広いトピックを扱う。

到達目標

討論を通じて、基礎的な情報収集能力・プレゼンテーション能力が習得できる。経済学の習得に必要な不可欠な「物事を多面的かつ客観的に分析するに力」を身につけられる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	初回トピックに関する討論(教員がトピックを用意する)
第3回	トピック発表(教員がトピックを用意する)
第4回	トピック発表(教員がトピックを用意する)
第5回	トピック発表(教員がトピックを用意する)
第6回	トピック発表(教員がトピックを用意する)
第7回	トピック発表(教員がトピックを用意する)
第8回	資料検索・図書館利用に関するガイダンス
第9回	回 / □ トピック発表(学生がトピックを用意する) 回 / □ トピック発表(学生がトピックを用意する) トピック発表(学生がトピックを用意する)
第10回	トピック発表(学生がトピックを用意する)
第11回	トピック発表(学生がトピックを用意する)
第12回	トピック発表(学生がトピックを用意する)
第13回	トピック発表(学生がトピックを用意する)
第14回	5分間個人発表(全員)
第15回	予備日

授業方法

4人か5人程度で発表を行い、他のメンバーは全員討論に参加する。各学生は3回発表を行うこととなる。発表者は司会に徹して、他の学生の議論を引き出すように工夫をする。全ての学生の積極的な発言が求められる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者はグループで内容を教員と相談の上作成し、レジュメにまとめる(約3時間)。聴衆側は簡単にそのトピックの内容について前調べをしておく(約10分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	グループ発表

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等): 50% (出席はもちろん、毎回の発言内容が重視される。)
グループ発表: 50% (発表者以外の学生の理解度をどれだけ上げられたかが重視される。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

入門演習生は教員と積極的にコミュニケーションをとることが期待されています。その際、フィードバックは必要なタイミングで随時行っていきます。

履修上の注意

履修者数制限あり(事前の抽選)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

事前実施される入門演習の振り分けにより、本入門演習へ参加する権利を得た者は、第一回目の授業日に必ず出席すること。
事前連絡無く第一回目に欠席の場合は、履修しないと判断する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600107	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	滝澤 美帆		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 西1-314		

授業概要

大学生活、さらには職場、地域社会で、専攻や専門に関わらず必要となる能力である、考え抜く力、前に踏み出す力、チームで働く力といった社会人基礎力やジェネリックスキルを身に付けるための様々なグループワークを行います。ワークには、リアセック社が開発した『タクナル』というテキストを用い、様々な問題について、他者と意見を交わし合いながらチームで一つずつ解決をしていきます。「これが正解」という答えのないグループワークに対し、「ベストな答え」を仲間たちと考え出すスタイルで、PBL(Project Based Learning)形式でゼミを進めていきます。

到達目標

- ・自分の意見を適切に他者に伝えることができる
- ・議論ができる
- ・情報を収集できる
- ・収集した情報により、簡単な分析ができる
- ・問題を提起できる
- ・計画を構想できる

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション～自己紹介、相互理解ゲーム
第2回	軽く議論してみよう～こわい先生、無人島
第3回	自分の意見を伝えてみよう～告白、人生相談、キャンペーン標語
第4回	本格的に議論してみよう～文化祭の動物園
第5回	本格的に議論してみよう～発表回
第6回	情報を集めてみよう～様々なダイエット方法
第7回	情報を集めてみよう～発表回
第8回	個性を生かそう～キャラ立ちパワーアップ会議
第9回	情報を分析しよう～新入生におすすめの住む街
第10回	情報を分析しよう～発表回
第11回	問題を提起しよう～ブラスバンドGIFTの憂鬱
第12回	問題を提起しよう～発表回
第13回	計画を構想しよう～The Tower
第14回	計画を構想しよう～発表回
第15回	ふりかえり～自分と仲間の成長

授業計画コメント

- ★毎回教科書を忘れずに持参してください★
- ★第1回目のゼミで教科書は教員から配布します★
- ★第1回目のゼミに必ず出席して下さい★

授業方法

- ・グループワークでゼミを進めます
- ・他者との交流の時間が長いです。またゼミの時間外でもグループで集まり、準備をする時間を要します

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- 事前学習:与えられた課題に対して、グループで準備をする(課題により1時間から3時間程度)
- 事後学習:グループワークを通じて次回の課題に役立てることを各自検討する(30分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

普段のグループワークへの貢献度、積極性などを評価します

★如何なる理由でも欠席が4回以上の場合履修不可とします★

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回ふりかえりの時間(ふりかえりシートへの記入等)をとり各自にコメントを求めますが、その都度教員からコメントに対するフィードバックをします

教科書

タクナル,リアセック社

教科書コメント

テキストは教員が準備をします

履修上の注意

履修者数に制限があります

★第1回目のゼミに必ず出席すること★

その他

★グループワークを行うので、このゼミでは他者との積極的交流が必要となります★

★無断欠席をしないこと★

★欠席が4回以上の場合履修不可とします(再掲)★

★欠席の際は事前に教員にメールにて連絡をすること★

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600108	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
副題	豊かな国と貧しい国を考える		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	眞嶋 史叙		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 南1-205		

授業概要

1950年代以降、欧米・日本の経済生活は大きく変化し、1990年代以降、世界の他の地域の経済生活も変化してきました。この演習では、グローバル化が進む大衆消費社会における「豊かさ」と「貧しさ」の変容を、経済社会統計や新聞記事などを使って歴史的に分析・考察していきます。グループごとの研究を進める中で、現代の急速な市場経済化が招いている多くの弊害、特にエネルギーの枯渇、自然環境への負荷、道徳的退廃、アイデンティティ喪失などの諸問題を理解し、「経済人」として、「グローバル市民」としての認識を磨いていきます。

到達目標

- ・世界の途上地域における問題について、講義や書籍等で学んだ内容を、グループ仲間との話し合いを通じて、身近な問題として捉え直し、そこからの学びを文章で表現できるようになります。
- ・グループ研究を通じて調査研究方法を身につけ、経済社会統計や新聞記事から得られた情報を吟味して、他者の見解と自分の意見の違いを認識し、クリティカルに説明できるようになります。
- ・図書館やインターネットからの情報収集方法、表計算ソフトを用いた分析方法、プレゼンテーション・スライドおよび文書作成方法などの基本的なアカデミック・スキルズを習得できます。
- ・経済学科の他の講義(例えば「一般経済史」など)におけるレポート課題やプレゼンテーションの機会に、自信を持って取り組むことができるような、大学生としての知的技法が身につきます。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:グローバル化の進む現代と経済社会的諸問題
第2回	アカデミック・スキルズ(1) 資料検索と文献表の作成方法
第3回	アカデミック・スキルズ(2) データ収集と図表分析方法
第4回	アカデミック・スキルズ(3) プレゼンテーションと文書作成方法
第5回	共同研究課題(1) 経済成長とスローライフ
第6回	共同研究課題(2) 自由貿易とフェアトレード
第7回	共同研究課題(3) 消費主義とアイデンティティ
第8回	共同研究課題(4) インフラ建設と環境保護
第9回	共同研究課題(5) アグロ・ビジネスと食の安全
第10回	グループ研究発表A、ディスカッションと相互評価
第11回	グループ研究発表B、ディスカッションと相互評価
第12回	グループ研究発表C、ディスカッションと相互評価
第13回	グループ研究発表D、ディスカッションと相互評価
第14回	グループ研究発表E、ディスカッションと相互評価、共同研究レポートの提出
第15回	共同研究レポートの返却、アカデミック・スキルズ習得度の確認

授業方法

共同研究課題に沿って、グループワークを進め、課題報告と執筆報告のプレゼンテーションを行ない、共同研究レポートを執筆・提出します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業時間前に共同研究プレゼンテーションおよびレポート執筆の準備をしておくこと(4時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	共同研究レポート:50%
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	共同研究プレゼンテーション:30%、ディスカッションへの貢献:20%
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

共同研究プレゼンテーションは、授業時間内に全員でコメント評価を行います。提出した共同研究レポートには、コメントを付して添削し、返却します。

履修上の注意

履修制限あり。履修選抜の方法について、経済学科履修ガイダンスにて、説明があります。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600109	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	樋 浩一		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西5-301		

授業概要

毎回担当者が選んだ経済ニュースについて参加者全員で意見交換する。レポートや資料作成時の情報の出所の示し方など研究倫理を学ぶ。

到達目標

経済ニュースに関心を持ち情報入手の仕方を身に付ける。経済情報を他の人に分かりやすく説明できるようになる。的確な質問や意見を述べられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(本演習の目的、進め方、資料作成に関するガイダンス)
第2回	グループ分けや発表順の決定
第3回	発表とディスカッション1
第4回	発表とディスカッション2
第5回	発表とディスカッション3
第6回	発表とディスカッション4
第7回	発表とディスカッション5
第8回	発表とディスカッション6
第9回	発表とディスカッション7
第10回	発表とディスカッション8
第11回	発表とディスカッション9
第12回	発表とディスカッション10
第13回	発表とディスカッション11
第14回	発表とディスカッション12
第15回	まとめと講評

授業計画コメント

第2回目に発表の担当回を決めるので必ず出席してください

授業方法

各回の担当者が選んだニュースについて説明し、参加者は追加情報を提供したり質問したりし、全員で意見交換をする。参加者は発表に適切な意見や質問が行えるように、経済ニュースを読むことが求められる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

参加者全員がテーマについて新聞・雑誌、インターネットなどで情報を調べておくこと(約30分)。各回の担当者は発表資料を用意する(数時間)。学期末に提出するレポートに向けてテーマの選択と関連情報を調べる(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末に提出
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

情報を調べて他人に分かりやすく説明する、疑問点が明確な質問をする。意見を述べる。積極的に発言や質問を行うことが重要。期末レポートは筋の通った分かりやすい説明であることがポイント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表や質問、意見交換については毎回の演習でコメントする。最終回には全体を通じた講評を行う。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600110	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	棕 寛		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 中央-508		

授業概要

本演習は与えられたテーマに関する討論を行う。テーマとしては経済とは無関係な身近な話題から現実の経済問題に至るまで幅広いトピックを採り上げる。また、特定の国の観光プロモーション(実際に行ったことがあるか否かは問わない)をし、その国とその国の経済を知るきっかけを作る。経済問題に関するテーマについては、担当教員の専門である国際貿易や貿易政策に関するものが中心となることに留意されたい。

到達目標

討論を通じて、基礎的な情報収集能力・プレゼンテーション能力が習得できる。経済学の習得に必要な不可欠な「物事を多面的かつ客観的に分析するに力」を身につけられる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	グループ分け・討論テーマの確定
第3回	資料検索・図書館利用に関するガイダンス
第4回	身近な話題に関する討論1(テーマ例:小学校での英語教育の是非・女性専用車両の是非など)
第5回	身近な話題に関する討論2
第6回	身近な話題に関する討論3
第7回	身近な話題に関する討論4
第8回	観光プロモーション対決1(任意の1カ国について調べ、観光ツアーを提案する。経済状況や経済問題についても触れ、外国を知るきっかけとする)
第9回	観光プロモーション対決2
第10回	国際経済に関する討論1(テーマ例:外国人労働者の受入れ・TPPの是非など)
第11回	国際経済に関する討論2
第12回	国際経済に関する政策提案1
第13回	国際経済に関する政策提案2
第14回	授業のまとめ
第15回	予備日

授業方法

最初に参加者のグループ分けを行い、討論するテーマを確定する。毎回の講義では各テーマについて事前に賛成グループ・反対グループを決めておき(賛成側か反対側かは「くじ引き」により行う)、それらグループは大学の書籍、雑誌・新聞記事やウェブ資料を参考しつつ賛成・反対の根拠を実際の討論日まで準備しておく。実際の討論日には志願したあるいは指名された司会者の進行の下、賛成側と反対側の各々が簡単なプレゼンテーションを行った後、討論に入る。時間が来たところで残りの参加者が評価者として賛成か反対か投票を行いつつ、感想を書く。最後の2回の討論では、「賛成・反対」ではなく「～を解決するための政策」を提案してもらい、どちらの政策がより望ましいかを競う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者は、必ずレジュメやスライドを作成すること(約3時間)。討論のテーマに関しては、事前に予備知識を得ておくこと(約31時間)。聴衆側は、自身が当該討論テーマに賛成か反対かを必ず考えておくこと(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	毎回の討論後に評価レポートを提出する。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	90 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

持ち点0点からの加算方式で絶対評価する。出席・発言・司会・討論の勝利・プレゼンテーション・グループリーダーへの就任などが加点対象である。出席点のみでは、単位取得の必要点をクリアできないことに留意してほしい

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の討論後に履修者から提出される評価シートの内容をまとめ、次回の演習の冒頭で紹介するとともに、プレゼンテーションや討論の改善点を示している。

履修上の注意

履修者数制限あり(事前の抽選)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

事前実施される入門演習の振り分けにより、本入門演習へ参加する権利を得た者は、第一回目の授業日に必ず出席すること。事前連絡無く第一回目に欠席の場合は、履修しないと判断する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600112	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
副題	競争社会について		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	脇坂 明		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 西1-302		

授業概要

テキストを輪読しながら、経済学の内容に触れる。

到達目標

経済学の入り口に取り組む姿勢を涵養する。

授業内容

実施回	内容
第1回	進め方の説明
第2回	発表(1) チケット転売問題
第3回	発表(2) 価格戦略
第4回	発表(3) 落語のなかの経済学
第5回	発表(4) 小説と経済学
第6回	発表(5) 映画と労働経済
第7回	発表(6) 感情と経済学
第8回	発表(7) リスクとストレス
第9回	発表(8) 利他的感情
第10回	発表(9) 就職に対する思い
第11回	発表(10) 個人主義など
第12回	発表(11) 女性活躍
第13回	発表(12) 格差社会の実態
第14回	発表(13) 所得再分配
第15回	総括

授業方法

与えられて資料を各自、発表し、そのテーマについて議論する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者はプレゼンの準備、発表者以外は、質問コメントなど意見を述べるようにしておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

報告について改善点などのコメントをし、修正したものを提出してもらう。

教科書

競争社会の歩き方,大竹文雄,中央公論新社,2017

教科書コメント

特定の教科書はなく、雑誌、新聞などを利用する。

参考文献

労働経済学入門,脇坂明,日本評論社,2011

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600114	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
副題	歴史的に現代日本を考える		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	石井 晋		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 西2-205		

授業概要

20世紀末から21世紀初めの間、日本あるいは世界で起きた、社会・経済の歴史上の重要な出来事について、調べ、ディスカッションし、発表する。ディスカッションテーマは、現在のところ、IT技術の普及、家族形成(結婚・出産等)の変容、日本企業のグローバル化、相対的貧困率の上昇の4つの予定。変更の可能性あり。発表については、平成の社会・経済の歴史について、各自でテーマを決め、主に新聞記事を検索してまとめる。

到達目標

新聞記事などを検索して、歴史的な出来事を的確に把握し、多様な観点から、さまざまな出来事を分析できるようになることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス1・自己紹介等
第2回	ガイダンス2・発表順の決定等
第3回	グループ・ディスカッション1～IT技術の普及
第4回	グループ・ディスカッション2～家族形成(結婚・出産等)の変容
第5回	グループ・ディスカッション3～日本企業のグローバル化
第6回	グループ・ディスカッション4～相対的貧困率の上昇
第7回	平成の社会経済史についての解説
第8回	発表1
第9回	発表2
第10回	発表3
第11回	発表4
第12回	発表5
第13回	発表6
第14回	まとめ
第15回	予備日

授業計画コメント

ディスカッションテーマは変更の可能性あり。

授業方法

参加者によるグループディスカッション、発表を中心に行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ディスカッションおよび発表の準備(約1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	75 %	
その他(備考欄を参照)	25 %	ディスカッションまとめ、発表内容

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中のコメントによる。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210600115	科目ナンバリング	021A100
講義名	入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Economics		
担当者名	福地 純一郎		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 中央-505		

授業概要

この入門演習では以下の内容を行う。

1. 自己紹介などのスピーチを行う。
2. テーマに沿ってパワーポイントを作成(グループワーク)

到達目標

1. 事前に原稿を準備してスピーチを行うことができるようになる
2. 班ごとにテーマを決めて具体的案を作成する
3. データ分析を実際に行ってみる

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、自己紹介
第2回	あらかじめ原稿を作成してから自己紹介を行う(関心のあること、大学で学びたいこと)
第3回	あらかじめ原稿を作成してから自己紹介を行う(関心のあること、大学で学びたいこと)
第4回	地域活性化案作成
第5回	地域活性化案作成
第6回	地域活性化案作成
第7回	地域活性化案作成
第8回	パワーポイント作成(テーマ:地域活性化案)
第9回	パワーポイント作成(テーマ:地域活性化案)
第10回	パワーポイント作成(テーマ:地域活性化案)
第11回	パワーポイントを用いたプレゼンテーション
第12回	パワーポイントを用いたプレゼンテーション
第13回	Rによるデータ分析
第14回	Rによるデータ分析
第15回	まとめと振り返り

授業方法

履修者のスピーチおよび発表。コンピュータ実習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業時間外に課題を行う

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	出席を重視する
その他(備考欄を参照)	40 %	複数の課題

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題について評価とサジェスションを書いて返却する

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620101	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	赤司 健太郎		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 東2-103		

授業概要

ゼミの大きな方針は、日本経済・金融・政策などに関わる時事問題を対象として、計量モデルによる実証分析を習得することである。まず2年次では、経済学科科目の応用として取得できる「統計検定」を見据え、その中で比較的容易な3級向けの勉強を行い、2年次の11月に取得を目指す。

到達目標

統計検定3級の取得。

授業内容

実施回	内容
第1回	2年次では、主に統計検定3級に向けた試験対策を行う。
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業方法

輪読

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に輪読の担当箇所を熟読しておくこと(約60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	レジメの評価

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表中心のため、その都度コメントを行う。

教科書

日本統計学会公式認定 統計検定3級対応 データの分析, 日本統計学会, 東京図書

履修上の注意

履修者数制限あり。3年次以降の演習で計量ソフトEViewsを使用するので、3年次までに「計量経済学」を履修することが望まれる。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620102	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
副題	歴史的に考える		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	石井 晋		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 西2-205		

授業概要

産業構造や企業組織のあり方の変化とともに、ひとびとの生活やライフ・コース(学校生活、就職、家族形成、男女の性別役割、老後の生活等)は大きく変化してきた。日本および世界のなかで、産業や企業がどのように変化し、それにともなってひとびとの生活はどのように変化してきたのか。2年次の演習では、現在の日本が直面する、社会経済上の主要な課題について調べ、発表する。3年次以降は、過去にさかのぼって、歴史的な変化について調べていく予定。

到達目標

産業・企業・ひとびとのライフ・コースなどについて、自ら調べることにより、調査・分析手法を身につけるとともに、日本経済の現実について、歴史的かつ広い視野で理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンスと自己紹介
第2回	歴史的に考えるとはどういうことか(概説)
第3回	グループ・ディスカッション1
第4回	グループ・ディスカッション2
第5回	グループ・ディスカッション3
第6回	グループ・ディスカッション4
第7回	発表テーマについての概説講義1
第8回	発表テーマについての概説講義2
第9回	グループ発表の準備1
第10回	グループ発表の準備2
第11回	グループ発表1
第12回	グループ発表2
第13回	グループ発表3
第14回	グループ発表4
第15回	全体のまとめ

授業計画コメント

参加者の数によって、グループ分けなどの予定が変更になる可能性がある。

授業方法

グループ・ディスカッションおよびグループ発表が中心となる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

プレゼンテーションに向けての予習(30分～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	85 %	
その他(備考欄を参照)	15 %	ゼミ活動へのさまざまな貢献

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表に対するコメント等を通じてフィードバックを行う。

履修上の注意

履修者数制限あり。(約20名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620103	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
副題	外国為替市場の仕組みを学ぶ		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	清水 順子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 西2-505		

授業概要

2年の演習では、3、4年の演習に必要な知識を国際金融市場関連の教科書の輪読と外国為替市場の市況報告、という2つの側面から学習する。毎回の講義では輪読と市況担当をそれぞれ決め、報告資料を使ってプレゼンしてもらい、皆で質疑応答しながら学習していく。

到達目標

3、4年のゼミ活動で必要となる国際金融と為替市場に関する基礎知識を習得するとともに、自分が担当する報告のプレゼン資料の作成、およびプレゼンの上達を目的とする。また、グループ学習では、ゼミのメンバーとの協調性を保ちながら、自分の考えを主張し、議論を進めながらグループ学習の成果をまとめる力を養う。

授業内容

実施回	内容
第1回	ゼミのオリエンテーションと外国為替市場の市況報告演習
第2回	国際金融市場関わる本の輪読と外国為替市場の市況報告1
第3回	国際金融市場関わる本の輪読と外国為替市場の市況報告2
第4回	国際金融市場関わる本の輪読と外国為替市場の市況報告3
第5回	国際金融市場関わる本の輪読と外国為替市場の市況報告4
第6回	国際金融市場関わる本の輪読と外国為替市場の市況報告5
第7回	国際金融市場関わる本の輪読と外国為替市場の市況報告6
第8回	国際金融市場関わる本の輪読と外国為替市場の市況報告7
第9回	グループ学習(三大学インカレゼミのテーマ決めと報告資料作成準備)
第10回	グループ学習(三大学インカレゼミの報告資料作成と途中経過プレゼン)
第11回	グループ学習(三大学インカレゼミの報告資料完成とプレゼン)
第12回	国際金融市場関わる本の輪読と外国為替市場の市況報告8
第13回	国際金融市場関わる本の輪読と外国為替市場の市況報告9
第14回	国際金融市場関わる本の輪読と外国為替市場の市況報告10
第15回	3年のゼミ活動(日経円ダービー)のグループ決め

授業計画コメント

ゼミの講義はゼミ生を中心に行なわれることを十分自覚して受講してください。

授業方法

毎回の講義は、輪読と為替市場解説の報告担当者がそれぞれ資料を作成してプレゼンし、皆で質疑応答し、国際金融や為替市場に関する理解を深める。三大学のインカレゼミでの報告はグループ単位で行うので、グループ学習による報告も行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講義で輪読担当、あるいは市場解説担当になった学生は、事前に本を読み、情報を収集し、報告スライドを期限までに完成させること。またグループ学習の場合は、事前にグループのメンバーで集まり、報告の準備を行う(約3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	各自の報告資料をレポートとして評価
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(ゼミでの発言を重視する。)レポート:50%(報告担当の際の資料作成とプレゼンテーションを重視する。)ゼミでの報告資料、プレゼンテーション、グループ学習における貢献度、およびゼミでの発言などを総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中の報告資料作成、プレゼンについてはその都度フィードバックし、皆で改良に取り組みます。

教科書コメント

教科書は講義中に指示し、配布する予定である。

参考文献コメント

講義中に適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(20名) / 第1回目の講義に必ず出席のこと。

その他

ゼミナールに積極的、かつ真剣に参加する学生を望みます。毎回ゼミに出席し、4年生のゼミで卒論集を作成するまで参加することが必須条件です。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620104	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	清水 大昌		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 東2-104		

授業概要

発表と議論を通じて演習形式で学習を進める。

到達目標

応用ミクロ経済学、ゲーム理論、そして産業組織の手法を学び、経済現象を理解し、来年度のゼミ発表会での発表が出来る程度の分析能力を得ることを目的とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	トピック#1(教員が準備したトピックについて議論する)
第2回	教科書#1(以降、ゼミ生が発表資料を準備する)
第3回	トピック#2
第4回	教科書#2
第5回	トピック#3
第6回	教科書#3
第7回	トピック#4
第8回	教科書#4
第9回	トピック#5
第10回	教科書#5
第11回	トピック#6
第12回	教科書#6
第13回	全員5分間ずつの発表会
第14回	まとめと次年度に向けての総括
第15回	予備日

授業計画コメント

トピック回では、現実の事象を扱い、それが起こる経済学的意味や、それに対する政策の妥当性などについて議論する。教科書回では、報告・質問・討論を行う。議論や分析において必要となってくる、論理学、数学、ゲーム理論、統計学などのツールは必要に応じて説明していく。

授業方法

教科書発表では、発表者は他のゼミ生が理解出来るように発表を工夫して行う。トピック発表では、発表者は司会に徹して、他のゼミ生の議論を引き出すように工夫をする。どちらにせよ、全てのゼミ生の積極的な発言が求められる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書発表の回では、発表班はその準備を行うが、それ以外の人も該当する部分を読み、理解度を高め不明な点を把握しておく(約1時間)。トピック発表の会では、発表班は準備を行うが、それ以外の人は特に予習をする必要はない。発表の際は、班内の担当分け、調査、分析、研究室での打ち合わせなど、その週の空き時間の多くを使うと考えてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	グループ発表

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席はもちろん、毎回の発言内容が重視される。)グループ発表:50%(発表者以外のゼミ生の理解度をどれだけ上げられたかが重視される。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ゼミ生は常に教員と密接に居る機会を与えられることとなります。フィードバックは必要なタイミングで随時行っていきます。

教科書コメント

ゼミのオリエンテーション(6月に開催予定)において指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

その他

履修を考えている学生は教員HPを参照して下さい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620105	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
副題	社会問題を経済学で考える		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	鈴木 亘		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 北1-307		

授業概要

日々、現実には起きている社会問題を、経済学的観点から、毎回徹底的に議論する。議論のテーマは、マクロ経済、金融や財政、国際経済などのいわゆる「経済学部らしい」分野に限らず、恋愛・結婚問題、教育問題、環境問題、スポーツや芸術に関する問題、差別の問題、就職問題、法律・政治問題、国際問題、福祉・貧困問題など、何でもよろしい。世の中で起きているすべての社会問題は、経済学によって考え、処方箋を得ることができる。学生は3チームに別れ、チームごとに活動をしてもらう。毎回、設定されるテーマに対して、チームごとに下調べをし、授業では2チームによるディベート対戦を行なってもらう。残りのチームは審判である。これをローテーションで回してゆく。ディベートで徹底討論をする中で、経済学を現実問題に応用する考え方を身に付けることを目的とする。

到達目標

自分の考えをしっかりと人前で表現できるようになる。相手の意見を尊重し、多様な価値観、意見を受け入れるられるようになる。経済学の考え方を現実問題に応用できるようになる。社会に出てから必要な他人の説得術や、冷静に議論を展開する能力も身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	ディベート1
第2回	ディベート2
第3回	ディベート3
第4回	ディベート4
第5回	ディベート5
第6回	ディベート6
第7回	ディベート7
第8回	ディベート8
第9回	ディベート9
第10回	ディベート10
第11回	ディベート11
第12回	ディベート12
第13回	ディベート13
第14回	ディベート14
第15回	ディベート15

授業計画コメント

毎回、旬のテーマを設定するために、事前の計画は決めない。

授業方法

チームに分かれた上で、ディベート形式による対戦を行なう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習を求める。毎回、ディベートの担当になったチームは、ディベートのテーマについて学習し、作戦を練ってこることが求められる(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	クラスの参加状況などから総合勘案する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):100%(ディベートの参加状況、発言内容を評価) ディベートの参加状況、発言状況により判断する。無断欠席は認めない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回、授業の最後に講評を行う

教科書コメント

特に無し

参考文献

経済学で現代社会を読む 改訂新版, ロジャー・ミラー, ダニエル・ベンジャミン, ダグラス・ノース (赤羽隆夫・翻訳), 日本経済新聞出版社, 2010, 9784532354305

履修上の注意

履修者数制限あり。(15名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

ゼミの応募にあたっては、課題の提出を求めたり、面接試験を行う可能性がある。募集の掲示物をよく読むこと。今年度の募集人数は、15人以内に制限する。関連するテーマで社会科学見学なども行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620106	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
副題	10年後の日本経済を予測する		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	樋 浩一		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2-403		

授業概要

10年後の日本経済がどのようになっているか予測するためのポイントを全員で考察する。毎回担当者が発表を行い、参加者全員で議論する。学期末に各自がレポートを提出する。レポートや資料作成時の情報の出所の示し方など研究倫理を学ぶ。

到達目標

他の人に分かりやすく説明できるようになる。的確な質問や意見を述べられるようになる。経済学に基づいた議論が行えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(本演習の目的、進め方、資料作成に関するガイダンス)
第2回	グループ分けや発表順の決定、取り上げるテーマについての意見交換
第3回	経済予測の実際(講義)
第4回	発表とディスカッション1
第5回	発表とディスカッション2
第6回	発表とディスカッション3
第7回	発表とディスカッション4
第8回	発表とディスカッション5
第9回	発表とディスカッション6
第10回	発表とディスカッション7
第11回	発表とディスカッション8
第12回	発表とディスカッション9
第13回	発表とディスカッション10
第14回	10年後の日本経済ディスカッション1
第15回	10年後の日本経済ディスカッション2

授業計画コメント

第2回目の授業で担当回を決めるので必ず出席してください。

授業方法

担当者によるプレゼンテーション、全員による意見交換

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

説明者はテーマについて調査し資料を作成、説明の練習をする。復習では授業でのディスカッションを踏まえて追加的な調査を行い、学期末のレポート作成に向けて作業をする(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

情報を調べて他人に分かりやすく説明する、疑問点が明確な質問をする。経済学に基づいた議論ができる。積極的に発言や質問を行うことが重要。期末レポートは経済学に基づく分かりやすい説明であることがポイント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表や質問、意見交換については毎回の演習でコメントする。最終回には全体を通した講評を行う。

履修上の注意

履修者数制限あり。／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620107	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
副題	データサイエンスの専門家を目指す		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	福地 純一郎		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 中央-505		

授業概要

ゼミ(演習)では、自立的にデータ分析、統計分析ができるようになることを目的とします。演習(2年生)では、テキストを輪読することによってRの基本を理解し正しいコードを書くことができるように訓練する。Rはデータ分析のための世界標準のソフト・言語である。また、Pythonを用いてデータ分析を学ぶテキストも輪読する。私の担当する演習を履修を希望する場合、2020年度の「経済学特殊講義(Rによる因果推論)」を履修することによって、自分が演習の内容に向いているかどうかを判断することを勧める。

到達目標

各年次の具体的目標は以下である。

2年次：Rの基本を理解しコードを書けるようになる。Pythonを用いてデータ分析ができるようになる。

3年次：データ分析のコンペティション(たとえば、マイナビSignateデータ分析コンペティションなど)に参加する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Rの初歩
第3回	テキスト1章(1) Rの基礎
第4回	テキスト1章(2) Rの基礎。部分集合化
第5回	テキスト1章(3) Rの基礎。論理演算子
第6回	テキスト2章: テキスト2章:因果推論
第7回	テキスト2章:差の差分析
第8回	Rによる回帰分析
第9回	Pythonによるデータ分析(1)
第10回	Pythonによるデータ分析(2)
第11回	Pythonによるデータ分析(3)
第12回	Pythonによるデータ分析(4)
第13回	Pythonによるデータ分析(5)
第14回	Pythonによるデータ分析(6)
第15回	まとめと振り返り

授業計画コメント

私の担当する演習を履修を希望する場合、2019年度の「経済学特殊講義(Rによるデータ分析)」を履修することによって、自分が演習の内容に向いているかどうかを判断することを勧める。

授業方法

主に履修者の発表とR, Pythonの実習。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストを中心に演習を行うので、予習と復習を行い、R, Pythonの基本をマスターすること。授業1回あたり60～120分の準備が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	出席を重視する
その他(備考欄を参照)	40 %	課題

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題についてサジェスションと評価を書き返却する。

教科書

社会科学のためのデータ分析入門(上),今井耕介,岩波書店

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620108	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	眞嶋 史叙		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 個人研究室		

授業概要

グローバル・エコノミック・ヒストリーを多角的に理解したい学生のための演習です。最終目標として、卒業論文を2年半計画で執筆するために、段階的にグローバル経済と経済の歴史に理解を深め、文章で自己の考えを適切に表現できるようになることを目指します。2年次には、学生ひとりひとりの関心に合わせ、個人研究課題を選定するための準備を行います。まず個人研究課題を絞り込むための第一段階として、ゼミ合宿等の実地体験研修の中で感覚的に学んだことを、上級生や同級生との共同研究の中で調査分析して深化させ、大学祭の場で共同研究ポスター・ビデオ等の発表を行います。この共同研究発表を通じて、学生が主体的に共同研究計画を立て、チームワークを大切にしながら、プレゼンテーションやポスター等を執筆作成する方法を学びます。個人研究課題を絞り込む第二段階として、ひとりひとりの関心に基づきそれぞれ新書を選定し、全員がお互いの選書を毎週一冊輪読して短いレポートを執筆します。選書をした学生はプレゼンテーションをおこない、続いて全員でグループディスカッションを行うことで、自己の興味関心を自信をもって伝え、選書の見解を評価する力をつけます。

詳細は、以下の眞嶋研究室ウェブサイトを参照してください。

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20070019/index.html>

到達目標

- ・現代と過去の世界経済の発展過程について講義や書籍等で学んだ内容を、ゼミ合宿等の実地体験研修を通じて、身近な問題として捉え直し、そこからの学びを文章や他の表現方法で表現できるようになります。
- ・3・4年次にゼミ論文執筆ができるよう、その準備として、共同研究を通じて調査研究方法をまなび、また自ら選んだ文献を読んで評論文が書くことを通じて、他者の見解と自分の意見の違いを認識して、文章に表現できるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	ゼミ論文の執筆とポスター発表について
第2回	ゼミ合宿における実地体験研修について
第3回	共同研究課題とグループワークについて
第4回	共同研究課題の選定と要点の整理(1)
第5回	共同研究課題の選定と要点の整理(2)
第6回	大学祭共同研究発表の中間報告(1)
第7回	大学祭共同研究発表の中間報告(2)
第8回	共同研究の振り返りと議論の整理(1)
第9回	共同研究の振り返りと議論の整理(2)
第10回	個人研究課題に関わる文献輪読(1)
第11回	個人研究課題に関わる文献輪読(2)
第12回	文献評論執筆の中間報告(1)
第13回	文献評論執筆の中間報告(2)
第14回	文献評論の提出、ゼミ活動のまとめ
第15回	文献評論の返却、到達度の確認

授業方法

共同研究課題に沿って、グループワークを進め、大学祭時に共同研究発表(ポスター・ビデオ等発表)を行ない、個人の研究課題を模索する過程で、新書等の文献を選んで読み、評論文を執筆・提出します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業時間前に輪読文献の読書と短文レポート執筆、および共同研究ポスター作成、評論文執筆の準備をしておくこと(4時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	大学祭共同ポスター発表への貢献:30%、文献評論プレゼンテーション:10%
その他(備考欄を参照)	60 %	文献評論文:60%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

大学祭で発表したポスターは、授業時間内に全員でコメント評価を行います。提出した文献評論には、コメントを付して添削し、返却します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620109	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	三井 清		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2-304		

授業概要

財政あるいは公共経済に関する文献を輪読し、その内容について参加者全員で討論する。

到達目標

財政あるいは公共経済の基本的問題や基本的概念に関する理解度を高める。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	輪読と討論1
第3回	輪読と討論2
第4回	輪読と討論3
第5回	輪読と討論4
第6回	輪読と討論5
第7回	輪読と討論6
第8回	輪読と討論7
第9回	輪読と討論8
第10回	輪読と討論9
第11回	輪読と討論10
第12回	輪読と討論11
第13回	輪読と討論12
第14回	授業のまとめ
第15回	予備日

授業方法

参加者は輪番で割り当てられた担当箇所の「まとめ」あるいは「参考情報」を報告する。他の参加者は報告を聞いて疑問に感じた点などについて質問する。さらに、全員で討論することで理解を深める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

報告者は事前に報告資料を準備する(約2時間)。その他の履修者は教科書の該当箇所を読んでおく(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	発表内容と質問・討論に対する貢献度

成績評価コメント

「平常点」は最後の講義のときに伝える。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に講評を行う。

教科書コメント

開講時に指定する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(15名)

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620110	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	棕 寛		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 中央-508		

授業概要

国際経済学の中でも特に国際貿易論に焦点を当て、その基礎理論を学習しつつ現実の国際経済現象を考察する。

到達目標

経済学的な視点から現実の通商政策を論じる眼を養うことができるようになる。数回のグループ報告を通じて、効果的なプレゼンテーション能力が身につけられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	新聞記事や雑誌記事を使った「ミニプレゼン会」(1)
第3回	新聞記事や雑誌記事を使った「ミニプレゼン会」(2)
第4回	テキストの輪読(1)
第5回	テキストの輪読(2)
第6回	ゲスト講師による講演
第7回	テキストの輪読(3)
第8回	テキストの輪読(4)
第9回	テキストの輪読(5)
第10回	回帰分析の説明と統計ソフトの解説
第11回	国際経済問題に関する報告(現状分析と問題点の指摘その1)
第12回	国際経済問題に関する報告(分析結果の説明とディスカッション1)
第13回	国際経済問題に関する報告(現状分析と問題点の指摘その2)
第14回	国際経済問題に関する報告(分析結果の説明とディスカッション2)
第15回	まとめ

授業計画コメント

官庁や民間企業に勤める社会人をゲスト講師として呼び、仕事内容や現実の経済について概説して貰う機会を1回持つ予定である(これまでは参議院事務局経済産業委員会調査室、キヤノングローバル戦略研究所、経済産業省、財務省、財団法人価値総合研究所、野村総合研究所、UFJ総合研究所、フランス大使館、TMI総合法律事務所、EMCジャパンなどからゲスト講師を招聘した)。参加者の予定が合えば、国際経済に関する施設や工場を見学に行く。

授業方法

前半は参加者が割り当てられたテキストの担当箇所を報告する、輪読形式をとる。報告に関連したトピックについてゼミ全体で議論する。後半は、各グループが2週連続で特定のテーマに関して基礎情報を報告しつつ、独自の主張をし討論を行う。出席者は積極的に発言することが求められ、場合によってはこちらから指名の上発言を求める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

報告時には、必ずスライドとレジュメを用意すること(約1時間)。事前に必ず教科書の該当部分を読んでおくこと(約1時間)。討論テーマに関しては、報告者以外も事前に調べておくこと(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	90 %	グループ発表の内容と発言・出席などの平常点により総合的に判断する
その他(備考欄を参照)	10 %	ミニ報告会での発表:ゼミ開始直後の、ニュース記事を持ち寄った報告会の内容を評価する

成績評価コメント

病欠などの事情がない限り、演習には毎回出席することが原則である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者による報告が中心となるため、報告に対して適時コメントする。

教科書コメント

教科書は受講者と事前に相談の上、初回の授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

その他

参加者の学科は問わない(実際、経営学科の学生も定期的に入ゼミしている)が、自主的に経済学の知識を身につける意欲が要求される。本年度の「国際経済学」を履修または見学していることが望ましい。ゼミの募集に関する詳細は <https://goo.gl/Kvhv6w> を参照のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620111	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
副題	日本社会のしくみを雇用システムと教育システムを中心に考える		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	脇坂 明		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 西1-308		

授業概要

教育システムと雇用システムとのかかわりを学ぶ。
そのなかでグループごとに深掘りするテーマを決める。

到達目標

雇用システムや教育システムについて、ほかの経済学科の学生に説明できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	教科書と班編成の説明
第2回	日本社会の「三つの生き方」
第3回	「三つの生き方」の推計
第4回	日本の働き方
第5回	世界の働き方
第6回	歴史の働き
第7回	「日本型雇用」の起源
第8回	英米との違い
第9回	慣行の形成
第10回	民主化と社員の平等
第11回	二重構造論
第12回	高度成長と学歴
第13回	「一億総中流」と格差論
第14回	社会のしくみと「正義」
第15回	雇用システムの国際比較

授業方法

教科書の輪読が中心となる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書を理解できるまで読み込んでおく。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

班発表についてコメントする。

教科書

日本社会のしくみ, 小熊英二, 講談社, 2019

参考文献

欧州の教育・雇用制度と若者のキャリア形成, 藤本昌代・山内麻里ほか編著, 白桃書房, 2019

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620112	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	和光 純		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2-306		

授業概要

我々の経済社会においてゲーム理論がどのように役立つのかについて、ゲーム理論の基礎的教科書を用いて学ぶ。

到達目標

ゲーム理論を構成する種々の基礎的概念について、それら各々の定義と経済学的意味を理解して、説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	今年度のゼミについて
第2回	ゲーム理論の紹介
第3回	期待効用仮説
第4回	不確実性と主観確率
第5回	戦略形ゲーム
第6回	クールノー寡占市場
第7回	公共財の供給問題
第8回	オークション
第9回	ナッシュ均衡
第10回	混合戦略と混合戦略ナッシュ均衡
第11回	支配戦略均衡
第12回	マクスマニ戦略
第13回	囚人のジレンマ
第14回	ナッシュ均衡とパレート最適性
第15回	自主研究

授業計画コメント

岡田章氏のゲーム理論のテキストを丹念に輪読し、ゲーム理論の基礎を学ぶ。

授業方法

輪講形式での演習を行う。本授業とあわせて、ゲーム理論の授業を履修することが望まれる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

輪講形式での演習を行うため、担当報告グループは、報告用スライドとレジュメを用意すること(6時間)。報告担当でないゼミ生は、報告される章を熟読し質問できるように予習すること(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	積極的な質問、議論への参加
その他(備考欄を参照)	60 %	報告

成績評価コメント

クラス参加、報告、議論への参加を総合して評価するが、積極性を重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レジュメやスライド、口頭説明、また、報告者以外からの質問について、授業中に逐次、コメントを与えて、より深い理解が得られるようにする。

教科書

ゲーム理論・入門:有斐閣アルマ,岡田章,有斐閣,新,2014,9784641220287

教科書コメント

本教科書は、ゲーム理論をはじめて学ぶ人を対象として、ゲーム理論の考え方から最新の研究内容までを、極めて簡明に

書きあげた良書である。本書を勉強することによって、ゲーム理論的な考え方を理解し、その応用例を十分に発見できるであろう。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620113	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
副題	GDP統計の理解		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	宮川 努		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 西2-205		

授業概要

D.コイルの「GDP」(みすず書房)をベースとして、GDP統計に関する理解を深める

到達目標

到達目標は3つある。一つはGDP指標の意味に関する理解を深めること。二つ目は、GDP統計だけでなく経済統計とその作成方法について理解すること。三つめは、統計を使った議論になじむことである。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業についての説明
第2回	報告者の決定 GDP 輪読スケジュールの確定
第3回	GDPの概念についての概説
第4回	GDP統計についての概説
第5回	経済統計の使い方
第6回	テキストの報告(第1章)
第7回	テキストの報告(第2章)
第8回	テキストの報告(第3章)
第9回	テキストの報告(第4章)
第10回	テキストの報告(第5章)
第11回	テキストの報告(第6章)
第12回	GDP統計と景気循環
第13回	GDP統計と経済成長
第14回	GDP統計と所得分配
第15回	授業の総括

授業方法

講義と授業参加者による報告で授業を進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の最初の3回程度は、GDPについての概説なので、授業後30分程度は復習しておくこと。また報告の段階では、報告者だけでなく授業参加者全員が事前に1時間程度予習しておくこと。報告者は、それ以上の時間をかけて報告資料を作成すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

報告者の報告内容及び授業中の質問など授業への積極的な参加を重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中の報告については、そのたびにコメントをする。

教科書

GDP,ダイアン・コイル,みすず書房,2015,978-4-622-07911-8

参考文献

参考文献コメント

参考文献は、GDPの最初の概説で利用する。

履修上の注意

初回の授業に必ず出席すること

その他

質問があれば授業中を利用してもらいたい。報告の仕方で不明な点があれば、オフィスアワーを利用してもらいたい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210620114	科目ナンバリング	021B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(Second Grade)		
担当者名	滝澤 美帆		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 西1-314		

授業概要

2年次ゼミでは、経済問題に関する資料の収集、それを文章にまとめる作業、その内容に関連したプレゼンや討論(ディベート)の方法を学ぶ。

到達目標

テーマ(経済問題)に関連した資料を収集できる。
 収集した資料について、アカデミックな文章を用いてまとめることができる。
 まとめた内容についてプレゼンテーションや討論(ディベート)ができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:ゼミの進め方、ゼミ履修上のルールの説明
第2回	資料の収集
第3回	パラグラフライティング
第4回	アカデミックな文章
第5回	論拠、データ
第6回	ミニレポート
第7回	相互評価
第8回	テーマ決めとテーマに関連した情報の収集
第9回	プレゼンの準備
第10回	プレゼン1
第11回	プレゼン2
第12回	ディベートの方法
第13回	ディベート準備回
第14回	模擬ディベート
第15回	まとめ

授業方法

グループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:テーマに沿った課題を出すので、ゼミまでに準備をしておくこと(1時間)

復習:テーマの内容の自身の理解度を確認すること(30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ★半期4回以上の欠席でゼミの単位は履修できない。
- ★無断欠席は厳禁とする。欠席の場合は必ず事前に教員にメールにて連絡をすること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワークを行い、その都度コメントをする。

その他

他大学との交流(インゼミ)も行う予定です。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630101	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	赤司 健太郎		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 東2-103		

授業概要

ゼミの大きな方針は、日本経済・金融・政策などに関わる時事問題を対象として、計量モデルによる実証分析を習得することである。前期は資格取得のための試験対策、後期は個々人の興味のある先行研究を議論する。

到達目標

統計検定2級の資格取得、先行研究をもとに研究テーマを見つけプレゼンを行う。

授業内容

実施回	内容
第1回	統計検定2級の資格取得への勉強会を中心とする。続いて個人の研究テーマ(データ分析を伴う)を見つけ、先行研究論文のプレゼンをする。
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業方法

輪読及びプレゼン

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に輪読の担当箇所を熟読しておくこと(約60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	レジメの評価

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表中心のため、その都度コメントを行う。

教科書

日本統計学会公式認定 統計検2級対応 統計学基礎, 日本統計学会, 東京図書

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630102	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
副題	歴史的に考える		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	石井 晋		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 西2-205		

授業概要

1学期は、昭和から平成に至る、経済関連の歴史について調べ、2つのテーマ①日本企業の働き方・雇用のあり方と家族形成のあり方、およびそれらの変化について ②世界で起きた、いくつかの重要なイノベーションが、社会のあり方や人々の生活にどのような影響を与えてきたかについてを設定して、チームで調べ、発表する。
2学期は、歴史的な現在の日本において重要と思われるテーマをいくつか設定して調べ、グループディスカッションを行ったあと、個人発表してもらい、それぞれの発表に対してコメンテーターをつける。

到達目標

資料から、歴史の流れを理解する能力の養成。説得的な議論を行う能力の養成。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	テーマの概説とチーム分け
第3回	日本企業の働き方・雇用のあり方と家族形成のあり方についての概説
第4回	世界で起きた、いくつかの重要なイノベーションが、社会のあり方や人々の生活にどのような影響を与えてきたかについての概説
第5回	各チームでプレゼンテーションに向けての準備1
第6回	各チームでプレゼンテーションに向けての準備2
第7回	各チームでプレゼンテーションに向けての準備3
第8回	各チームでプレゼンテーションに向けての準備4
第9回	チーム発表1
第10回	チーム発表2
第11回	ディスカッションタイム1
第12回	チーム発表3
第13回	チーム発表4
第14回	ディスカッションタイム2
第15回	1学期のまとめ
第16回	2学期のガイダンス
第17回	ディベートやディスカッションについての解説
第18回	グループディスカッション1
第19回	グループディスカッション2
第20回	グループディスカッション3
第21回	グループディスカッション4
第22回	テーマ1の概説
第23回	テーマ1についての発表とコメント
第24回	テーマ2の概説
第25回	テーマ2についての発表とコメント
第26回	テーマ3の概説
第27回	テーマ3についての発表とコメント
第28回	テーマ4の概説
第29回	テーマ4についての発表とコメント
第30回	全体のまとめ

授業計画コメント

1学期のテーマについては、参加者の意見を聞きながら変更する可能性がある。
夏合宿実施予定。

授業方法

授業方法

全体ディスカッション、チームディスカッション、発表

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ディスカッション、発表、ディベート等のための準備(約3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	85 %	
その他(備考欄を参照)	15 %	ゼミ活動へのさまざまな貢献

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ディスカッションや発表に対するコメントを通して、随時フィードバックを行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630103	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	樋 浩一		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 南1-202		

授業概要

「平成の経済」小峰隆夫著と「日本経済のマクロ分析～低温経済のパズルを解く」鶴・前田・村田著を輪読し、日本経済の課題と対応について各自がレポートを作成する。レポートや資料作成時の情報の出所の示し方など研究倫理を学ぶ。

到達目標

分かりやすく正確な説明が行えるようになる。平成の日本経済の変遷や課題、経済政策の変化を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(本演習の目的、進め方、担当の決定、資料作成に関するガイダンス)
第2回	第1章バブルの生成とその背景
第3回	第2章バブルの崩壊とバランスシート調整問題の発生
第4回	第3章繰り返された財政刺激と金融政策の方向転換
第5回	第4章アジア通貨危機と金融危機
第6回	第5章デフレの発生と金融政策
第7回	第6章挫折した構造改革への挑戦
第8回	第7章小泉構造改革とは何だったのか
第9回	第8章不良債権処理の進展と構造改革の進展
第10回	第9章デフレの継続と量的金融緩和
第11回	第10章政権交代前夜
第12回	第11章政権交代と動き出した民主党政権
第13回	第12章リーマン・ショックの後遺症と東日本大震災下での経済運営
第14回	第13章安倍政権の誕生と三本の矢
第15回	第14章異次元金融緩和の展開とその限界
第16回	第15章これからの経済的諸課題
第17回	終章
第18回	ディスカッション
第19回	序章「課題先進国」としての苦悩とその克服に向けて
第20回	第1章鈍化した経済成長
第21回	第2章大きく変化した日本経済の部門間バランス
第22回	第3章変貌する景気循環
第23回	第4章労働市場からのアプローチ
第24回	第5章企業行動戦略からのアプローチ
第25回	第6章家計の貯蓄率はなぜ低下したのか
第26回	第7章平成の財政・金融施策の機能不全
第27回	終章「低成長・低温経済の自己実現」の打破を目指して
第28回	ディスカッション
第29回	レポート作成に向けて
第30回	振り返りと講評

授業計画コメント

第1回に各回の説明者を決めるので必ず出席してください。

授業方法

担当者による内容の説明と参加者による質疑・意見交換。学年末に各自がレポート作成し提出する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前に全員が本の該当章を読んでおくこと(1時間程度)。説明担当者は章のポイントを説明する資料を作成する。参加者は学年

未提出のレポートに向けて準備を行う

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

説明者の場合には他人にポイントを分かりやすく説明すること。参加者は疑問点が明確な質問や経済学に基づいた議論をすることが重視される。積極的に発言や質問を行うことが重要。レポートは経済学に基づく分かりやすい説明であることがポイント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表、質疑・応答、意見交換については、毎回コメントする。学年末の授業では、全体についての講評を行う。

教科書

平成の経済,小峰隆夫,日本経済新聞出版社,2019,978-4-532-35801-3

日本経済のマクロ分析 低温経済のパズルを解く,鶴光太郎、前田佐恵子、村田啓子,日本経済新聞出版社,2019,978-4532134976

教科書コメント

進捗速度や参加者の意見を勘案してスケジュールは変更される可能性がある。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630104	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	清水 大昌		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 東2-104		

授業概要

発表と議論を通じて演習形式で学習を進める。

到達目標

応用マイクロ経済学、ゲーム理論、そして産業組織の手法を学び、経済現象を理解し、年末のゼミ発表会での発表が出来る程度の分析能力を得ることを目的とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	トピック#1(教員が準備したトピックについて討論する)
第2回	トピック#2(以降、ゼミ生が発表資料を準備する)
第3回	トピック#3
第4回	トピック#4
第5回	トピック#5
第6回	トピック#6
第7回	トピック#7
第8回	トピック#8
第9回	前期インターゼミの準備
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	前期インターゼミ
第14回	まとめと後期に向けての総括
第15回	予備日
第16回	後期インターゼミの準備
第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	後期インターゼミ(1回目)
第27回	後期インターゼミ(2回目)
第28回	後期インターゼミ(3回目)
第29回	インターゼミのまとめと論文作成
第30回	予備日

授業計画コメント

トピック回では、現実の事象を扱い、それが起こる経済学的意味や、それに対する政策の妥当性などについて議論する。議論や分析において必要となってくる、論理学、数学、ゲーム理論、統計学などのツールは必要に応じて説明していく。

授業方法

トピック発表では、発表者は司会に徹して、他のゼミ生の議論を引き出すように工夫をする。インターゼミ発表の準備では、発表に対して、他のゼミ生はコメントを行い、お互いの班の質を高めるようにしていく。どちらにせよ、全てのゼミ生の積極的な発言が求められる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

トピック発表の会では、発表班は準備を行うが、それ以外の人は特に予習をする必要はない。発表の班、またインゼミ発表の準備期間では調査、分析、研究室での打ち合わせなど、その週の空き時間の多く(1~10時間程度)を使うと考えてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	グループ発表

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席はもちろん、毎回の発言内容が重視される。)グループ発表:50%(発表者以外のゼミ生の理解度をどれだけ上げられたかが重視される。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ゼミ生は常に教員と密接に居る機会を与えられることとなります。フィードバックは必要なタイミングで随時行っていきます。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630105	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
副題	経済問題、社会問題のディベート		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	鈴木 亘		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 北1-405		

授業概要

様々な経済問題を毎回徹底的に議論する。2年生演習よりもやや経済学に特化した議論を行う。これは就職活動に向けて、経済学部生として当然問われる内容に対応するためでもある。学生は4チームに別れ、チームごとに活動をしてもらう。毎回、設定されるテーマに対して、チームごとに下調べをし、授業では2チームによるディベート対戦を行なってもらう。ディベートで徹底討論をする中で、経済問題、社会問題への知識や考え方を身に付けることを目的とする。また、後半は行動経済学について学び、現実の社会問題に対して応用することを考える。チームに分かれて調査を行い、発表してもらうことにする。机上の学問だけではなく、実際にフィールドワークとして社会科見学に行くような演習も実施する。

到達目標

自分の考えをしっかりと人前で表現できるようになる。相手の意見を尊重し、多様な価値観、意見を受け入れるられるようになる。経済学の考え方を現実問題に応用できるようになる。経済学を使って調査を実施して、それを人前で分かりやすく報告する能力も身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	ディベート1
第2回	ディベート2
第3回	ディベート3
第4回	ディベート4
第5回	ディベート5
第6回	ディベート6
第7回	ディベート7
第8回	ディベート8
第9回	ディベート9
第10回	ディベート10
第11回	ディベート11
第12回	ディベート12
第13回	ディベート13
第14回	ディベート14
第15回	ディベート15
第16回	調査1
第17回	調査2
第18回	調査3
第19回	調査4
第20回	調査報告1
第21回	調査報告2
第22回	調査5
第23回	調査6
第24回	調査7
第25回	調査8
第26回	調査9
第27回	調査10
第28回	発表
第29回	発表
第30回	発表

授業計画コメント

毎回、旬のテーマを設定するために、事前の計画は決めない。夏休みに宿題(行動経済学の教科書)を出す。

授業方法

チームに分かれた上で、ディベート形式による対戦を行なう。チームに分かれての調査も行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各テーマについての学習を十分に行って、ディベートの用意をしてもらうことが求められる(約1時間)。また、チームごとに調査を実施する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	クラスの参加状況などから総合勘案する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):100% ディベートの参加状況、発言内容を総合的に評価する

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回、授業の最後に講評を行う。調査についても授業中に講評する。

教科書コメント

特に無し。

参考文献コメント

特に無し。

履修上の注意

履修者数制限あり(20名)。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630106	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
副題	統計ソフトを使いこなす		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	田中 勝人		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 西1-205		

授業概要

統計のフリーソフト「Python」を利用して、さまざまなデータ分析を行う。

到達目標

副題にあるように、統計ソフトを使いこなすこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス(授業の進め方、テキストなどを決める)
第2回	Python によるデータ分析(グラフィック)
第3回	Python によるデータ分析(記述統計)
第4回	Python によるデータ分析(推測統計)
第5回	Python によるデータ分析(推測統計)
第6回	Python によるデータ分析(検定1)
第7回	Python によるデータ分析(検定2)
第8回	Python によるデータ分析(回帰分析1)
第9回	Python によるデータ分析(回帰分析2)
第10回	Python によるデータ分析(回帰分析3)
	R コマンドによるデータ分析(回帰分析3)
第11回	履修者による発表
第12回	履修者による発表
第13回	履修者による発表
第14回	履修者による発表
第15回	まとめと振り返り
第16回	Python によるデータ分析(カテゴリカルデータ分析1)
第17回	Python によるデータ分析(カテゴリカルデータ分析2)
第18回	Python によるデータ分析(カテゴリカルデータ分析3)
第19回	Python によるデータ分析(2値データ分析)
第20回	Python によるデータ分析(2値データ分析)
第21回	Python によるデータ分析(プロビットモデル)
第22回	Python によるデータ分析(ロジットモデル)
第23回	Python によるデータ分析(多変量解析)
第24回	Python によるデータ分析(主成分分析)
第25回	Python によるデータ分析(因子分析)
第26回	履修者による発表
第27回	履修者による発表
第28回	履修者による発表
第29回	履修者による発表
第30回	まとめと振り返り

授業方法

統計フリーソフト「Python」を用いた実習および履修者による発表。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の内容を事前に理解すること、およびデータ入力など(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

出席することが最重要である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに対しては、個別にコメントして、改善を図る。

教科書コメント

教科書は第1回目の授業で相談して決めてから当方で準備する。

参考文献コメント

使用する参考書などは当方で準備する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630107	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
副題	データサイエンスの専門家を目指す		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	福地 純一郎		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 5時限 中央-506		

授業概要

ゼミ(演習)では、自立的にデータ分析、統計分析ができるようになることを目的とします。演習(2年生)では、テキストを輪読することによってRの基本を理解し正しいコードを書くことができるように訓練する。Rはデータ分析のための世界標準のソフト・言語である。R言語を使えるようになるためには、論理的に思考し地道にコードを書く練習をする必要がある。

到達目標

各年次の具体的目標は以下である。

2年次：R, Pythonの基本を理解しコードを書けるようになる。R, Pythonを用いて回帰分析をすることができるようになる。

3年次：R, Pythonによって回帰分析などを行うことができるようになる。データ分析のコンペティションに参加する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	テキスト3章
第3回	Rによる回帰分析 テキスト1章
第4回	参加するコンペティションについて意見交換する
第5回	データ分析コンペティション準備1
第6回	データ分析コンペティション準備2
第7回	データ分析コンペティション準備3
第8回	データ分析コンペティション準備4
第9回	データ分析コンペティション報告書作成1
第10回	データ分析コンペティション報告書作成2
第11回	データ分析コンペティション報告書作成3
第12回	データ分析コンペティションの報告1
第13回	データ分析コンペティションの報告2
第14回	データ分析コンペティションの報告3
第15回	まとめと振り返り

授業計画コメント

Rの基礎を身に付けるために2019年度の「経済学特殊講義(Rによるデータ分析)」を履修することが望ましい。

授業方法

主に履修者の発表とRの実習。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストを中心に演習を行うので、予習と復習を行い、Rの基本をマスターすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	データ分析コンペティションの報告書をレポートとみなす
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	出席を重視する
その他(備考欄を参照)	30 %	課題

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題についてサジェスションと評価を書き返却する。

教科書

社会科学のためのデータ分析入門(上),今井耕介,岩波書店

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630108	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	眞嶋 史叙		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 個人研究室		

授業概要

グローバル・エコノミック・ヒストリーを多角的に理解したい学生のための演習です。最終目標として、卒業論文を2年半計画で執筆するために、段階的にグローバル経済と経済の歴史に理解を深め、文章で自己の考えを適切に表現できるようになることを目指します。3年次には、学生ひとりひとりの関心に合わせ、個人研究課題に関わる準備調査を開始し、ゼミ論文の基礎的な骨格を完成させます。まず個人研究課題の第一段階として、文献サーベイを行い、主要文献の見解の共通点・相違点を整理します。またゼミ合宿等の実地体験研修の機会を利用して、実地調査ができるよう、調査計画を立案します。個人課題研究の第二段階として、ゼミ論文の構成案を考え、文献サーベイと実地調査を進めつつ、文献表を作成します。3年次終了までに、ゼミ論文序章を執筆・提出します。一方で、大学祭の場では、3年次には共同出店企画を立案し、2・3・4年生全員の力を結集して実行します。この共同出店企画では、学生が主体的に共同出店計画を立て、チームワークを大切にしなが、販売商品の材料の仕入れ、出店の運営と管理、広報や販売促進活動等を行う方法を学びます。共同出店企画やゼミ合宿等を通じて培われるチーム・スピリッツにより、個人研究課題を進める中でも、共同作業を行なっているという連帯感が生み出され、学生によるプレゼンテーションとグループディスカッションは、より有意義な相互評価の場へと深化し、学生ひとりひとりによる研究推進力と(就職活動でも有用な)プレゼンテーション能力が増強されます。詳細は、以下の眞嶋研究室ウェブサイトを参照してください。

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20070019/index.html>

到達目標

- ・現代と過去の世界経済の発展過程について講義や書籍等で学んだ内容を、ゼミ合宿等の実地体験研修を通じて、身近な問題として捉え直し、そこからの学びを文章や他の表現方法で表現できるようになります。
- ・幅広く徹底的な文献サーベイと、ゼミ合宿等の機会を利用した実地調査を通じて、自分にしか書けないオンリー・ワンのゼミ論文のアイデアを想起し、文章にまとめることができるようになります。
- ・4年次にゼミ論文の本体の執筆と製本ができるよう、その準備として、論文の骨子となる中心的な調査分析を進めつつ、ゼミ論文の序章に充当する、研究動機と研究主題、既往文献の概略、自己の研究の独自性、時代背景等を、執筆することができるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	ゼミ論文の執筆と個人課題研究について: 工程計画立案
第2回	ゼミ合宿における実地調査研究について: 工程計画立案
第3回	共同出店企画とグループワークについて: 工程計画立案
第4回	個人研究課題に関わる主要文献講読(1)
第5回	個人研究課題に関わる主要文献講読(2)
第6回	文献サーベイ・レポートの中間報告(1)
第7回	文献サーベイ・レポートの中間報告(2)
第8回	文献サーベイ・レポートの提出、相互評価、個人研究到達度の確認
第9回	個人研究課題に係る実地調査項目の選定(1)
第10回	個人研究課題に係る実地調査項目の選定(2)
第11回	実地調査より期待される結果の中間報告(1)
第12回	実地調査より期待される結果の中間報告(2)
第13回	実地調査計画案の提出、相互評価、個人研究到達度の確認
第14回	共同出店企画の計画立案とグループワーク役割分担案
第15回	第1学期 ゼミ活動のまとめ
第16回	ゼミ論文の執筆と個人課題研究について: 進捗確認
第17回	ゼミ合宿における実地調査結果について: 進捗確認
第18回	共同出店企画とグループワークについて: 進捗確認
第19回	共同出店企画のプログラム策定・広報活動(1)
第20回	共同出店企画のプログラム策定・広報活動(2)
第21回	大学祭共同出店企画の準備報告(1)
第22回	大学祭共同出店企画の準備報告(2)
第23回	共同出店企画の振り返りと次年度への継承(1)
第24回	共同出店企画の振り返りと次年度への継承(2)
第25回	個人研究課題に関わる論文構成案と文献表作成(1)
第26回	個人研究課題に関わる論文構成案と文献表作成(2)
第27回	ゼミ論文序章の中間報告(1)

- 第28回 ゼミ論文序章の中間報告(2)
- 第29回 ゼミ論文序章の提出、第2学期 ゼミ活動のまとめ
- 第30回 ゼミ論文序章の返却、個人研究到達度の確認

授業方法

個人研究課題に沿って、文献サーベイ、実地調査、論文構成案、文献表の作成を進め、大学祭時にはグループワークとして共同出店を行ない、プレゼンテーションとグループディスカッションを通じて、相互評価を行いながら、自らの考えを精緻化させ、それぞれ授業時間外に論文の執筆を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業時間前に文献サーベイ、実地調査、論文構成案、文献表の作成など、段階的にゼミ論文執筆の準備をしておくこと(4時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	文献サーベイ、実地調査、構成案、文献表:各10%
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	大学祭共同出店への貢献度:10%
その他(備考欄を参照)	50 %	ゼミ論文序章:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

文献サーベイ・レポート、実地調査案、構成案、文献表は、授業時間内に全員でコメント評価を行います。提出したゼミ論文序章には、コメントを付して添削し、返却します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630109	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	三井 清		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 南1-101		

授業概要

参加者は各自で財政に関連したテーマを選択して研究する。

到達目標

参加者は選択した研究の途中経過をゼミで報告する。そして、その報告に対する意見などを参考にして、ゼミ論文に向けた中間レポートを執筆する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	研究成果の報告1
第3回	研究成果の報告2
第4回	研究成果の報告3
第5回	研究成果の報告4
第6回	研究成果の報告5
第7回	研究成果の報告6
第8回	研究成果の報告7
第9回	研究成果の報告8
第10回	研究成果の報告9
第11回	研究成果の報告10
第12回	研究成果の報告11
第13回	研究成果の報告12
第14回	研究成果の報告13
第15回	研究成果の報告14
第16回	研究成果の報告15
第17回	研究成果の報告16
第18回	研究成果の報告17
第19回	研究成果の報告18
第20回	研究成果の報告19
第21回	研究成果の報告20
第22回	研究成果の報告21
第23回	研究成果の報告22
第24回	研究成果の報告23
第25回	研究成果の報告24
第26回	研究成果の報告25
第27回	研究成果の報告26
第28回	研究成果の報告27
第29回	授業のまとめ
第30回	予備日

授業方法

ゼミ参加者が各自のゼミ論に関する報告を行い、その報告について他のゼミ参加者とともに議論をする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各自の研究テーマを報告するときはその報告用資料を事前に準備する(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	発表内容と質問・討論に対する貢献度

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

「平常点」は最後の講義のときに伝える。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630110	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	棕 寛		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 中央-508		

授業概要

第1学期は興味のある国際経済のテーマや先行研究についてグループ毎に調べ報告しつつ、他大学との合同ゼミのためにグループ毎に論文の作成を開始する。適時、統計や回帰分析の手法の取得やデータの取得方法について学ぶ機会を設ける。夏合宿に初稿を完成させ、第2学期にプレゼンの準備をしながら論文の推敲、年末には班ごとに他大学とのインターゼミを行い報告と議論を行う。

到達目標

現実の国際経済現象を議論し、その政策課題を探ることができるようになる。統計データの取得と回帰分析を通じて、実証分析が行えるようになる。多数の聴衆の前でも、円滑で興味深いプレゼンテーションが行えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	研究テーマに関する話し合い
第3回	グループ報告(1):現状分析(その1)
第4回	グループ報告(2):現状分析(その2)
第5回	グループ報告(3):現状分析(その3)
第6回	グループ報告(4):問題点と分析手法の説明(その1)
第7回	グループ報告(5):問題点と分析手法の説明(その2)
第8回	グループ報告(6):問題点と分析手法の説明(その3)
第9回	全体の話し合い(グループ分けと論文テーマの確定)
第10回	グループ報告(7):先行研究の整理(その1)
第11回	グループ報告(8):先行研究の整理(その2)
第12回	グループ報告(9):先行研究の整理(その3)
第13回	論文の中間報告書の提出と議論(1)
第14回	論文の中間報告書の提出と議論(2)
第15回	前期のまとめ
第16回	グループ論文の作成と報告(1):理論分析・実証分析の報告(その1)
第17回	グループ論文の作成と報告(2):理論分析・実証分析の報告(その2)
第18回	グループ論文の作成と報告(3):理論分析・実証分析の報告(その3)
第19回	論文の初稿の提出と議論
第20回	グループ論文の作成と報告(4):政策提言についての議論(その1)
第21回	グループ論文の作成と報告(5):政策提言についての議論(その2)
第22回	グループ論文の作成と報告(6):政策提言についての議論(その3)
第23回	グループ論文の作成と報告(7):論文の貢献点の明確化とまとめの作業(その1)
第24回	グループ論文の作成と報告(8):論文の貢献点の明確化とまとめの作業(その2)
第25回	グループ論文の作成と報告(9):論文の貢献点の明確化とまとめの作業(その3)
第26回	論文の最終稿の提出と議論
第27回	インターゼミに向けたプレゼンテーションの練習(1)
第28回	インターゼミに向けたプレゼンテーションの練習(2)
第29回	まとめ
第30回	東京証券取引所ミニ見学会

授業方法

演習中は積極的な発言が求められる。発言が少ない参加者には、指名の上発言を求めることがある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にグループで十分に話し合いをし、レジュメとスライドを作成した上で報告に望むこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	ゼミでの報告・発言・出席等から総合的に評価する
その他(備考欄を参照)	30 %	インターゼミに向けて作成された論文への貢献度を評価する

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者が報告する形式であるため、発表内容に対して適時コメントする。提出された論文は、添削して返却する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

担当教員の2年次演習参加者のみ履修可能。夏合宿(8月～9月を予定)とインターゼミ(年末を予定)には必ず参加すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630112	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	脇坂 明		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 中央-501		

授業概要

2年で学んだ採用システムから、教育システム、雇用システムとのかかわりを学ぶ。そのなかでグループごとに採用に関するテーマを深掘りする。

到達目標

雇用システムや教育システムについて、ほかの経済学科の学生に説明できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	班ごとのテーマ決定
第2回	教科書の説明と「三つの生き方」
第3回	「三つの生き方」の推計
第4回	中間発表(1)
第5回	日本の働き方
第6回	世界の働き方
第7回	歴史の働き
第8回	中間発表(2)
第9回	「日本型雇用」の起源
第10回	英米との違い
第11回	慣行の形成
第12回	教育システム
第13回	ゲスト・スピーカー
第14回	学期末発表会: 中間発表(1)
第15回	学期末発表会: 中間発表(2)
第16回	民主化と社員の平等
第17回	二重構造論
第18回	高度成長と学歴
第19回	交流ゼミ(1)
第20回	「一億総中流」と格差論
第21回	中間発表(3)
第22回	社会のしくみと「正義」
第23回	雇用システムの国際比較
第24回	中間発表(4)
第25回	交流ゼミ(2)
第26回	ゲスト・スピーカー
第27回	教育システムと雇用システムとの関連
第28回	学年末発表会(1)
第29回	学年末発表会(1)
第30回	理解度の確認

授業方法

教科書の輪読と班ごとの発表の二本立てで行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書を理解できるまで読み込んでおく。

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

班発表についてコメントする。

教科書

日本社会のしくみ, 小熊英二, 講談社, 2019

参考文献

欧州の教育・雇用制度と若者のキャリア形成, 藤本昌代・山内麻里ほか編著, 白桃書房, 2019

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630113	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	和光 純		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 5時限 西2-306		

授業概要

2年次の演習に引き続き、我々の経済社会においてゲーム理論がどのように役立つのかについて、ゲーム理論の基礎的教科書を用いて学ぶ。後半は、インターネット上に公開されている経済ニュースや解説のビデオクリップの中から、調査したい経済事象を選び、疑問点を見つけ、それを調査をし、さらに、その事象に隠れている経済主体間のゲームの状況を見出して、ゲーム理論を用いて分析する。

到達目標

ゲーム理論を応用した比較的平易な経済分析が理解できるようになること。種々の資料や情報の中から興味ある経済事象を選択できること。その経済事象を調査して、経済主体間に存在するゲームの状況を見つけ出せること。そのゲームの状況を、今まで学習してきたゲーム理論を用いて、ゲームとして記述し、分析できること。取り上げた経済事象の実際と分析結果とを比較しつつ、自分の分析を評価し、また、取り上げた経済事象の問題点を考察できること。これらの活動をグループワークを通じて行い、その成果を他者に分かりやすく報告できること。

授業内容

実施回	内容
第1回	今年度のゼミについて
第2回	ダイナミックなゲーム:先読み推論
第3回	ダイナミックなゲーム:部分ゲーム完全均衡
第4回	繰り返しゲーム:囚人のジレンマゲームの繰り返し
第5回	繰り返しゲーム:フォーク定理
第6回	情報不完備ゲーム:完全ベイジアン均衡
第7回	逆選択とシグナリング
第8回	モラルハザード、オークションの戦略
第9回	ナッシュの交渉ゲーム
第10回	ナッシュ交渉解
第11回	交渉の戦略ゲーム
第12回	協力ゲームとその解(コア)
第13回	シャープレイ値
第14回	3人交渉の戦略ゲーム
第15回	進化ゲーム:進化のダイナミクス
第16回	進化ゲームj:進化的安定戦略
第17回	ゲームの実験:最後通告ゲーム
第18回	ゲームの実験:公共財の供給ゲーム
第19回	第1班報告
第20回	第2班報告
第21回	第3班報告
第22回	第4班報告
第23回	第5班報告
第24回	第6班報告
第25回	第7班報告
第26回	第1、2班報告
第27回	第3、4班報告
第28回	第5、7班報告
第29回	第7班報告、まとめ
第30回	自主研究

授業計画コメント

本授業とあわせて、ゲーム理論の授業を履修することが望ましい。

授業方法

前半は、岡田章氏のゲーム理論のテキストを輪読し、ゲーム理論の基礎を学ぶ。後半は、グループワークによる調査、分析、報告からなる授業とする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

前半は輪講形式での演習、後半は調査報告形式の演習を行うため、担当報告グループは、報告用スライドとレジュメを用意すること(6時間)。報告担当でないゼミ生は、報告される章を熟読し質問できるように予習すること(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	積極的な質問、議論への参加
その他(備考欄を参照)	60 %	報告

成績評価コメント

クラス参加、報告、議論への参加を総合して評価するが、積極性を重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業において、意見や報告にコメントを与える。

教科書

ゲーム理論・入門:有斐閣アルマ,岡田章,有斐閣,新,2014,9784641220287

参考文献

フー・ゲッツ・ホワット,アルビン・E・ロス,日本経済新聞社,1,2016,9784532356880

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修生への連絡はG-Portを用いて行う。転送設定を常に最新に保ち、G-Portからの連絡を必ず読めるようにしておくこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630114	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
副題	実証産業組織論		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	西村 淳一		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 5時限 西2-403		

授業概要

実証分析や産業組織論に関するテキスト、その手法を応用した論文の輪読を行う。
また、学生が能動的に活動するためにディベートやグループ研究も実施する。

到達目標

企業経済学や産業組織論に関する知識を身につけ、学生自ら研究課題を見つけ、理論的に考察し、データを用いて実証的に分析するための基礎力と実践力を得ることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	実証分析に関するテキスト:計量分析のエッセンス
第3回	実証分析に関するテキスト:分析の具体例
第4回	実証分析に関するテキスト:因果関係の特定・パネルデータ分析
第5回	産業組織論に関するテキスト:基礎理論編
第6回	産業組織論に関するテキスト:戦略編
第7回	産業組織論に関するテキスト:政策編
第8回	工場見学
第9回	論文報告と考察1
第10回	論文報告と考察2
第11回	論文報告と考察3
第12回	論文報告と考察4
第13回	論文報告と考察5
第14回	論文報告と考察6
第15回	理解度の確認
第16回	グループ研究序論
第17回	グループ研究報告1
第18回	グループ研究報告2
第19回	グループ研究報告3
第20回	グループ研究報告4
第21回	グループ研究報告5
第22回	学内ディベート
第23回	グループ研究報告6
第24回	グループ研究報告7
第25回	グループ研究報告8
第26回	グループ研究報告9
第27回	グループ研究報告10
第28回	グループ研究報告11
第29回	合同ゼミグループ研究発表
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

授業計画は暫定的であり、初回の授業時に授業計画表を配布する。
論文の輪読では計量経済学的な手法を用いた実証分析を行っている論文を中心に取り上げる。

授業方法

輪読形式による報告と議論を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎週テキストを事前に一読し、疑問点をメモしておくこと(約4時間)。
報告担当者は報告資料を用意すること(約3時間)。
自分の報告担当以外でも各自、予習し、質問できるように準備しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト	15 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	55 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

出席は原則として義務とする。無断欠席は許されない。
積極的に発言する学生には高い評価を付ける。
グループ研究の成果は研究レポートとして取りまとめ、評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に報告内容や議論に対してコメントを行う。

教科書コメント

ガイダンスにて提示する。

参考文献コメント

ガイダンスにて提示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630115	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	滝澤 美帆		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 5時限 西1-314		

授業概要

3年次ゼミでは、データ分析の基礎的な手法を学ぶ。また、分析成果をまとめ、効果的にプレゼンを行うための手段も学ぶ。後期に他大学とのインゼミを行い、分析の成果を披露する。

到達目標

RやStataを用いた基礎的なデータ分析ができる。
効果的なプレゼンの手法を理解できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:ゼミの進め方の説明
第2回	ゼミでの心構えを学ぶための輪読1:鶴(2018)性格スキルの前半
第3回	ゼミでの心構えを学ぶための輪読1:鶴(2018)性格スキルの後半
第4回	RやStataを用いたデータ分析演習1
第5回	RやStataを用いたデータ分析演習2
第6回	RやStataを用いたデータ分析演習3
第7回	RやStataを用いたデータ分析演習4
第8回	RやStataを用いたデータ分析演習5
第9回	効果的なプレゼンの手段1
第10回	効果的なプレゼンの手段2
第11回	効果的なプレゼンの手段3
第12回	効果的なプレゼンの手段4
第13回	効果的なプレゼンの手段5
第14回	ミニ発表
第15回	まとめ
第16回	研究テーマ決め
第17回	研究テーマに沿った資料収集
第18回	データ収集とデータクリーニング1
第19回	データ収集とデータクリーニング2
第20回	データ分析1
第21回	データ分析2
第22回	データ分析3
第23回	発表準備1
第24回	発表準備2
第25回	発表準備3
第26回	発表準備4
第27回	発表準備5
第28回	発表1
第29回	発表2
第30回	まとめ

授業方法

グループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:テーマに関連した準備を行ってくること(1時間)
復習:学んだ内容に関する自らの理解度の確認を行うこと(30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ★半期に4回以上欠席した場合はゼミの単位は履修できない。
- ★無断欠席は厳禁とする。事前に必ず教員にメールで連絡をすること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワークについてはその都度コメントをする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630116	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	落合 勝昭		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 西1-107		

授業概要

前期は基本テキストの輪読を行い、環境経済学の理論を理解する
後期は各自の関心に応じたタームペーパーを作成するための報告とディスカッションを行う

到達目標

環境経済学の理論を理解し、環境問題について経済学的手法を用いたタームペーパーを作成する

授業内容

実施回	内容
第1回	演習の進め方についての説明
第2回	輪読とディスカッション(1)
第3回	輪読とディスカッション(2)
第4回	輪読とディスカッション(3)
第5回	輪読とディスカッション(4)
第6回	輪読とディスカッション(5)
第7回	輪読とディスカッション(6)
第8回	輪読とディスカッション(7)
第9回	輪読とディスカッション(8)
第10回	輪読とディスカッション(9)
第11回	輪読とディスカッション(10)
第12回	輪読とディスカッション(11)
第13回	輪読とディスカッション(12)
第14回	輪読とディスカッション(13)
第15回	まとめ
第16回	発表とディスカッション(1)
第17回	発表とディスカッション(2)
第18回	発表とディスカッション(3)
第19回	発表とディスカッション(4)
第20回	発表とディスカッション(5)
第21回	発表とディスカッション(6)
第22回	発表とディスカッション(7)
第23回	発表とディスカッション(8)
第24回	発表とディスカッション(9)
第25回	発表とディスカッション(10)
第26回	発表とディスカッション(11)
第27回	発表とディスカッション(12)
第28回	発表とディスカッション(13)
第29回	発表とディスカッション(14)
第30回	タームペーパー提出

授業計画コメント

分析のために必要な手法については適宜指導を行う

授業方法

参加者によるプレゼンテーションとディスカッション

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表に必要な資料(スライドなど)の作成(2時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

タームペーパー:50%

発表時の資料、発表方法、内容:30%

ディスカッションへの参加状態:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習時間内での評価とタームペーパーの採点・返却

履修上の注意

履修制限あり

第1回目の授業に必ず出席すること

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210630117	科目ナンバリング	021B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(Third Grade)		
担当者名	清水 順子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 西2-505		

授業概要

3年生では、いくつかの課題に向けてグループ学習を行う。1学期は日経学生対抗円ダービー、夏休み前から2学期は日銀グランプリの論文作成準備、その間に他大学とのインカレゼミも横浜国立大学と三大学(武蔵大学と日大)と2つあり、その都度グループに分かれて報告資料の作成とプレゼンテーションの準備を行うため、講義時間以外にもゼミ生同士の活動が必須となる。毎回の講義では、それぞれの課題に向けた報告準備をグループ単位で行い、完成まで協力することで、リーダーシップと協調性を養う。

到達目標

グループ学習では、ゼミのメンバーとの協調性を保ちながら、自分の考えを主張し、グループ学習の成果をまとめることが大切である。課題に向けたグループ学習を通じて、国際金融にかかわる事象を自らの視点で解説する能力をさらに養うとともに、協調性とグループ学習能力を高めることが到達目標です。

授業内容

実施回	内容
第1回	3年生ゼミのオリエンテーション
第2回	日経新聞全国学生対抗円ダービーの準備と報告1
第3回	日経新聞全国学生対抗円ダービーの準備と報告2
第4回	日経新聞全国学生対抗円ダービーの準備と報告3
第5回	日経新聞全国学生対抗円ダービーの準備と報告4
第6回	日経新聞全国学生対抗円ダービーの準備と報告5
第7回	オープンゼミでの学習成果プレゼンテーション
第8回	横浜国立大学とのインカレゼミの報告準備1
第9回	横浜国立大学とのインカレゼミの報告準備2
第10回	横浜国立大学とのインカレゼミの報告準備3
第11回	日銀グランプリ論文の作成準備(過去の受賞論文の分析)
第12回	日銀グランプリ論文のテーマとグループ決め
第13回	日銀グランプリ論文の作成と途中経過報告1
第14回	日銀グランプリ論文の作成と途中経過報告2
第15回	夏合宿の計画作成
第16回	日銀グランプリ論文の作成と途中経過報告3
第17回	日銀グランプリ論文の作成と途中経過報告4
第18回	日銀グランプリ論文の作成と途中経過報告5
第19回	日銀グランプリ論文の完成報告
第20回	三大学インカレゼミの企画
第21回	三大学インカレゼミの報告準備1
第22回	三大学インカレゼミの報告準備2
第23回	三大学インカレゼミの報告準備3
第24回	三大学インカレゼミ大会
第25回	最新の金融情勢に関するグループディスカッションと自己アピール1
第26回	最新の金融情勢に関するグループディスカッションと自己アピール2
第27回	最新の金融情勢に関するグループディスカッションと自己アピール3
第28回	最新の金融情勢に関するグループディスカッションと自己アピール4
第29回	最新の金融情勢に関するグループディスカッションと自己アピール5
第30回	3年生のゼミ活動の総括

授業計画コメント

ゼミの講義はゼミ生を中心に行なわれることを十分自覚して受講してください。

授業方法

毎回の講義では、グループ学習の報告を中心として、皆で質疑応答しながら資料作成能力やパワーポイントの作成の技術、プレゼンテーション能力を養い、国際金融や為替市場に関する理解を深める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

グループ学習は、講義の事前にグループのメンバーで集まり、資料作成や報告の準備を行う(約3時間)。さらに、講義中に受けた指摘や質疑応答をふまえて、内容の改訂を行う(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	グループ学習での報告資料をレポートとして評価する
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	講義中の発言やゼミ活動全般への貢献度を評価する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(ゼミでの発言を重視する。) レポート:50%(報告担当の際の資料作成とプレゼンテーションを重視する。)ゼミでの報告資料、プレゼンテーション、グループ学習における貢献度、およびゼミでの発言などを総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中の報告資料作成、プレゼンについては、皆でディスカッションしながらフィードバックし、報告回数を進めることで報告内容やプレゼンテーションの改良に取り組む。

教科書コメント

教科書は特に指定しない。必要な資料については講義中に指示し、配布する。

参考文献コメント

講義中に適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(20名) / 第1回目の講義に必ず出席のこと。

その他

ゼミナールに積極的、かつ真剣に参加する学生を望みます。毎回ゼミに出席し、4年生のゼミの最後で卒論集を作成するまで参加することが必須条件です。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640101	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	赤司 健太郎		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 個人研究室		

授業概要

ゼミの大きな方針は、日本経済・政策などに関わる時事問題を対象として、計量モデルによる実証分析を習得することである。

到達目標

各自、ゼミ論文を上梓する。

授業内容

実施回	内容
第1回	4年次では、ゼミ論文やデータ分析の指導が中心となる。
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業方法

論文指導

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

先行研究を調べ、データ分析の試行等(約120分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	ゼミ論の審査

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ゼミ論の審査結果を与える。

履修上の注意

履修者数制限あり。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640102	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
副題	歴史的に考える		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	石井 晋		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 西2-205		

授業概要

現代日本経済に関わるさまざまな問題についてのディスカッションと卒業論文の作成

到達目標

説得的なコミュニケーション能力と論理的な文章を作成する能力の養成

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	現代日本経済に関わる問題についてのディスカッション(1)
第3回	現代日本経済に関わる問題についてのディスカッション(2)
第4回	現代日本経済に関わる問題についてのディスカッション(3)
第5回	現代日本経済に関わる問題についてのディスカッション(4)
第6回	現代日本経済に関わる問題についてのディスカッション(5)
第7回	現代日本経済に関わる問題についてのディスカッション(6)
第8回	卒業論文テーマの中間報告(1)
第9回	卒業論文テーマの中間報告(2)
第10回	卒業論文テーマの中間報告(3)
第11回	卒業論文テーマの中間報告(4)
第12回	卒業論文テーマの中間報告(5)
第13回	卒業論文テーマの中間報告(6)
第14回	卒業論文テーマの中間報告(7)
第15回	全体のまとめ

授業方法

ディスカッションと研究発表

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ディスカッションおよび卒業論文作成のための調査(約3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	卒業論文の提出およびゼミ活動への貢献

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ディスカッションおよび発表の際のコメントを通してフィードバックを行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640103	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
副題	卒論集を作成する		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	清水 順子		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 西2-202		

授業概要

4年生の演習では、これまでのゼミ活動で学んだことや自分の進路に合わせて、各自が卒論のテーマを決め、中間報告を通してそれぞれのテーマについてディスカッションしながら、理解を深めていく。卒論は最終的にはゼミ生全員のぶんをまとめて卒論集を作成する。

到達目標

各々の卒論テーマに買わせて学習し、その成果をゼミで報告することで、ゼミ生全員にフィードバックする。この過程において、各自のテーマに関する知識を皆で共有しながら、各自の卒論を完成させることが到達目標である。

授業内容

実施回	内容
第1回	ゼミ生による各自の卒論テーマの発表。
第2回	ゼミ生による卒論の中間報告①
第3回	ゼミ生による卒論の中間報告②
第4回	ゼミ生による卒論の中間報告③
第5回	ゼミ生による卒論の中間報告④
第6回	ゼミ生による卒論の中間報告⑤
第7回	ゼミ生による卒論の中間報告⑥
第8回	ゼミ生による卒論の最終報告①
第9回	ゼミ生による卒論の最終報告②
第10回	ゼミ生による卒論の最終報告③
第11回	ゼミ生による卒論の最終報告④
第12回	ゼミ生による卒論の最終報告⑤
第13回	ゼミ生による卒論の最終報告⑥
第14回	予備日
第15回	全体の講評とまとめ

授業計画コメント

必要に応じて卒論テーマの専門家やOBを講師として招待する。

授業方法

各自が卒論の内容について中間報告・最終報告を行い、それについて皆でディスカッションする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

卒論執筆のための資料検索・データ収集・実証分析など(2時間/週)。卒論の中間報告・最終報告資料作成(3時間/週)
最終的な卒論執筆作業(20時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	各自の卒論報告とその資料を評価する。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	講義中の発言やゼミ活動の貢献度を評価する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

卒論の報告資料・プレゼンテーション・質疑応答、他人の卒論発表でのコメント力、最終的な卒論の完成度をすべてまとめて評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

卒論の中間報告時に参考資料やデータ分析手法、卒論の構成などについて具体的なコメントをして、卒論完成に向けたサポートを行う。

教科書コメント

教科書はない。各自の卒論テーマに応じて、必要であれば適宜指示する。

参考文献コメント

各自の卒論テーマに応じて、適宜指示する。

履修上の注意

必ず各自が卒論を期限内までに執筆し、皆で卒論集を完成させることが履修のための必須条件である。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640104	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	清水 大昌		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 東2-104		

授業概要

発表と議論を通じて演習形式で学習を進める。

到達目標

英文記事の発表や数学・統計学などの様々な問題を解くことにより、社会人として必要なスキルを磨く。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	発表・討論・問題解決
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	予備日

授業方法

3年次までの演習と同じく、グループでの発表・討論となる。問題を解くのは個人単位で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

英文記事については事前に読んでくる必要がある。それ以外の問題については演習内で解く。討論のために事前に発表者が用意する必要がある可能性はある。準備時間は合計1時間程度と考えられる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	グループ発表

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席はもちろん、毎回の発言内容が重視される。)グループ発表:50%(発表者以外のゼミ生の理解度をどれだけ上げられたかが重視される。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ゼミ生は常に教員と密接に居る機会を与えられることになります。フィードバックは必要なタイミングで随時行っていきます。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640105	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
副題	経済学を現実に応用する		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	鈴木 亘		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 北1-307		

授業概要

これまでのディベートの成果として、各自の進路となった業界や自分の将来・人生について、スピーチをしてもらう。プレゼンテーションの訓練にもなる。時に触れて、社会問題として話題の地域にフィールドワークに行き、社会科見学も行う。

到達目標

経済学を現実に応用し、社会問題を解決することができるようになる

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	スピーチ
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	社会科見学Ⅰ
第8回	スピーチ
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	社会科見学Ⅱ
第15回	まとめ

授業計画コメント

3年時にゼミを取っていたメンバーを想定している。

授業方法

各自のスピーチを聞き、質問やディスカッションを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

資料収集などを行う(45分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	出席やスピーチの状況を加味する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

全体の講評を授業中に行う

教科書コメント

特に無し。

参考文献コメント

特に無し

履修上の注意

履修者数制限あり。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640106	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
副題	データサイエンスの専門家を目指す		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	福地 純一郎		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 中央-505		

授業概要

ゼミ(演習)では、自立的にデータ分析、統計分析ができるようになることを目的とします。演習(4年生)では、テキストを輪読することによってPython でプログラムを書き、またデータ分析・予測を行う方法を学びマイナビSignate のデータ分析コンペティションに参加する。

到達目標

基本的な機械学習の方法を学び、適切な問題において予測ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	テキスト「データサイエンティスト育成講座」Chapter 1
第3回	テキスト「データサイエンティスト育成講座」Chapter 2
第4回	テキスト「データサイエンティスト育成講座」Chapter 8
第5回	テキスト「データサイエンティスト育成講座」Chapter 8
第6回	テキスト「データサイエンティスト育成講座」Chapter 10
第7回	データ分析コンペティション準備1
第8回	データ分析コンペティション準備2
第9回	データ分析コンペティション報告書作成
第10回	データ分析コンペティション報告書作成
第11回	データ分析コンペティション報告書作成
第12回	データ分析コンペティションの報告
第13回	データ分析コンペティションの報告
第14回	データ分析コンペティションの報告
第15回	まとめと振り返り

授業方法

主に履修者の発表とPythonの実習。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストを中心に演習を行うので、予習と復習を行い、Pythonの基本をマスターすること。授業1回あたり3時間ほどの準備が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	データ分析コンペティションの報告書をレポートとみなす
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	出席を重視する
その他(備考欄を参照)	30 %	課題

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題についてサジェスションと評価を書き返却する。

教科書

データサイエンティスト育成講座,マイナビ,2019

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640107	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	滝澤 美帆		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 西1-314		

授業概要

4年間の集大成として、培った分析能力を基に、経済データを用いた計量分析を行い、プレゼンをする。

到達目標

データ分析ができる
他者に伝わるプレゼンができる

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション～ゼミの進め方の説明
第2回	RやStataを使ったデータ分析1
第3回	RやStataを使ったデータ分析2
第4回	RやStataを使ったデータ分析3
第5回	RやStataを使ったデータ分析4
第6回	中間発表1
第7回	中間発表2
第8回	中間発表3
第9回	RやStataを使ったデータ分析5
第10回	RやStataを使ったデータ分析6
第11回	RやStataを使ったデータ分析7
第12回	RやStataを使ったデータ分析8
第13回	最終発表1
第14回	最終発表2
第15回	最終発表3

授業方法

グループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テーマに即したデータ分析の手法を予習する(30分～1時間程度)
教員のコメントを受けての修正作業(30分～1時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

★欠席4回以上は履修不可とします
★欠席をするときは事前に教員に連絡をすること

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

それぞれの分析テーマについてその都度教員がフィードバックを行います

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640108	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	眞嶋 史叙		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 個人研究室		

授業概要

グローバル・エコノミック・ヒストリーを多角的に理解したい学生のための演習です。最終目標として、卒業論文を執筆、完成させるために、段階的にグローバル経済と経済の歴史に理解を深め、文章で自己の考えを適切に表現できるようになることを目指します。4年次には、学生ひとりひとりの関心に合わせ、2・3年次に準備的に執筆し、集積した論文の骨子をもとに、個人研究課題に関わる研究調査をさらに進め、ゼミ論文全体を完成させ、印刷・製本します。大学祭の際には、新2年生と協力し合いながら、共同研究の形でポスター発表を完成させるとともに、チームワークを通じて、新2年生に研究調査の進め方を伝授し、同時に研究チーム・マネージメントの方法を学びます。

詳細は、以下の眞嶋研究室ウェブサイトを参照してください。

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20070019/index.html>

到達目標

- ・現代と過去の世界経済の発展過程について講義や書籍等で学んだ内容を、ゼミ合宿等の実地体験研修を通じて、身近な問題として捉え直し、そこからの学びを文章や他の表現方法で表現できるようになります。
- ・幅広く徹底的な文献サーベイと、ゼミ合宿等の機会を利用した実地調査を通じて、自分にしか書けないオンリー・ワンのゼミ論文のアイデアを想起し、文章にまとめ、ゼミ論文に反映させることができるようになります。
- ・下級生と協力して、ゼミ論文の中核部分をポスター発表の形で、完成させることを通じて、チーム・ワーク・マネージメントの方法身につけ、連帯してプロジェクトを達成する喜びを分かち合うことができますようになります。
- ・2・3年次に進めていた論文の骨子となる中心的な調査分析や、すでに執筆していた研究動機、研究主題、既往文献の概略、自己の研究の独自性、時代背景等を序章などに充当して、4年次の半年間で自分だけのオンリー・ワンのゼミ論文を執筆し、完成版を印刷・製本できるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	ゼミ論文の執筆と大学祭ポスター発表について: 工程計画立案
第2回	ゼミ合宿等における実地体験と勉強会について: 工程計画立案
第3回	個人研究課題の選定、共同研究課題への拡張: 工程計画立案
第4回	個人研究課題の進捗報告と共同研究への拡張(1)
第5回	個人研究課題の進捗報告と共同研究への拡張(2)
第6回	大学祭共同研究ポスター発表の中間報告(1)
第7回	大学祭共同研究ポスター発表の中間報告(2)
第8回	議論の整理と中間報告論文の作成(1)
第9回	議論の整理と中間報告論文の作成(2)
第10回	ゼミ論文(前半)執筆報告、相互評価、添削返却(1)
第11回	ゼミ論文(前半)執筆報告、相互評価、添削返却(2)
第12回	ゼミ論文(後半)執筆報告、相互評価、添削返却(1)
第13回	ゼミ論文(後半)執筆報告、相互評価、添削返却(2)
第14回	ゼミ論文完成原稿の提出、2年半のゼミ活動のまとめ
第15回	ゼミ論文完成原稿の印刷・製本、個人研究課題到達度の確認

授業方法

個人の研究課題に沿って、研究・調査・執筆を進め、大学祭時に共同研究発表(ポスター発表)を行ない、最終的には冬休み明けにゼミ論文の完成原稿を提出します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業時間前にゼミ論文執筆の準備をしておくこと(4時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	ゼミ論文中間報告レポート:20%
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	大学祭共同研究でのチームマネジメント:30%
その他(備考欄を参照)	50 %	ゼミ論文の完成原稿:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

大学祭で発表したポスターは、授業時間内に全員でコメント評価を行います。提出したゼミ論文の草稿には、コメントを付して添削し、返却します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640109	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	三井 清		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 南1-101		

授業概要

参加者は財政に関連したテーマを選択して研究する。

到達目標

参加者は選択した研究テーマの研究成果をゼミで報告する。そして、その報告に対する意見などを参考にして、ゼミ論文(レポート)を執筆する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	研究成果の報告1
第3回	研究成果の報告2
第4回	研究成果の報告3
第5回	研究成果の報告4
第6回	研究成果の報告5
第7回	研究成果の報告6
第8回	研究成果の報告7
第9回	研究成果の報告8
第10回	研究成果の報告9
第11回	研究成果の報告10
第12回	研究成果の報告11
第13回	研究成果の報告12
第14回	授業のまとめ
第15回	予備日

授業方法

ゼミ参加者が各自のゼミ論に向けた研究の途中報告を行い、その報告に関して他のゼミ参加者とともに議論する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

報告者は事前に報告用の資料を準備する(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	発表内容と質問・討論に対する貢献度

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

「平常点」は最後の講義のときに伝える。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640110	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	棕 寛		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 中央-508		

授業概要

3年次までの演習で得た知識を活かしつつ、各々の参加者(グループでも可)が興味を持っているテーマ(国際経済に関するものでなくても良い)についてさらに研究を進めることにより、4年間の経済学の学習と3年間の演習活動の総括をすることを目的とする。グループ論文に取り組んだ3年次と異なり、各々のペースと問題意識に合わせて自由に調査・研究報告を行う。

到達目標

経済学に基づいて様々なテーマを分析することにより、独自の意見が述べられるようになる。様々なテーマについて議論する機会を通じて、より多くの知識を学ぶ事ができるようになる。より効果的なプレゼンテーション能力を身につけることが出来るようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス・報告の割り振り
第2回	参加者による報告・ディスカッション(1)
第3回	参加者による報告・ディスカッション(2)
第4回	参加者による報告・ディスカッション(3)
第5回	参加者による報告・ディスカッション(4)
第6回	参加者による報告・ディスカッション(5)
第7回	参加者による報告・ディスカッション(6)
第8回	参加者による報告・ディスカッション(7)
第9回	参加者による報告・ディスカッション(8)
第10回	参加者による報告・ディスカッション(9)
第11回	参加者による報告・ディスカッション(10)
第12回	参加者による報告・ディスカッション(11)
第13回	参加者による報告・ディスカッション(12)
第14回	参加者による報告・ディスカッション(13)
第15回	まとめと総括

授業計画コメント

現実の国際経済問題や興味のあるテーマについて、個人ないしグループ報告を毎回行う。全体参加のイベントや、学外見学会も企画する。

授業方法

各回の担当者(個人orグループ)が10分~15分程度で報告した後、全員参加でディスカッションをする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

報告に当たっては、必ずスライド・レジюмеを作成すること(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	出席・報告・発言等に応じて加点する
その他(備考欄を参照)	20 %	各参加者(あるいはグループ)の調査や報告内容を評価する

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習は参加者の報告がメインであるため、都度報告に対してコメントをする。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修は3年次の演習参加者に限る

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640111	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	田中 勝人		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 西1-205		

授業概要

統計学の基本的な事項を学ぶと同時に統計ソフトを使ってデータ分析を行う。

到達目標

統計学の基礎を理解すること、およびデータ分析の手法を身につけること。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の進め方、内容、テキストの決定など
第2回	Python の使い方: グラフィック
第3回	Python の使い方: 記述統計
第4回	Python の使い方: 推測統計
第5回	確率変数と確率分布
第6回	さまざまな母集団分布
第7回	正規分布の使い方
第8回	標本分布と正規近似
第9回	確率モデルと推定問題
第10回	検定の方法
第11回	Python によるデータ分析
第12回	レポートの発表-その1
第13回	レポートの発表-その2
第14回	レポートの発表-その3
第15回	まとめ

授業方法

テキストに沿って割り当てた部分をレポートする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の内容を事前に理解することやデータ入力など(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートの内容に関しては、個別にコメントして改善を図る。

教科書コメント

教科書は、授業の最初に相談して決めてから、当方で準備する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640112	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	脇坂 明		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 西1-302		

授業概要

働き方について、女性活躍やワーク・ライフ・バランス(WLB)の観点から、ゼミ論文作成に向かう。

到達目標

WLBと働き方についてについて理解し、自らの意見を持ち、自分の言葉で説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の狙い、参考文献の説明
第2回	ゼミ論文作成プロセスの確認
第3回	男女雇用機会均等法, 育児休業法と労働市場
第4回	女性の継続就業
第5回	ポジティブ・アクション
第6回	パート労働者
第7回	派遣労働者
第8回	ゼミ論文中間発表
第9回	ゼミ論文作成プロセスの再確認
第10回	保育所などの経済的支援制度
第11回	アングロ・サクソン諸国の女性
第12回	大陸ヨーロッパ諸国の女性
第13回	ゼミ論文最終発表
第14回	授業のまとめ
第15回	自主研究

授業方法

それぞれの班の独自テーマについてゼミ論文作成の指導を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

班ごとに話し合い、ゼミ論文作成を確実に進めること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	授業時の発表と発言
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

班ごとの中間発表に対して、個別にコメントする。

参考文献

女性労働に関する基礎的研究, 脇坂明, 日本評論社, 2018

ワーク・ライフ・バランス支援の課題, 佐藤博樹・武石恵美子, 東京大学出版会, 2014

国際比較の視点からワーク・ライフ・バランスを考える, 武石恵美子編, ミネルヴァ書房, 2012

履修上の注意

履修者数制限あり。(15名)

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640113	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	和光 純		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西2-306		

授業概要

2年次、3年次の演習を通じて学んだゲーム理論を基礎にして、インターネット上に公開されている経済ニュースや解説のビデオクリップや文献等の情報の中から、調査したい経済事象を選び、疑問点を見つけ、それを調査し、さらに、その事象に隠れている経済主体間に存在するゲームの状況を見出して、ゲーム理論を用いて分析する。最後には、調査レポートを作成する。

到達目標

興味ある経済事象を調査して、経済主体間にあるゲームの状況を見つけ出せること。そのゲームの状況を、今まで学習してきたゲーム理論を用いて、記述し、分析できること。分析結果と取り上げた経済事象における実際を比較して、自分の分析を評価し、また、取り上げた経済事象の問題点と改善策を考察できること。これらの活動をグループワークを通じて行い、調査、分析、考察の成果を、用いたゲーム理論的手法の概説を含む報告書にまとめられること。

授業内容

実施回	内容
第1回	今年度のゼミについて
第2回	調査課題の決め方
第3回	興味ある経済事象の列挙
第4回	調査課題候補の選択
第5回	調査課題候補の概要調査
第6回	調査課題候補の概要報告
第7回	調査課題の決定
第8回	グループ報告(A,B班)
第9回	グループ報告(C,D班)
第10回	グループ報告(E,F班)
第11回	グループ報告(A,B班)
第12回	グループ報告(C,D班)
第13回	グループ報告(E,F班)
第14回	調査概要のまとめ
第15回	自主研究

授業計画コメント

履修者との相談により授業計画を変更する可能性もある。

授業方法

グループで調査、考察して、内容を報告し、質疑応答と討論を行っていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

グループ学習での演習となるため、各グループは、進捗状況を報告する準備と、レジュメを用意すること(6時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	積極的な質問、議論への参加
その他(備考欄を参照)	60 %	報告

成績評価コメント

クラス参加、報告、議論への参加を総合して評価するが、積極性を重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レジュメやスライド、口頭説明、また、報告者以外からの質問について、授業中に逐次、コメントを与えて、より深い理解が得られるようにする。

参考文献

ゲーム理論・入門:有斐閣アルマ,岡田章,有斐閣,新,2014,9784641220287

フー・ゲッツ・ホワット,アルビン・E・ロス,日本経済新聞社,1,2016,9784532356880

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修生への連絡はG-Portを用いて行う。転送設定を常に最新に保ち、G-Portからの連絡を必ず読めるようにしておくこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640114	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
副題	産業、企業と市場の調査		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	西村 淳一		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 西2-403		

授業概要

2年次と3年次の演習で学んだ応用ミクロ経済学の知識を用いて、学生の関心がある産業、企業、市場について自由にテーマを選び報告する。

到達目標

これまでの演習で培ってきた知識を用いて、学生が能動的に調査・研究を進め、論理的かつ明確に説明できるようになることを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	産業・企業に関する報告1
第3回	産業・企業に関する報告2
第4回	産業・企業に関する報告3
第5回	産業・企業に関する報告4
第6回	産業・企業に関する報告5
第7回	産業・企業に関する報告6
第8回	産業・企業に関する報告7
第9回	産業・企業に関する報告8
第10回	産業・企業に関する報告9
第11回	産業・企業に関する報告10
第12回	産業・企業に関する報告11
第13回	産業・企業に関する報告12
第14回	産業・企業に関する報告13
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

授業計画は暫定的であり、初回の授業時に授業計画表を配布する。
3年次から継続して、グループ研究の取りまとめも行う。

授業方法

参加者による報告と議論を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

報告担当者は事前に資料作成等の準備を十分に行うこと(約6時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

出席は原則として義務とする。無断欠席は許されない。
積極的に発言する学生には高い評価を付ける。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に報告内容や議論に対してコメントを行う。

教科書コメント

特定の教科書は用いない。

参考文献コメント

必要に応じて提示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210640115	科目ナンバリング	021B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(Fourth Grade)		
担当者名	落合 勝昭		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 南1-101		

授業概要

参加者の関心のある環境問題について、経済学の視点から分析を行いタームペーパーを作成する。

到達目標

環境問題を経済学の視点から分析するスキルを習得する
環境問題を分析するためにデータを適切に利用、分析できるスキルを習得する
自分の考えをてきせつに表現するためのスキルを習得する

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス(演習の進め方について)
第2回	発表とディスカッション(1)
第3回	発表とディスカッション(2)
第4回	発表とディスカッション(3)
第5回	発表とディスカッション(4)
第6回	発表とディスカッション(5)
第7回	発表とディスカッション(6)
第8回	発表とディスカッション(7)
第9回	発表とディスカッション(8)
第10回	発表とディスカッション(9)
第11回	発表とディスカッション(10)
第12回	発表とディスカッション(11)
第13回	発表とディスカッション(12)
第14回	発表とディスカッション(13)
第15回	まとめ

授業方法

参加者による発表とディスカッションを中心に進め、必要に応じて指導を行う

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表に用いる資料を事前に作成(1時間程度)、授業内容を踏まえて修正・反映(30分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

タームペーパー70%
平常点30%(発表およびディスカッションへの参加状況)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

タームペーパーは講評して返却する

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U210650101	科目ナンバリング	021B401
講義名	特別演習		
英文科目名	Special Seminar		
担当者名	清水 大昌		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 東2-104		

授業概要

発表と議論を通じて演習形式で学習を進める。

到達目標

英文記事の発表や数学・統計学などの様々な問題を解くことにより、社会人として必要なスキルを磨く。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	発表・討論・問題解決
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	予備日

授業方法

3年次までの演習と同じく、グループでの発表・討論となる。問題を解くのは個人単位で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

英文記事については事前に読んでくる必要がある。それ以外の問題については演習内で解く。討論のために事前に発表者が用意する必要がある可能性はある。準備時間は合計1時間程度と考えられる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	グループ発表

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席はもちろん、毎回の発言内容が重視される。)グループ発表:50%(発表者以外のゼミ生の理解度をどれだけ上げられたかが重視される。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ゼミ生は常に教員と密接に居る機会を与えられることになります。フィードバックは必要なタイミングで随時行っていきます。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220108202	科目ナンバリング	022A161
講義名	会計総論 I (法学部・経済学科)		
英文科目名	Accounting I		
担当者名	鈴木 大介		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 西5-303		

授業概要

会計学の基礎概念について学びます。企業の業績を測るために用いられる利益の概念を中心として、企業の1年間の業績を表す損益計算書や財政状態を表す貸借対照表とその作成過程についての基礎的な知識を身に付けます。また、第2学期では、第1学期で学習した内容をふまえ、資本会計や財務分析、監査と粉飾等について学習します。授業内容の進行に合わせて、適宜、直近の新聞記事を紹介し、時事問題を論じます。

到達目標

- (1)企業会計に関する基礎知識を身に付ける。
- (2)会計に関する時事問題を理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション, 会計の目的
第2回	会計基準と会計制度
第3回	収支の期間配分
第4回	利益の認識と測定
第5回	複式簿記(1)
第6回	複式簿記(2)
第7回	原価計算(1)
第8回	原価計算(2)
第9回	資産・負債の認識と測定(1)
第10回	資産・負債の認識と測定(2)
第11回	費用配分のバリエーション(1)
第12回	費用配分のバリエーション(2)
第13回	資本会計(1)
第14回	資本会計(2)
第15回	総括

授業計画コメント

有名企業の事例や新聞記事, さらには, 資格試験の補足もしていければと思います。

授業方法

講義方式(教科書ならびに配布資料を用いて講義を進めます)。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習: 事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと(約30分)。

復習: 教科書ならびに配布資料等を用いて、授業内容を確認しておくこと(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	90 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させます。

教科書

はじめて出会う会计学: 有斐閣アルマ, 川本淳ほか, 有斐閣, 新, 2015, 978-4-641-22061-4

教科書コメント

良書ですので、何度も読み返しをしてほしいと思います。

参考文献コメント

適宜指示します。

履修上の注意

第1学期の授業の内容は、より実践的な内容を学習する第2学期の授業の基礎となります。単位を取得するためにも、しっかりと学習してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220108302	科目ナンバリング	022A162
講義名	会計総論Ⅱ(法学部・経済学科)		
英文科目名	Accounting II		
担当者名	鈴木 大介		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西5-303		

授業概要

会計学の基礎概念について学びます。会計総論Ⅰ(経営学科)の内容を踏まえ、財務分析や連結会計、監査、粉飾会計、ディスクロージャー等について学習します。授業内容の進行に合わせて、直近の新聞記事を紹介し、時事問題を論じます。

到達目標

- (1)会計学に関する基礎知識を身につける。
- (2)会計に関する新聞記事を理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:前期の復習
第2回	財務分析(1)
第3回	財務分析(2)
第4回	CVP(1)
第5回	CVP(2)
第6回	会計単位(1) 連結財務諸表
第7回	会計単位(2) 親子会社間取引
第8回	会計情報の役立ち(1) ディスクロージャー
第9回	会計情報の役立ち(2) 効率的資本市場
第10回	監査と粉飾(1)
第11回	監査と粉飾(2)
第12回	財務報告制度の歴史
第13回	直接原価計算
第14回	理解度の確認
第15回	まとめ

授業計画コメント

会計総論Ⅰ(経営学科)を履修済みであることを前提とする。

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- 予習:事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと(約30分)。
 復習:教科書ならびに配布資料を用いて、授業内容を確認すること(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

解説を行います。

教科書

はじめて出会う会計学,川本淳、他、有斐閣、新、2015、978-4-641-22061-4

参考文献コメント

適宜、指示します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>